

法理學

卷一

14

736



始



寬博士講述

(非賣品)

法
理
學
全

大正十二年度

東京帝國大學

講義



寬博士講述

(非賣品)

理
學
全

大正十二年度
東京帝國大學 講義



14-736

法理學回次

序論

第一門 西洋思潮

第一章 羅馬人ノ思想

第一節 羅馬固有ノ思想

第二節 希臘哲學ト羅馬思想トノ結合

第三節 羅馬哲學

第一款 折衷的傾向

第二款 *Roma* = 於ケル希臘人

第三款 *Lucretius, Cicero*

第四款 *Cicero*

第五款 帝國時代ノ羅馬思想

第四節 羅馬法學

第一款 公法私法ノ地位

一 一 一 一 二 二 三 三 三 三 三 三 三 四 五 五 五

太五十一二平法學大綱

法

學

全

全



廣利士編著

(非賣品)

第二款	万民法 (ius gentium) / 發達	五七
第三款	法学 / 盛時	六一
第四款	法典 / 編纂	六四
第五款	私法 / 体系	六六
第二章	新政治 / 思潮	七一
第一節	中世思想 / 大要	七一
第二節	中世後期 / 思想	七二
第三節	十六世紀 / 思想 (過渡時代)	七四
第一款	古文復興	七五
第二款	宗教改革	七六
第三款	世間生活 / 獨立	七八
第四節	十七、八世紀 / 思想 (自民法全盛時代)	八一
第一款	總論	八一
第二款	十七世紀	八三
第三款	十八世紀 / 啓蒙時代	八九

第一項	概說	八九
第二項	各學說	九三
第五節	十九世紀 / 思想 (史的分期時代)	一〇三
第一款	概論	一〇三
第一項	第十九世紀 / 前半	一〇三
第二項	十九世紀 / 後半	一一二
第四章	結論	一二二

第二門	日本民族 / 根本精神	一二三
第一級	宇宙 / 大生命 (別天神並ニ神世七代 / 神々)	一二三
第一章	大生命 / 性質 (神祕)	一二三
第一節	實有 (實在) (造化三神)	一二三
第一款	有る (天之神中主神)	一二四
第二款	「あらしむる」方面 (皇座靈之神)	一二八
第二節	價值 (別天神 / 一部及神世七代 / 神々)	一三〇

法理學

寬 博士 送

序論

第一學



學ハハ爾ニ
 精密ナル下保ニ連結セラレタル精密ナル智識ノ系統的公一
 ナリ
 分析シテ其ノ要領ヲ説明スヘシ
 精密ナル智識ヲ云フ
 精熟トハ正シキ根柢ヲ有スル智識ノ意ナリ、即チ如何ナル時
 ニモ如何ナル人ニモ通シ如何ナル活動ニモ有效ナル根本意識ニ基キテ存
 在スル正シキ断定ヲ云フ
 蓋シ斯ノ如キ根本意識及断定ハ吾人ノ生活經驗ニヨリテ得ラレハキ意

法理學目次 終り

第一章	有限及無限ノ兩端	一三一
第二章	有限及無限ヲ兼ネタル中程	一三五
第二章	大生命ノ作用(別天神並神世七代ノ神々ノ活動)	一三七
第三明	研究方法	一三八
第一節	實証論主義	一三八
第二節	理想論主義	一四三
第一款	自由理想論	一四四
第二款	客観理想論(汎神論、萬有神論)	一四九

識ニシテ一何ノ自我ノミカ偶然ニ有スルモノヲ指サス。総テノ自我ニ具
リテ普ク存在シ得ル所ノモノナリ。

各何ノ自我カ私有スヘキ意識ニハアラスシテ同一普遍我ノ表現者タル
ニ基キ有セル意識ヲ云フ。故ニ此ノ根本意識ニ基キテ為サレタル断定、
更ニ之ニ根拠シテ精密ニ下サレタル正シキ断定ハ何人ニモ何時ニモ普遍
ニシテ又實際ノ生活活動ニ用ヒテモ常ニヨク事實ニ違ヒ有效ナレトコトヲ
得ルナリ、之ニ反シテ独断ナル空想、迷信ニ基ケル断定ハ皆不精密ナル
意識ナリ、假令正シキ根本意識ニ基クモ其ノ断定ノ方法ヲ誤レルハ亦不
精密ナル意識ナリ。

之等ノ意識ハ或時ニ限り或自然ニ限リテ偶然ニ意識セラル、ニ止マリ
害除ノ生活ニ用ヒテ決シテ有效ナルモノニアラス。此等ヲ尚ホ意識ト稱
スルコトアリトシテモ精密ナル意識即テ字向上ノ意識ニハアラス。

精密ナル意識ハ唯一ヲ要求ス、同一事物ヲ同一方面ヨリ觀察スルニ當
リテ箇々ニ於テ存在スル精密ナル意識ハ相互ニ矛盾及対シツ、ニ以上併
立存在スルコトナシ、之ニ及シ不精密ナル意識及ヒ独断ハ無数ニ存在シ

得ヘク必スシモ唯一ナラス。

全一ノ方面ヨリ見たル場合ニ同一程度ニ付テ存在スル同一事物ノ意識
モ其下精密ナルモノタルトキハ相互ニ矛盾及対シツ、無数ニ存在スルヲ
得、精密ナル意識ハ吾人ニ通シテ唯一ナリ、吾人カ凡テ精密ナリト意識
シ得ヘキモノニシテ單ニ一何ノ自我ノミカ精密ナリト意識セラル、ニ止
マルモノニアラス、然レトモ吾人ノ所謂精密ナリト意識シ断定セルモノ
ハ固ヨリ吾人ノ意識ノミ、吾人ノ主観的範圍ヲ超越シ得タルモノニアラ
ス。

精密ナル意識トハ所謂外物自体 (Being an sich) 其外に出

シタルモノヲ云フニハアラスシテ吾人ノ所謂精密ナル意識ニ外ナラス。

第二、字トハ相互ニ精密ナルニ根拠ナリ。千係ニ連結セラレタル精密ナル
意識ヲ云フ。

精密ナル意識ハ何レモ皆正シキ根本意識ニ基キテ存在スル正シキ断定
ナルヲ以テ同シ正シキ根拠ノ上ニ相互ニ連結セラルヘキ性質ヲ有セリ、
而シテ精密ナル意識ニテモ現ニ孤立スル意識ナラハ尙學タル意識ニアラ

ス。現ニ相互ニ正シク連結セラレテ存在スル精密ナル智識タルニ至リテ始メテ学タル智識トナルヲ得ルナリ。

○ 學ハ本末連結セラレ得ル精密ナル智識ヲ現ニ精密ナル干係ニ連結シタル場合ニ存在スル智識ナリ。

學ハ精密ナル智識ノ連結ヲナシツ、アレ方面ヲ開發シ之ト共ニ其ノ智識ニ益々精密ナル所以根本意識ニ根拠シテ存在スル所以ヲ發揮スルモノナリ。線返シテ云ハハ學タルニハ各種ノ事物ニ対シ各種ノ方面ヨリスル觀察ニ志シ各種ノ程度ニ於テ存在スル多數ノ精密ナル智識ヲ相互ニ精密ナル干係ニ於テ現ニ対立シ拮据セラレテ存在スルヲ要シ其ノ対立及ヒ拮据ノ干係自身モ亦殊ニ精密ナル智識タルモノトス。斯クノ如クニシテ精密ナル智識カ相連結スヘキ性質ニ基キ現ニ直接又ハ間接ニ相互ニ連結ヲナシテ存在スルニ及ヒ其ノ系統的全部ヲ學ト稱スルナリ。

第三、相互ニ精密ニ連結スル精密ナル智識カ系統的ニ統一セラレ、トキ其ノ合一ヲ學ト云フ。

其ノ精密ナル智識相互ニ連結スル精密ナル干係自身モ亦特殊ノ精密ナル

ル智識トシテ全時ニ智識全部ノ系統ヲ成立セシメ、ツ、アルモノ故テ其ノ定義シテ精密ナル智識ヲ系統的的全部ナリト云フヲ得。學ハ多數ノ精密ナル智識ノ系統的全部ナリ。

生活経験ニヨリテ得實際ノ生活ニ普ク有效ナル智識ノ系統的全部ナリ、之ト同時ニ學ハ又吾人ヲシテ誤ナル生活經驗ヲ為シ得セシト吾人ヲシテ、何々ノ精密ナル智識ヲ得セシメ、且ツ之等ト相俟ツ所ノ根本意識ヲ發揮スル智識ノ系統的全部ナリ、從テ單ニ何々ノ智識アルヲ俟テ後ニ單ニ之ヲ配列陳列スル結果存在スルモノナリト誤解スヘカラス。

學ハ精密ナル智識ノ系統的全部ナリ、然レトモ智識ノ対照ノ種類ニ志シテ研究ノ便宜ニ基キ再ヒ之ヲ各部門ニ分ツ、之等ノ各部門モ亦各其ノ対象アル範圍ニ付キ精密ナル智識ノ系統的全部ナリ、自ら系統的全一ナルモ皆之ヲ中心トナシ其ノ背後ニ於テ他ノ統一的全部ト相互ニ密接ナル連絡ヲ有シ帰スル所ハ唯一ノ精密ナル系統的全一ナル學向ニ屬セリ、學ニハ各部門アリ、哲學アリ、科学アリ、各自ラ統一的小全部ヲナシテラ尙常ニ最後ノ統一的全部ト系統ヲ係ナリ。

科学ハ其ノ対象ノ種類ニ從テ其ノ特殊ノ範圍ヲ有スレトモ哲学ハ凡テノ対象ニツキテ之ヲ範圍トナシテ其ノ凡テニ通スル根本意識ノ系統的全部ナリ、而シテ科学ハ已ニ其ノ対象ノ範圍ニ限界ヲ有スルカ故ニ科学ノ各カ学ヲ独占スルモノニアラサルコトハ明白ナレトモ科学ト異ナリ凡テノ対象ヲ包括スル哲学ト異モ尚ホ学ヲ独占スルモノニアラス、哲学即チ学ヲレトモ学ハ哲学ニアラス、哲学モ亦学ノ部門タルノミニシテ哲学カ唯一ノ學向ハアラス、

科学モ亦学ノ一部門ナリ、哲学亦然リ、而カモ各々自己ノ範圍ヲ中心トシテ現ニ他ノ系統的智識ノ全一ト連絡スルモノナルヲ以テ皆各学ナリ、哲学モ即チ学ニシテ科学亦然リ、唯学ハ即チ哲学ニアラス、又一ケノ科学ニモアラス、換言スレハ学ノ各部門ハ学ノ一部ニシテ且其ノ範圍ニ付テハ学ヲ表現スルモノナリ、表現スルモノナルヲ以テ各其ノ余担ノ範圍ヲ有シ唯其ノ範圍ニ付テ学ヲ表現スルニスキサルモノトナヌモノナリ、

第二 法学

学ハ其ノ智識ノ対象及ヒ之ニ伴フ研究方法ノ異ナルニ從ヒ各種ノ科学ニ分類セラレ、之等各科学ハ各自自己ノ範圍ヲ中心トシテ相互ニ連絡ヲ保チ相俟テ統括制ヲ為セトモ合濟ニ各自ニ固有ナル範圍ヲ有シ各別ノ程度ニ付キ特異ナル方面ニ於ケル特殊ナル智識ノ系統の全部ヲナス、サレハ科学ニハ物ニ干スル現象ヲ对照トスルモノアリ精神現象ヲ其ノ対象トスルモノアリ、前者ヲ自然科学ト云ヒ後者ヲ精神科学ト云フ、

精神科学ニハ又個人ハ單純個人ノ心事ヲ中心トスル学ト社会ヲ中心トスル学トアリ、後者中ニハ或ハ社会ノ意識組織ヲ根柢トシ直接ニ之ニ干連スル現象ヲ対象トスルモノアリ、或ハ直接ニ此ノ事項ニ干連セサル事項ヲ対象トスルモノアリ、

法学ハ前者即チ社会ノ意識組織ヲ根柢トシ直接ニ之ニ干連スル現象ヲ対象トスル学ニ屬シ其ノ内部ニ於テ特ニ人格者ノ活動干係ノ認定的規律ニ干スル現象ヲ其ノ対象トスル学ナリ、

法学ハ法律現象即チ認定法上ノ現象ヲ其ノ対象トスル学ナリ、認定法又ハ法律ハ之ヲ種々ニ定義シ得ヘシ、

先ツ根本方面ヨリ客観的ニ觀察スレハ認定法トハ人格者ノ活動干渉ニ付キ天地ノ公道ヲ認定的ニ分析シ在ルカ故ニ愈々在テシメツ、アルモノニシテ其ノ分析セラレタルモノハ系統的全一ヲ云フ、之ヲ主観的ニ見レハ吾人ノ自由自在タル生活カカ已ヲ實現スルニ付キ認定セル経路ナリ、從テ又吾人ハ自己ノ自由自在ノ力ニヨリ吾人ノ認定生活ニ於ケル自由自在ニ根拠ヲ與ヘ自由自在ノ活動ニ利用スヘキ筋道ヲ指示シツ、アル認定カ夫レ自身ト云フヘシ、更ニ認定法ヲ夫レ自身ノ有セル力ノ性質ヨリ卑近ニ解釈スレハ認定法ハ認定的普遍規律意思ナリ、普遍性トシテ有スル認定的規律意思ナリ、普遍意思タリト認定セラレタル規律力ナリ、本末ノ一心同体ノ有セル一心タル規律意思ナリ、而モ本末ノ一心同体ハ社会ノ意思組織ト商レ得サルモノナル故認定法トハ普ク人格者間ノ活動干渉ノ規律タル認定力ニシテ社会ノ意思組織ト共ニ存スルモノナリト云フコトヲ得、而シテ此ノ認定法及之ヲ中心トシテ生ヌ又ハ生ヌヘキ現象ヲ法律現象トシ法律現象ヲ其ノ

対象トスル学ナ即チ法律学ナリ、

法学モ亦各方面ヨリ定義セラレ得ヘシ、即チ法学ハ人類共同生活ニ於ケル天地公道ノ認定的解析トシテ夫レ自身公道ヲ顯現スル（發現並ニ表現）認定力ノ学ナリ、

神隨ヲコトアケセサル公道ノ形式的方面ヲ人格者ノ活動干渉ニ付認定的ニ分析シタルモノニシテ夫レ自身誠ノ形式ヲ顯現シツ、アル認定力ノ学ナリ、人類共同生活ニ於ケル自由自在ノ選擇ニ付キ夫レヘカラサル規範的認定力ノ学ナリ、

法学ハ又認定的普遍規律意思ノ全一スハ一ツツノ性質成立、變更、消滅、種類、形式、效力、実用等ニ關スル精密ナル智識ノ系統的全部ナリ、又人類社会ノ意思組織ト前後ナク相俟テ存在スル人格者間ノ活動干渉ノ邊

*認定的規律ニテスル現象ノ精密ナル智識ノ系統的全部ナリ、
法律ノ対象即チ法律現象ノ成立存在ニハ極メテ手近ニ就テ見ルモノ之レト前後ナクニツノ事實ノ存在スルコトヲ必要トス、其ノ一ハ自我カ自ラ其ノ意思ニヨリテハ他ノ意思ヲ規律シ得ルコトニシテ其ノニハ認定上確定セル

社会意思組織ノ存在セルコトナリ、而シテ法律現象カ少クモニソノ事實ト共ニ存在スルコトハ此ノ法律現象ノ精密ナル智識ノ系統的全部タル法学モ亦之等ノ事實ト相俟テ存在スルコトヲ意味スルモノトス。

第三 法理学

法理学ハ殊ニ法学各部ノ根本ナル智識ヲ精査シ其ノ根本意識タル確信ヲ深カラシメ信仰ヲ推シ広メ法学各部ノ智識ヲ得且ツ之ヲ連結統括スルニ必受ナル根本的智識ノ系統的全部ナリ。

法理学ハ差当リ法律現象及ヒ法律学ヲ対象トナス、然レトモ法理学ハ宇宙凡テノ現象ノ認識ニ基ク有效ナル根本意識ヲ其ノ直接ノ根拠トナシ得ニ法律生活ヨリ得ヘキ生活経験及ヒ之ニテスル智識ニ根拠ヲ安ヘ且此ノ生活経験及ヒ智識ヨリ適テ凡テ宇宙現象ノ認識ニ通シ有效ナル根本意識ヲ鍛錬スル智識ナル故コノ良ニ於テ哲学ナリ。

サレハ法理学ハ其ノ対象ノ範圍ニ於テハ差当リ法律現象及ヒ法学ノ全部ヲ

網羅スルモ其ノ性質ニ於テハ法学の根本意識大レ自身ノ学ニシテ從テ哲学ナリ、從テ法律哲学ノ名称アリ、法律哲学ハ法律現象ノ智識ニ根拠ヲ与ヘ且ツ此等ノ現象ヲ統括スル最高ノ智識ナリ、然レトモコノ最高ノ智識ノ根拠タル意識ハ認識ノミニ基ク断定ニアラスシテ意思及情緒ヲ主トスル生活ニ伴フテ得タル生活経験ニヨル意識目的ノ設定、價值ノ意識ヲ其ノ重要ナル部分トス、但シ法律哲学ハ根本ニ於テ智識ナリ、万般ノ意識ニ根拠シ各般ノ智識ヲ統括スルニモ拘ラス之ヲ最後ノ統括方面ヨリ見ルトキハ常ニ智識タルヲ失ハス、智識タルトモ宛テ最高ノ智識タル故ニ各般ノ意識ニ根拠シ各般ノ意識ヲ統括スルモノトス。

第一門 西洋思潮

第一章 羅馬人ノ思想

第一節 羅馬個有ノ思想

Roma 哲学ハ一般ノ人生觀ヲ所取セリ、希臘人ノ生活ノ理想ニ適セ
ル「ギリシメ」哲学ノ大体ノ特長ハ美的且智識的ナルコトニアリ、

Roma 哲学ノ特長ハ意思的、活動的ナルコトニ存ス、而シテコノ二
ツノコトヲ東ヨリ来レル宗教思想ヲ根柢トシテ大規模ニ人心ヲ支配セント
セシモノハ次期ノ宗教時代ナリ、

Roma 哲学ハ吾人カ意識シツ、目的ヲ設定シテ行動スルコト即チ活
動ヲ其ノ中心トナシ吾人ノ意識中ニ活躍セル良心、理性、自由、義務、
人格、神ノ道ヲ其点トナシ之ニヨリ活動社会ノ智識ヲ組織シ之ヲ実行セム
ト企テタリ、之等ノ意識ハ本ト神ノ顯現者タル吾人カ漏レナク之レヲ有ス
ルモノニシテ之ヲ有セザルハ人ニアラス、

神ノ顯現者タル吾人カ生レテラニシテ一般ニ心ノ感ニ比等ノ意識ヲ固有
スレハ神心靈ニ淵源スルモノナリ、故ニ之等ノ智識ニ基キテ構成セラレタ
ル法、道、制度ハ畢竟神ノ立法セル所ナリ、神ノ是設セル所ナリ、人法モ

亦根源ニ於テハ神法タルカ故ニ神聖ナルモノナリ、

自然科学ニ心解スル自然論者 (Naturalist) 並ニ實証論者ハ Roma
思想ノ價值ヲ認ムルコト少ナキニ決シ *Stoa* 哲学トシテ深遠ナル独断
的思想ナリトナシ且背識ヲ逸失スルモノナリトナス、此ノ説ニ從ハハ先ツ
Roma 哲学、政治学及ヒ法学ノ根源ハ皆 *Greek*ノ思想ヲ採用シ其ノ上
ニ是改セラレタルモノニシテ Roma 哲学著名ナリシ *Cicero*ノ如キモ
Epikouros、*Stoa*、*Karneades* 等徒ノ教理ヲ折衷セルモノニ外
ナラス、 倣劍ノ尖ナシ、

次ニ羅馬人ハ思想上劣等ナリシニヨリ希臘文明ノ襲来ヨリ征服サレシ羅
馬人ハ武カヲ以テ外見上 *Greek*ニ勝テシカ内面ニ於テ全然希臘人ノ思想
ニ打克タレ羅馬人ノ面貌ヲ有シツ、希臘人化シタリト、此等ハ Romaノ
思想ヲ輕視スルモノ、主トシテ説ク所ナリ、

然レトモ羅馬思想ハ希臘ノトハ異ナル思想ニテ貫徹サレ希臘思想ノ缺ヲ
彌補シ之ニ次テ古代ノ一大思潮タルラカハス、固ヨリ羅馬ト希臘トノ間ニ
ハ古クヨリ交通アリ Romaハ絶エス希臘ノ進歩セル影響ヲ蒙レルカ始メ

ヨリ認定ノ精神ニ富ミ法治行政ニ必要ナル特殊ノ趣味カ其ノ思潮ノ重要ナル地位ヲ占メタリ。詳言スレハ *Roma* 人ノ思想ハ哲學的ト云フヨリ *Roma* 人ノ性格ノ顕現ナリ。其ノ氣風ノ單純ナル言現ハシナリ。故ニ支配ノ責任思想カ其ノ根柢タル精神ニシテ意思ノ鞏固、自信、自國擴張ノ意味カ其ノ思想ニ特殊ノ飛達ト形式トヨリ附與シ外來ノ思想ヲ吸收シ之ヲ統括シテ愈ニ其ノ善ヲ長クシメタリ。

第一 *Roma* 人ノ思潮ノ根柢ハ支配ニ責任ノ觀念ナリ。 *Roma* 人ノ精神ノ中心ハ單純ナル精神ニアラス。意思ニアリ。責任心。義務心ニアリ。 *Greeks* ノ得ントスル智識ハ *Roma* ニトリテハ意思活動ニ必要ニシテ意思活動ハ自己ノ責任心ヲ満足センカ為ニ要求セラレ。而シテソノ義務トシテ其ノ責任ヲ全クスルコトニ欠クヘカラサルモノヲ「自己及び其ノ分担スル範圍ニ於ケル支配」トナス。サレハ *Roma* 人ノ精神ノ中心ハ法政上ノ主義ニシテ元 *Roma* ノ家制度ト稱セスニ飛達セシモノナリ。羅馬法ノ長子ハ以上ノ精神ハ *Roma* ノ特殊ナル親族法トヨリナ

Roma ノ法律の國体及ヒ其ノ支配權モ家及ヒ家父ノ支配權及ヒ其ノモノハ自由ト責任トカ擴張セラレシモノナレハ其ノ同一ノ形式ヲ存ス。國体ノ支配權ヲ有スルモノハ其ノ分子ノ活動ノ範圍ヲ定メテ之ニ對シテ絕對ノ權カヲ行フ之等ノ分子ハ絕對ニソノ全部ニ服従スレトモ尚ホ其ノ範圍ニ於テハ實ニ自由責任ノ主体トシテ又絕對ニ其ノ下ヲ支配ス。カク下ハ家長家人ニ至ルマテ教人ノ統治階級ヲナシツ。各々皆自由責任ノ主体ナリ。支配者ナリ。サレハ物ニ對スル占有者サヘモ尚ホ物ニ對スル支配ノ觀念ヲ脱セヌ。最下級ノ人格者ハ少クモ自己及ヒ其ノ有スル奴隸、動物、器具ニ對スル絕對ノ支配者ナリ。 *Roma* ニ征服サレタル國体サヘモ原則トシテ自治權ヲ與ヘラレ自己ノ支配權ヲ有スルヲ常トセリ。故ニ *Roma* ノ社会ハ支配者ニ責任心ト共ニ存在シ人格者ハ即チ支配者ノ義ニシテ目的意思責任並ニ自由ノ組織ト共ニ社会組織ノ経緯ナリ。 *Roma* 於テ目的論的精神崇ヘ機械的社会組織ノ容レラレサリシハ *Roma* ノ哲學ニ合スルモノニシテ又此ノ國古神道ノ精神ニ從ヒ吾カ封建時代ノ社会組織ニ似タリ。國家ハ其ノ分子ニ對シテ絕對ノ服従ヲ要求ス。國家ノ官方及ヒ其ノ他ノ

表現人ハソノ权限ニ付キテハ自由責任ヲ以テ行政表現人ヲ支配シ上ヨリ下
ニ至ルマテ自由人ノ責任ノ觀念ヨリ高レタルコトナシ。 *Republ.*ノ支配的
生活程度ノ嚴重ナリシカハ其ノ長所ナリシハ全ク上下ニ通シテ自由觀念ノ
思想ノ溢レ下ト云モ單純ナル設備又ハ道具タラサルコトヲ意識セシタメナ
リ。人格者ハ即チ法律上ノ觀念トシテ支配者ナリ、自治者ナリ、各人カ現
在ニ於テ分担スル特色ハ衆モ神聖ナリ、供シ人格者ハ支配ニ付キ統括制ナ
シテ存在シ其ノ政治上ノ位置ニ於テ王ノ人格ニヨリテ統括セラル、此等ノ
支配者ハ其ノ最高ナル西権スラ責任ヲ生シ法則ニ從ヒ働クハキモノニアラ
ズ、法則ハ神聖力ナルタメニ人格者ノ自由ヲ害スルヲ得ズ、自由モ法則ニ
元來共ニ神ニ淵源ス、神ハ其ノ法則ヲ凡テノ人格者ニ告知スルモノニシテ
各人必老ヲ勤カスヘカラサル良心並ニ根本意識トシテ有スルモノハ神ノ告
知ニ外ナラス、自由責任ノ意識ハ其ノ重要ナルモノナリ、コノ根本意識ハ
後ノ基督教ノ精神ト合致シ万人ノ一様ニ其ノ心ニ印サレシ其ノ責任心、之ト
稱スルニ存スルソノ法則ヲ前提トシテ其ノ自由支配者タルコトヲ認ムルカ
故ニ其ノ自由ナル支配ハ調和シ卑ノ不道理ニ濫用セラレサルヲ得タルナリ。

一六

之レ羅馬ノ思想カ支配者及七認定ヲ重ニスルニ付キ説キ学者ノ説法ニ似タ
レトモ大ニ之ト趣ヲ異ニスル所以ナリ、而シテ又 *Robinson* 主義カ *Spencer*
哲學ヲ利用シ之ニヨリ益々其ノ法制ヲ發達セシメ得タル根柢ナリ。
第二、羅馬人ノ思想ハ其ノ強固ナル意思ニヨリ其ノ特殊ノ發達ヲ為スコト
ヲ得タリ。
Romans 人ハ其ノ建國ノ初メヨリ其ノ強固ナル意思ニヨリ其ノ統一ヲ完
成セシカ嚴格表面ニシテ柔弱ノ風ナク頑強ニシテ精力勇氣ニ富ミ俗生活
ニ尊重シ人等ニ熟練セリ、サレハアノ上ノ必要カ人ニ法制ノ發達ヲ命担セ
シメタルノミテテス彼等ハ其ノ性格ニ於テ支配者タルニ適シ又法制ヲ發達
セシムルニ適セリ、彼等ハ *Spencer*ノ如ク天真爛熳無邪氣ニアラス、又自
然ヲ崇メ優美、高麗ヲ喜ハス從テ文學美術ニ熟達シ幽玄ナル想像ヲ逞クヌ
レモノト異ナル、彼ハ意思ヲ重シ一度認定セシ目的ハ万端ヲ排シテモ之カ
貫徹ヲ期シ百折シテ挽ムコトナシ、失望、躊躇ヲ卑メリ、彼等ハ認定ヲ重
ンセリ、故ニ一度定メシ人等ノ形式ハ如何ナル理由アルモノニ異ナルヲ好
マス形式的規定ノ法則ハ認定ナルカ故ニ之ヲ遵守スヘキモノトシ其ノ理由

一七

ノ如何、其ノ各自ノ内部ノ要求如何ヲ向ハサレモ、彼等ハ冷靜ナル
ル點セル頭腦ヲ以テ定義、格言、規則ヲ分標シ己ノ需要欲望ヲ制シ其
認定法ノ命スル所ヲ利用シテ自由活動ヲナスアリ、故ニソノ行動ハ自
由ナルモ機械的ナリ、

以上ノ如クナレハ *Spencer* ニ於テ社会教育ノ中心ハ哲学ナリキ、*Roma*
ニ於テ一般ノ道德的教育ノ材料ハ認定法ナリキ、*Spencer* 人ノ外國ヲ征服
スルニ使ヒシハソノ哲学思想ナリ、

Roma 人ノ世界統一ニ付テハ先ツ武力ニ依リテシテ認定法ヲ以テ之ヲ
完成シソノ政略ノ如キモ遂ニ法律ノ後ニカクレタリ、*Spencer* ニ於ケル
ト異ナリ *Roma* 社会ニ於テハ哲学者、文学者、技術家ニ付シテ選才ニ
法律学者カ尊重セラレシモ亦コレカ爲ナリ、

Roma 人ハ個人トシテモ社会全般トシテモ強固ナル意思ヲ有シ統括的、
秩序的、組織的ニシテ實際的応用の才ニ長セリ、ソノ行動ノ標準規律
トナセルハ想像、智識、意見、確信ニテラスシテ規律意思ナリ、一定不
動ノ意思ヲ尺度トシ之ヲ鮮明ニテ無限ノ行動ヲ規律セントセリ、故ニ彼

等、固ニハ勢利ナリナル分析能力ヲ發達セシメ *Spencer* マシテ公利ノ法律

的根柢ヲ探究セシメタルコトハ異ナレル方針ヲトラシメタリ、社会一般

ヲ拘束スルモノ種々ノ規律意思ノ制定方法見ルヘキモノアリ、*Roma*

ハ他國ニ優リ社会ノ意思ヲ統一ナスニ必要ナル意思組織ヲ有シソノ意思

組織ハ社会各般ノ原素ヲ組織シ自ラ認定の普遍的意識ヲ確定セシムルニ

適セリ、元來保守的ナレトモ其ノ中ニ保守ト改進ト自由ト道理ト需要ト

ノ各方面ハ貴族平民ノ争ニ依リ却テ相俟テ發達セリ、

己ニ鞏固ナル意思ヲ有セル個人ノ社会カ又確實ニ定マリ得ヘキ規律普

通意思ヲ認定ス、故ニ一旦成立セル以上ハ客観的ニ改ムルコトヲ欲セス

之ヲ飽マテ發達セントス而シテコノ一貫主義、保守主義ハ認定法及ヒ其

ノ学問ニ發達スル重要ナル一原素タリシナリ、コノ元素欠ク所ナカリシ

故ニ雄大高稚ナル希ノ理想善美ニシテ自然ナル希ノ学問ノ侵入ヲ利用シ

テ古代無比ナル法律其ノ學問ヲ發達シ得セシメタルナリ、自然及理性ノ

ミニテハ哲学ヲ生スヘシクシテ認定法ヲ守ルヲ得サルヘシ、

Roma 人ノ氣質習慣ハ確定セル認定法ノ除外ナキ遂行ヲ要求セリ、自然

ハ認定法ノ道具ニシテ認定法ヲ動かカス力ナリ。論理ハ意思ノ活動ヲ實現
 スル道具ニシテ考フルタメノ形式ニアラス、故ニ自然ヲ參考シテ認定法
 ヲ解説シ論理ニヨリ認定法ヲ分析シ之レヲ運用スルヲ要スレトモ自然ニ
 及スルヲ名トシ論理ニ矛盾スルヲ口實トシテ認定法ヲ忽視スルヲ許サス。
 立法論ト解説論トハ彼等ニトリテ嚴格ナル別ナリ、智識ヲ以テ認定ヲ排
 斥スルハ無氣力強志弱行ノ徒ニ外ナラザリシナリ。
Sophists ハ先ニ

Platon, Aristoteles ニヨリ哲理的ニ排斥セラレシカ *Roma*
 ニ至リ *Roma* 人ノ性格ニヨリ意思ノ權威ヲ以テ破ラレタリ。

羅馬人ノ性格、性質ハ確定セレ認定法ノ永久ナル存続ヲ要求セリ、一
 度火セシ主義規律ヲ再ヒ變更スルハ彼等ノ欲セザリシ所ナリ、故ニ著シ
 ク保守的ナルモ其ノ保守タルヤ無氣力ニシテ進取ノ對象ニ及シキニヨリ
 末レルニアラスシテ其ノ意思ノ鞏固ナルヨリ末レルナリ、自己ノミニノタ
 マニ無事ヲ祈ルニアラス、事新シヤコトヲ為シテ心配ヲ求メンヨリハ固
 執ヲ墨守スルノ安全ナルニ如カストナスニアラス、又ハ先見ノ明ナク茫
 然方向ニ迷ヒ之ノ所ニ停滯スルモノニモアラス、生活活動ノ標準タル認

定法ハ継続的普遍的タルヲ性質トスヘキモノナレハコノ神聖ナル決定ヲ
 変スルヲ嫌フ為ナリ、人間ノ此ノ種ノ決定ハ最モヨク宇宙ノ真正標準秩
 序ヲ表現シ又神ノ命令ヲ表現スルモノナレハ之ヨリ劣等ナル表現者タル
 外界ノ如何個人ノ要求等ニヨリ之ヲ傷クルヲ輕蔑スルカ為ナリ。

羅馬人ノ性質ノ史ハ勤ヲ卑シ不動ヲ尊ヘリ、活動ヲ輕ンスルノ義ニア
 ラスシテ智識、感情ニ從ヒ其ノ意思ヲ變スルヲ欲セサル義ナリ、個々特
 定ニ蔽ハレ普通ヨリ脱出スルヲ好マザルヲ云フ、故ニソノ生活々動ノ標
 準トスル普通規律意思ハ各自主観ノ一時ノ状態ヨリ出ツルモノタルニ拘
 ハラス之レヲ超越シテ客観的形式的ノカトシア外部ニ存在シ純形式の十
 ル文字ニヨリ保証セラレ社会秩序ノ骨子タル普遍的責任及、普遍的制裁
 カハ各個人ノ内部ヨリ齎スルモノナレトモ之ヲ侮レテ客観的形式的ノ力
 トシテ外部ニ存在シ純 *Roma* 人ハ其ノ個々特定ノ存在ヲ以テ普遍的ナ
 ル國家ノ存在ニ讓ラサルヘカヲサルモノトシ個人ノ自由ヲ認ムルニ拘
 ラス尚ホ *Platon* 學派ノ哲理ノ如ク内部ハ本末全部ニヨリテ決定セラル
 ヘキモノナリトセリ。

羅馬人ハ其ノ思想ハ自國擴張ノ主義ニヨリ其ノ特殊ノ表達形式ヲ得タリ
 羅馬人ハ支配ノ方面ニ付キ國家ノ擴張ヲ主義トセリ、之ヲ世界主義ト云
 ヒ得ヘシトセハ單純ナル世界主義ニハアラスシテ國家主義ニヨリ統括セ
 ラレシ特殊ノ世界主義ナリ、之ヲ利己主義ト云ヒ得ヘシトセハ單純ナル
 利己主義ニハアラスシテ國家的利己主義ナリ、故一適當ニ云ヘハ *Ultra*
 李冰ノ説ノ如ク自己及ヒ羅馬ノ支配ヲ擴張シテ羅馬ヲ中心トシタル世界
 的國家ヲ建設セントセルモノ即チ支配ニ付テ國家ノ擴張ナリ、羅馬人ノ
 道德法制ハ一トシテ之ニヨリ影響セラレサルモノナシ

羅馬人ハ意識シテ此ノ大目的ヲ設定シ永久度スルコトナク終始一徹其
 ノ外交主義モ一貫シ内治モ亦不動ノ根柢ヲ得タリ、コノ大目的ヲ達セン
 カ為メニニ度數多ノ國體ニ於ケル小目的ヲ設定シ嚴格ニ之ヲ実行セント
 セリ、コノ莫大希人カ宇宙ノ目的ヲ識別シ之ニヨリ活動セントシ自然ノ
 美ヲ監督シ之レト調和セル生活ヲ營マントスルモノト異ナレリ、サレハ
 羅馬人ハ事物ヲ自然ノ成行ニ放置スルコトナク綿密ナル統括制ヲナセル
 目的ヲ標準トシテ苦闘セルモノナリ、神サヘモ羅馬ニ於テハ希ニ於ル

異ナリ目的ヲ主トシ無事ニ存在スル神ハ羅馬人ノ想像ニ信仰シ得サリシ
 所ナリ、羅馬人ノ神ハ必ス其ノ実行上ノ根柢ヲ有シ全部ノ活動ヲ分擔ス
 ルモノニシテ根柢ノ権化ナリ、大目的ノ人格化シタルモノナリ、羅馬ノ
 國家主義ノ遂行ニ付キ更に加護利益アルヲ信スルカ故ニ尊信セラレタリ
 マノナリ、唯神タルカ故ニ神トシテ尊敬スルニアラス、蓋シ *ROMA*
 人ノ神ハ *Roma* 人ノ氣質ヲ信仰上客觀的ニ結晶セシメタルモノト云フ
 ヘシ、羅馬人ハ其ノ國家ニヨリ世界ヲ征服セント企テ之ヲ中心トシテア
 ラユル目的ヲ設定セリ、此ノ目的ヲ設定スレハスル程愈々羅馬人ノ特異
 ヲ保存スルニトテ要シ他國ヲ同化シ異人種ヲ濟度シ外國ノ文化ヲ輸入シ
 一切ヲ支配セント企ツル利益々々羅馬人ノ自性ヲ保持シテ動カサルヲ要セ
 リ、コノ困難ニ克ツテ得テ特殊ノ政治ヲ確立シ法制ヲ立テシハ *Roma*
 人ノ偉業ニシテ其ノ之ヲ全フセル所以ハ其ノ進歩セシ開化ノ意向ニアラ
 スシテ彼ノ性格ニアリテ存ス、

羅馬人ハ其ノ自戒ノ支配ヲ擴張シ國家ノ支配ニ及ボシ之ヲ擴張シテ世
 界ノ支配ノ目的ヲ設定シ之ヲ遂行シタルカ其ノ固ノ特性ヲ失ハス已ノ権

假ラ世界ノ總攬者ノ範圍ニ括メントセリ、然シコノ國家ト世界トノ千係
ハ *Roma* ノ何人ト *Roma* 國家トノ關係ハ異ナル、羅馬ノ何人トシテ
ハ名譽心ニ富ミ信心ノミナラス愛國心ニ富ミ國法ヲ嚴守シ勇氣ニシテ皆
已ラ犧牲トシ其國家ニ對スル義務ヲ行フヘキモノト心得テ各人ハ國家ノ
全部ニ於テ各其ノ分ニ盡シテ支配スルコトヲ主義トセシカ *Roma* 國
ハ率先シテ他ノ民族ヲ征服シ此等ヲ支配スヘキ義務ヲ有スルモノト認定
セラレタリ、此ノ精神ハ原極端ニ基督教ニ現ハサレ博愛ヲ標榜シナカラ
自己ノ欲ヲ以テ一切ノ信仰ヲ征服セント企テツ、予リ、基督教徒ハ信仰
ノ爲メ心身命ヲ捨ツルヲ潔シトスレトモ終始一貫基督教ノ強斷形式ヲ勤
カサス、之ヲ世界ニ強ヒ一切ノ教ヲ總攬セント欲スルナリ、中世ノ羅馬
教會ハ此ノ意味ニ於テ西方世界ノ統一ヲ實行シ今日ノ羅馬教ニ此ノ意味
ニ於テ超國民的ノモノトス

第四、羅馬人ノ思想ハ自信ニヨリ其ノ特殊ノ發達ヲナスヲ得タリ、羅馬人
ハ強固ナル意思ヲ有シ又其ノ國家ノ擴張ヲ遂行セント期セシカ著シク自
信ノ心ニ富ミシカ故ニ度量ニシテ喜ンテ其ノ矛盾反對ヲ迎ヘ之ヲ統括ス

ルヲ樂トセリ、強固ノ意思ヲ有シ其ノ目的ヲ遂行セントスルモ其ノ自信
ニ欠クル所アラズ、往々反對カヲ嫌惡嫉視シ由己ノ專制ノミヲ希フモ、
ナルカ *Roma* 人ハ其ノ苦闘ヲ以テ其ノ自信ヲ強メ其ノ性格ニヨリ益々
矛盾反對ヲ統括スルコトヲ以テ却テソノ誇トセリ、各種ノ矛盾反對ヲ世
キタル人格ニ統一セントスル *Stoa* 學說カ *Roma* 人ノ心所ニ適セシ
ハ故ナキニテラス

Roma = 於テハ凡ニ君權政治ト共和政治トノ争及ヒ貴族平民ノ止
ミテキ反對アリ、貴族側ヨリ成立セシムル官庁役人 *Magistratus* ト平
民側ノ *Tribuni Plebis* ト貴族側ノ *Senatus* ト平民側ノ *Comitia Centuriata* 及
Comitia Tributa トハ相對抗セリ
人民ハ其ノ自由ヲ專ヒ自ラ官職ヲ重シ民權主義タルト共ニ官庁ノ權利
行動ノ自由ハ著大ナリキ、要ハ自治的性質ヲ有スル國體ニシテ自由ヲ有
スレトモ *Census* ハ家ノ如何ナル秘密ヲモ露クヲ得タリ、
而シテ *Roma* 人カ何人ノナルト共ニ又強ク全部ニ拘束セラレツ、

アルハ終始愛ラサル所ニシテ彼益其ノ版圖ヲ広ムルト共ニ國內ト外國ト
ノ対立ハ着大トナリ実行の道德的ノニ原的対立激烈トナリヤラシキ
*Justitiam, jus Civile*ノ如キ認法ノ大規模ナル対立ヲ生スルニ
至レリ、而シテ有必ナル *Res Publica* 法ハ之等ノ矛盾及対ヲハ彼等ノ素願ニ
ヨリ統一セシメタルニヨリ確定セラレタルモノナリ、平和ノ賜ニハ丁ラ
ス、皆患難苦闘ノ結果ナリ。

第二節 希臘哲學ト羅馬思想 トノ結合

羅馬人ノ思潮ハ彼等ノ性格ノ溢出シテ其ノ性格ハソノ支配心、責任心ニ
大ニ富ミ強固ナル意思ト國家擴張主義トニヨリ社会ノ勢力秩序及ヒ統一ス
ルヲ保持セリ、而シテゴノ勢力秩序統一ハ彼等ノ奮闘ニヨリ益々發達セリ
羅馬人ニ尊フヘキモノハ重要ナル人類ノ根本意識タル責任心ト上ニ有スル
強固ナル意思ニアレトモ之ヨリ尚ホ貴フヘキハ其ノ宏量ニシテ已ニ牙齋及

討スル原素ニ歡迎セシ羅馬魂ナリ、而シテ其ノ最大特徴トスヘキハ意思
ニアレサル正義公道ヲ思フ存分ニ採用シ彼等ノ根本意識及意思ニヨリ之
ヲ統括シ得タル事實ニ存ス、責任支配等ノ意識ニ長シ強固ナル意識ヲ有
セシ民族ハ羅馬人ノミニ限ラス、ヨク奮闘セシモノモ亦 *Roman* 人ノミ
ニテハアラスシテ尚ホ *Roman* 人ノ此ノ精神カ世界ニ卓越セル所以ノモ
ノハ實ニ古代ノ精華タリシ希臘哲學ヲ包容シ得タル故ナリ、而シテ羅馬
人ノ固有ノ思想ト相協ヒ尤モ手近ニ之ニ哲理的根柢ヲ與ヘ長ク *Roman*
人ヲ支配セシモノハ *Stoa* 哲學ニシテ之ヲ緣トシテ羅馬人ハ次第ニソ
ノ高尚ナル希臘哲學ニ接近スルヲ得タルモノナリ、*St. B. C.*ノ半ハ
Greek カ *Roman* 人ノ武力ニ服スルト共ニ希臘哲學ハ抵抗スヘカラサ
ル勢ヲ以テ *Roma*ニ侵入シ羅馬ノ文化ト融合スルニ至レリ、希臘思想
ノ發未ハ羅馬固有ノ思想ヲ崩壞セシコトナリ、之ヲ擴張シ其益ソノ發達
ヲ助ケ之ニ必要ナル材料ヲ供給セシナリ、
羅馬人ハ「ギリシヤ」哲學ニ於テ發達シタル宇宙ノ概念ノ規則正シキ
コトノ意識等ヲ容ル、ノ素地アリ、又自己ニ矛盾及対スルノ元素ヲ統括

スルノ宏量勢カアリシノミナラス、其ノ国家的支配權ヲ擴張シ其ノ活動
ヲ大規模ナラシムルタメニ勢ヒ偶然ナル權力任意ナル自由等ノ概念ニ執
着スルヲ許サス、愈々之等ノ公ノ理法善美ヲ採用セサルヲ得サルモノナ
リ、而シテ進ンテ自ラコノ大義務ヲ遂行シ得タリシハ羅馬人ノ性格ノ偉
大ナルヲ証シ其ノ世界ヲ統一シ又長ク將來ヲ支配スルヲ得タル最モ大切
ナル理由ナリ、之レ明カニ詭弁論者ト羅馬人トヲ區別シ得ル所以ナリ、

第一、*Roma* 人ハソノ支配ノ範圍ヲ擴張シ *Italy* 境ヲ越エシヨリ
統一ノ必要ヲ感シ次第ニ希臘人ノ思想ヲ採用セサルヲ得サリキ、殊ニ
自信ト宏量ト強固ナル意思トヲ以テ其ノ支配ヲ地中海沿岸一帯ノ地ニ
及ホシ取ヲ其ノ当時ノ全世界ニ普ク注キテ宇宙ノ支配者宇宙ノ組織如
何ニ思ヒ到ルヘキハ明カナリ、然ルニ希臘人ハ已ニ此ノ智識ニ付又自
己ノ精神理想ヲ宇宙ニ拡張シ道徳法則ヲ中心トシテ人ト神ト何物ト守
衛トノ合一ヲ企テシモノナリ、サレハ人格ノ完成擴張ニ付キ羅馬人ノ
意思ト希臘人ノ智識トヲ結合スルニ至リシハ決シテ偶然ト云フヘカラス、
羅馬人ハ程ナク本國語ト保ヒ *Greek* 語ヲ必修シ *Roma* ノ支

配心、責任心其ノ意思主義ヲ尊重シナカラ盛シニ *Greek* ノ進達ナル哲
理ヲ学ヒ羅馬本國ノ莊重ニ嚴格ナル体裁ヲ大ハスシテ希臘ノ優美莊嚴ナル
理想ヲ容レ高麗麗妙ナル凡ヲ採用セント努メ *Roma* 人ノ主觀主義、個
人主義及ヒ特色ノ神聖ナルヲ保持シツ、希臘ノ哲理主義ニ普遍主義ヲ模
範トシ各個人ニ生シ易キ偏僻ヲ離サント努メタリ、

第二、希臘哲学中ニテ智識論的ニ羅馬固有ノ思想ノ導フヘキヲ認メシハ懐
疑論ナリ、懷疑論ハ智識學向モ亦吾人ノ智寛、思ヒ付キ、感想ヲ商レテ
其ノ以外ニ存スルコトナク主觀的ニ意識ナキモノニハ知覚モ感覺モ之ヲ
ルヲ得サレテ論シ却テ公平ニ万般ノ主觀狀態ヲ是認シ主觀生活即チ活動
ニ復帰スヘキヲ冀ムルモノニシテ羅馬人ノ支配心責任心則チ主觀的觀念
ヲ是認シ其ノ不動ノ意思生活ニ賛成セシモノナリ、風俗、習慣、認定法
ノ重シクヘキコトヲ説ケルモノナリ、

第三、此ノ懷疑論ト共ニ實習ヲ主トスレトモ尚ホコノ學派ト反対ニ知覚智
識ノ真ナルコトヲ信スル *Epicurians* 學派ノ説 *Stoa* ノ説モ直接ニ
Roma 人ヲ支配シタリキ、而シテ實習ノ目的ニ付テハ *Epicurians* 派
ニ在リ

説

正反對ノ見解ナル *Stoa* ハ最モ *Roma* 人固有ノ思想ト一致シツ、又最モ異レル李説ナリシヨリ大ナル影響ヲ *Roma* 人心ニ與ヘタリ。

Stoa、*Roma* 固有ノ思想ニ似タル人格者ノ要素ハ責任心ヲ中心トシ其ノ不動ノ意思ヲ重シシ各自ノ自衛及支配ヲ求メ相互ニ他人ノ权限ヲ尊重シ全部カ部分ニ対スル統括カヲ絶対トシ更ニ各自ノ支配ヲ拡張シ自家ヲ世界ニ拡張セシムヘキモノト説キ此ノ主義コノ目的ヲ貫徹スルタメニハ手段ヲ迷ハス良シト認メラル、アラユル理論手段ヲ採用セントシ從テ共ニ着シク折衷的性質ヲ帯ビシニアリ。*Stoa* ノ *Roma* 固有思想ト異レル点トハ *Roma* 人ハ道理ヨリモ認定ヲ重シシ公道ヨリモ人爲ノ形式ヲ重シシ大体ニ於テ客觀的觀念ヲ否定シ主觀的觀念ノミニ偏ル傾ク有スルニ *Roma* 是於テハ神即チ大道即チ理法則ヲ理性ナリトシ自然ノ事物ハ皆コノ神コノ大道、此ノ理法理性ノ顯現ニ外ナラストシ人間ノ偶然ナル形式ヲ去リテ自然ニ復帰スヘキヲ唱ヘ主觀的觀念ニ加フルニ客觀的觀念ノ根柢ヲ以テセント努メシニアリ。

此説ニ *Stoa* 李説モ *Roma* 人ハルヤ公道理法ヲ以テ次第ニ *Roma*

人ノ窮屈偶然ナル形式ヲ補ヒ其ノ責任心、支配心ヲ保証スルニ哲理ヲ以テ益々之レヲ助成セシメタリ。

Roma ノ思想並ニ法則カ田舎ニ融合スル形式ト良心、責任心、正義心トヲ併セ金フセシモ之カ爲メナリ、後世羅馬ニ於テ認定法辭狀ノ李向ヲ承遺セシメ一方ニハ嚴格ナル形式ヲ固守シツ、他方ニハ生々々々良心、責任心、正義心ノ満足ヲナシ得ルニ至リシハ *Stoa* 學徒ノ哲理ノ共ニタル效果ナリ。*Roma* 人ハ飽クマテ其ノ認定法ヲ貫徹セントシ又極メテ保守的ナリ、故ニ此ノ形式ヲ要守シツ、尚ホ *Stoa* ノ要求ノ如ク日進月歩ノ事情ニ應ジ人身内部ノ深キ意識ヲ満足セシメ公道理法ニ固スルカ如ク認定法ヲ辭狀適用セントスルニハ認定法法術 (*Realistik*) 遂ニ法学ノ發達ヲ必要トセシメタリ、窮屈ナル疑念不動ノ認定法ヲ其ノ終ニシテオキ返回又ハ機制ヲ用ヒ其ノ性質ヲ伸縮自在ニ恣然ニナラシムル術及ヒ李向ヲ承遺セシムルコトハ政治ヨリモ政策ヨリモ認定法ヲ重大ナルモノトセシ時代ニ至リテハ益々大切トナリタリ、而シテ率先シテ之レヲ助ケタルモノハ *Roma* ノ *Stoa* 學派ナリ *Roma* 法ノ生命タル

其ノ世界的ナル点共ノ伸縮自在ナルコトハ實ニ *Stoa*ノ公道理法及世界
 心並ニ忠親主義ニ根柢ナル生々タル主觀ニ念ニ爾ヲ所莫大ニシテ急激ノ
 改正ヲ許サレサリシ *Roma* 法律カ大成セラレ結果セラルハニ至リシ迄
 ハ多大ノ日月ヲ要センモノニシテ決シテ一朝一夕ノ事業ニハテサリキ
 第四 宙ニ *Stoa* 學派ノ哲理ノミナラズ *Roma* 人ハ一教ニ希人ノ生理
 的思想ヲ採用セシカ結局ニル所尚不 *Roma* 人トシテ其ノ支配ノ意識
 ヲ最高統括方面ニ置キタリ *Roma* 人ニ此ニルニ希臘人ハ宇宙ヲ支配
 スル神ノ意識ヲ認メサルニハアラサルモノノ客觀々念ニ熱心ナリシ結果
 ハ實ニ道理並ニ理法ヲ重シ或ハ神ヲ以テ道理トナシ或ハ神ノ代リニ *Nat-*
us (*Stoa* 學派) スハ *Logos* (理法) 體體ニ認メ宇宙ノ神ノ自由ナル
 支配者タルニトテ極ク視タリ *Roma* 人ハ之ト莫ナリ支配ノ意思ヲ以
 テ神ヲ絶括ノ精神ヲ以テ溢レタリ、故ニ *Stoa* 思想ノ *Roma* 人
 入ル *Roma* 人ハ希臘ノ宇宙ヲ以テ人格者ト同視シ道理ノ概念ト絶括
 カノ概念トヲ結合セシメ統治者ノ概念ト統括意思ノ概念トヲ結
 合セシメ著ク權力ニ普遍ノ性質ヲ具ヘ規律意思ニ埋タル意思ノ性質ヲ具

ハタリ、而モ *Roma* 人ハ尚ホ此ノ普遍的權力規律カヲ之ニヨリテ支配
 セラル、何人ノ人格ヨリ分離シテ超越的ノモノト看做スコトニ確キシマ
 ノニシテ *Roma* 人カ形式的ナルタケ此ノ点ハ希臘人ニ於ケルヨリ一
 層明白ニ現ハル、サレハ *Roma* 人ハ遂ニ統治者トシテ神ヲ見レトモ世
 界ヲ見ズ、君主ヲ見ルモ國體大自身ヲ見ズ、國權ト其表現人ノ主体トハ
 尚之ヲ混全シツ、アリタリ、後代 *Roma* 皇帝カ代々其ノ権力ヲ私スル
 儀アリシモホカ為メナリ、此思想ハ近世ニ至リ此ノ依復活セラレ專制
 同時代ノ國法ノ精華トナレリ、

第三節 羅馬哲學

第一款 折衷的傾向

希臘哲學思想ノ侵入ニヨリテ大成セラレタル *Roma*ノ思想ハ實際的所
 衷的ナリ、其ノ應用ニ於テ見ルヘキモノハ政治論ニ法律學ナリ、此ノ政

治論法律論ハ現今ノ政各因アルヲ改セシ原因ニシテ多大ナル参考トナスハ
 キモノナレトモ夫自身ハ又現今ノ事説以上ニ優越シタルモノニアラス、此
 等事説ノ基礎ニシテ *Roma* 哲学ハ健全雄偉ナル精神ノ存セサルニハアラス
 レトモ創設カト一貫シタル体系トヲ具備セズ折衷的ノ誹ヲ免レス事向ノ組
 成トシテハ直チニ万世ノ模範トナスヘキニハアラス *Roma* 哲学カ永久ハ
 向思想ノ標準トナレル希臘哲学ニ及ハサル上ニ *Roma* 思潮カ不当ニ整ン
 セラル、所以ハ實ニ此ノ真ニアリ、尚ホ當時ノ *Roma* 哲学一般ノ状況ヲ
 省クニ *Roma* 輸入希臘各派ハ皆申シ合セタル如ク實際ノ生活々動
 ヲ中心トナシ且大抵折衷主義ノ色彩ヲ帯フルニ至レリ、

第五 *Akademie* 学派 (*Platon*) *Stoa* 学派及ヒ逍遥学派 (*Aristoteles*)
Platon 先ニ *Roma* 未リシ事ニ *Academy* (*Platon*) *Karneades* ハ活動ヲ中心トセルカ故ニ始メ
 ヲ智識ノ蓋然性ヲ是認シ得ノシトナシ蓋然ノ階級ヲ授ケ令ケタリ、
 第六 *Akademie*, *Platon* モホ之ヲ敷衍シタリ、*Athenae* ニテ
Cicero ノ師タリシ第五 *Akademie*, *Antiochos*, *Karneades*

カ智識ノ蓋然性ヲ断定シ其ノ階級ヲ判別スルヲメニ原則ヲ立テタルヲ評シ
 テ智識ノ信ト妄トノ蓋然ト否ト同様ニ之ヲ断定シ進シトナシ感覺ハ吾人ノ
 主観内部ニ於ケル變化ノ印ニ他ナラストシ尊口各派ノ哲学ヲ比較シ其間ハ
 用語及ヒ説明ノ形式ノ異ナレル所ヲ捨テ相互ノ精神ノ合一スル所ヲ探リ生
 活々動ニ対スル客観的ノ標準ト爲サントセリ、恰モ當時ハ、新舊の哲
 学各派カ相互ニソノ矛盾ヲ和ケ優劣ナリシ懷疑論ニ對抗スルニ必要アリシヲ
 以テ次第ニ合同スルニ必要生セリ、*Roma* *Stoa* 学派ノ *Panathais*
 及 *Posidimius* ノ如キハ殊ニ *Antiochos* ノ主義ニ接近シ来レルモ
 ナリ、

斯クノ如クニシテ成立シタル事説ニハ自己ノ統一セル根拠及ヒ其上ニ存
 スル一貫セル系統ヲ欠キタリ、又創見アルモノニモアラスシテ根本的ノ差
 違善悪ヲ違ハス主トシテ *Platon*, *Aristoteles* 及ヒ *Stoa* 共通ナル
 結論ノミヲ採リテ細エヲナセルモノナリ、コノ試ハ之レヲ善悪ニ考フレハ
 實ニ懷疑論ヨリ出来シ主観ヲ念ヲ拡張シテ客観ヲ認マントスル萌芽ナ
 ルモコノ研究ノ尚ホ未タ進マサリシ諸々学説ト根本的融合ヲ欠キタルノ故

フ以テ僅カニ折衷ニ移リタルモノトス。 離テ *Roma* 社会ノ要求ヲ見レハ
 其ノ傾向上ノ志アル *Roma* ノ青年学徒ハ思想混乱ノ中ニアリ何レモ安心
 シテ生活々動ヲナシ得ヘキ確立不動ノ確信ヲホムルニ急ナリシカハ先ツ各
 派ニ共通ナル長所ヲ採選スルハ最モ早キ道ナリキ。 殊ニ一方ニハ古来ノ窮
 屈保守ナル *Roma* 宗教カ其ノ真面目ナル权威ヲ失ヒ他方ニハ国家ノ支配
 ヲ世界ニ拡張シタル故ニ確實ニ全国ニ通シ之ヲ統一スヘキ新ナル活精神ヲ
 求メサルヲ得サリシモノニシテ先ツ之ヲ哲学ノ中ニ求メント試メリ。 *Cicero*
Cato ノ如キハコノ要求ヲ充サント苦心シタル大立物ナリ。 然レトモ如何
 ニ各ノ哲学ノ共通ノ点ヲ挨拶抽象シテ卑近の哲理ヲ以テシテハコノ大要求
 大目的ニ副フコト能ハサリキ。 此ノ際向ラ違フテ此ノ使余ヲ取ラシ遂ニ
Roma 帝国自身サヘモ押シノケテ最後世界ノ人心ヲ奪ヒ其ノ悉皆ニ牢乎
 メル信仰心ヲタノセシメタルハ「キリスト」教ナリ。

第二款 *Roma* = 於ケル希臘人

第一 *Parvitiis*、*Panvitiis*、*Logos* 此ノ *Stoa* 学徒ニシテ
 長ク羅馬ニ在留セリ。 *Stoa* ノ学徒カント親和カヲ有セシ *Roma* 古
 来ノ思想ト結合シテ甚タシク世界的折衷の性質ヲ帯フルニ至リシハ *Pa-*
rvitiis、*Roma*、*Stoa* 学徒ニシテ
Praxiteles、*Rome* = 於テハ *Roma* 固有思想ニ動カサレ新 *A-*
cademic、*Karneades* ノ影響ヲ受ケテ益々認定ト意思及人格ニ其
 ノ主カヲ集中スルニ至レリ。 *Parvitiis* *Stoa* 学徒ノ間祖 *Pyrrho*
 ノ如ク *Corvates* ノ精神ヲ中心トセシキ実修ニ差支ヘナキ限リ *St-*
oa 学徒ニシテ *Platon* 及 *Aristoteles* 並ニ彼等ノ学徒ノ説ヲ折衷シ
 同時ニ *Stoa* ノ極端過激ナル種々ノ点ニ止メ如此ニシテ成レル彼ノ学
 説人生觀ノ根柢ハ性格ニ依リテ *Roma* ノ法律學及ヒ國家學ニ其ノ基礎
 觀念ヲ供給セルモノナリ。 尤ノ人ノ性格ノ核ヲ以テ正義及ヒ神ノ意識ヲ
 總括スル良心ニ依リトシ此ノ良心ノ自覺ヲ *Roma* 学徒ニ高メタルモノ
 ハ *Parvitiis* ナリ。 良心ハモト *Roma* 人ニ充テタル心ナリシカ昔
 學上ニシテ *Roma* 人ノ自覺ニ上セタルモノハコノ *Stoa* 学徒ナリト

云フ。後ノ教徒カ「キリスト」教ノ執断ノ弊ヲ極端ニ暴達セシメシメ
Roma 人ノ自覺ヲ振擧トシタルモノナリ。Roma 人ハ希人ノ宗旨的
機械觀ヲ輸入スル機械ナカリシニアラス。又金クエレヲ採用セサリシニ
モアラサレトモ寧ロ *Stoa* 学徒ヲ仲介トシ之レトソノ目的的汎神論ヲ
或シ之ヨリ、公然ノ教トシタルモノナリ。

第二 *Physicists*「暴達」ト云フコトヲ Roma 人ニ殘セリ。

第三款 *Secretins, Carvers.*

Roma モホ *Greec* = 於ケル如ク思想ノニ大分派生セリ。其ノ第一
ハ安樂本位ノ説ニシテ *Carvers* 之レカ主張タリ。其ノニハ良心本位ノ説ニ
シテ *Secretins* 之レカ主唱者タリ。前者ハ機械的唯物の原始的實在原理ヲ唱
ヘ。後者ハ目的の觀念的の人生教理ヲ旗章トシ根元的法理ニヨリ宇宙觀、社
會觀並ニ人生觀ヲ明ニシタルモノナリ。

Carvers *Epikuleus* 学派ノ原始論ヲ採リ羅馬人ノ行動自由ヲ増大

トナレニ從ヒ之ヲ妨ケ其ノ生活カ益々円満ナルニツレテ之ヲ害スル迷信並
ニ宗教上ノ弊害ヲ排除シ之ニ代フルニ冷静ナル原于論ヲ以テシ主觀主義ニ
ヨリテ次第ヲ生シツ、アル「ローマ」社会ニ純客觀的精神ヲ補ハントシタ
ルモノナリ。

11) 迷信ノ駆除

不動ナル「ローマ」人ハ元來迷信家ニシテ共和制未頃迄ハ宗教カ重要
ノ地位ニ在リタリ。宗教ハ如何ナル人事ニモ干典スルコトカ習慣ナリキ。
然シ「ローマ」ハ宗教國ニハアラス。「ローマ」人ハ宗教ノタメニ存在
シ甘ンシテ之レカ奴隸ナリシニハ非ラス。宗教カ凡テ其ノ團體的ノ一致
活動ノ道具トナリシモノナリ。故ニ此ノ種ノ宗教ノ道具トナリ得サルモ
ノハ之ヲ禁セリ。殊ニ共和時代ニハ君主ニ宗教カ國家ノ權威上ニ至大ノ
影響ヲ與フル能ハス。政治行動ノ手段トナリ無意義ナル形ノミトナリ。
神主ハ却テ更ノ信仰ヲ欠キ教理ヲモ研究セス。創設カ更ニ之レナク全ク
其ノ感化カヲ欠ヒ又神ニ奉仕シ供物ヲ為シ賽銭ヲ集メテ喜フノミナリキ。

四。
敬理ヲ知リ純粹ノ信仰心ヲ育スルモノハ凡テ俗人ニ多ク神主ノ地位ハ唯
習慣カニヨリテ維持セラレ余々為ス行動ハ却テ迷信者ヲ害シダリ。サレ
ハ此邊以テ後道徳敬理者自ノ中心矣トナリシ者ハ *Carver* ニシテ神主ニ
非ラス。宗教及神主ハ迷信ヲ頒布シ陰ニ陽ニ公明正大自由自ナル活動
ヲ擊縛スル障害物タリシナリ。嚴格ナル宗教上ノ儀式ハ迂回擬制ヲ用
テ之ヲ和ケ之レヲ伸縮セシメタルモ理由ナク活動ヲ困弊ナラシメタリ。
希臘哲学ノ輸入ハ此種ノ弊害ニ對シテ宗教的開明時代ヲ生セシメタル
カ根本的ノ研究ヲ試ミタルモノハ *Carver* ナリ。 *Carver* ハ先ツ「ロー
マレニ於テ余リニ万事ヲ人格視スルニスルニ如キモノサハス人間ニ擬
セラル、フ不可トシ、物貨以外ニ之レト尙レテ存在スル理性的ノ神ナリ
テ去界ノ秩序ヲ維持スルノ説ヲ打消シ、宇宙ハ只原子ノ機械的集合體
ニヨリテ組織セラレテ存在スルモノニ外ナラストセリ。彼ハ又靈魂不滅
説ヲ打消シ死後幽冥界ニ於ケル新靈ヲ信シテ冥福ヲ祈ル愚ヲ指摘シ死ト
共ニ之ヲ組織セル精神の原子亦離散スルモノナル故ニ不滅ナル靈魂ノ存
在スル謂ハレナシ。元來生活ノ手段タル宗教ヲ以テ却ツテ生活ヲ苦シム

ルハ愚ノ極ナリト唱ヘタリ、

(2) 安心立命

Carver ハ冷静ナル悟性ヲ中心トシテ「ローマ」人カ主觀ニ執着スル
弊害ヲ正シ其ノ迷信等ヲ捨テシメ精神ヲ客觀的ノ地位ニ置カシメントセ
リ。其ノ目的其ノ感想ヲ以テ機械的世界觀、原子論ヲ唱ヘ安心立命ノ根
拠ヲ與ヘタルハ *Carver* ノ功績ナリ。宇宙ハ此ノ原子ト此ノ運動トニヨ
リテ一大全部ヲナシ絶ヘス秩序ヲ保ツテ運動シツ、アリ。各自ノ人出ハ
其ノ大秩序大變換大運動ノ一部分ニシテ暫ク全部ノ熱限ナル出來事ノ
流行ヲ傍觀スルモノニ外ナラス。夢ノ面ノ此ノ見物ハ帰スル外全部カ自
ラ全般ヲ觀察シツ、アル所ノ表現ナリ。今若シ之レヲ悟リ得ハ全然己ヲ
客觀的ノ地位ニ置クヲ得ルモノニシテ、又猶豫苦悶ヨリ脱シ平靜不動ノ
地位ニ於テ安樂ナル生活ヲ送ルコトヲ得ヘシ。要スルニ主觀ニ執着セシ
「ローマ」人ニ客觀的思想ヲ注入セシハ彼ノ長所ナルモ其ノ客觀說ノ基礎
カ哲理的原子ニ在ルハ彼ノ大ナル制限ナリ。

第四款

Cicero

Cicero 並ニ其ノ徒ハ在来ノ思想ヲトリテ「ローマ」人ノ迷信ヲ打破シ
其ノ主觀主義ニ過スルニヨリ生マル憂若ヲ釋蕩シ、「ローマ」人ノ平靜不
動ナル心ヲ養ハントセシカ更ニ大ナル効カヲ以テ希臘哲學ヲ用キ、「ロー
マ」固有ノ思想ヲ開発シ、積極的ニ「ローマ」人ノ良心ヲ發達セシメ之レ
ト大自然即チ宇宙ノ組織トヲ結合ケ道德法律政治ノ生活ヲ説明シ之ニ確實
ナル根柢ヲ與ヘ各人ヲシテ其所ニ安立シツ、泰然自若ノ行動ヲナサントセ
ルモノハ *Cicero* ナリ。

第一 学説ノ系統

Cicero ハ「ローマ」ニ於テ *Academic* 派ノ溫和ナル懷疑
論者 *Philon* ノ教ヲ受ケシカニ十一ニオノ項 *Athen* ニ於テ *Ar-*
istoteles ニ學ハリ、彼ノ折衷主義ハ彼ノ一生ヲ支配セルモノナリ、彼

ハ種々 *Athen* ヨリ *Stoic* 派ニ見學シ *Poeticus*、

Stoic 哲學ヲ修メ、其後熱心ニ希臘哲學ニ志セル、彼、法律學ノ師

Scenola モ亦 *Panaitius* ノ弟子ナリシカハ *Stoic* ノ学説ヲ統

ニ及ホセル影響ナリシコトハ之ヲ認メサルノカラス、

Cicero ハ *Roma* ニテ、大哲學者ナレトモ演説家、政治家ヲ本職

トセル「ローマ」哲學ノ特色ヲ表現セルモノナリ、

彼ノ著作ノ多くハ政治的活動ノ間ニナサレタルモノニシテ其ノ名著

de Oratore、*de Republica*、*de Legibus* 等ノ如クモ亦

然ニ、

就チ *de Republica* ハ *Platon* ノ理想國ノ向テ張り「ローマ」

國ノシノ正丈ニヨリ羅馬國ニ於テ、理想ヲ論シタルモノニシテ「ロー

マ」正文自身カ理想國ノ何タルカヲ説明シ結晶セシメツ、アルモノトナ

シ。「ローマ」ノ共和政治ヲ以テ最上ノ政本ナリトナセリ、

de Legibus ハ此ノ理想的立法ヲ論シテ認定式ト自然法トノ調和

ヲ其ノ現ハレト制度ニ付マテ試ミントセシモノナリ、

第一、學問並ニ生活ノ根底タル人類ノ共通意識

彼ハ *Grail* ノ主智的傾向ヨリ速カリ其ノ形而上學的研究ヲ整視シ又
僅カニ自然ノ理法並ニ目的觀ヲ採用シ個人並ニ社會ノ内部的歴史の経験
ニ根拠シ、良心ヲ重要ノ地位ニ高メ以テ人生觀ヲ定メントセリ、其ノ論
極ハ「ローマ」人ニ共通ナル如ク精智ヲ欠クノ罪アルモ其ノ流暢ナル時
文体ハ稀ニ見ル所ナリトノ定評アリ、彼ハ *Herder* 學派ノ智識論ヲ採用
シ、自然々人間内部ノカタル意識トシテ種々ノ根本的主觀觀念ヲ共
ハメルコトヲ足認シ之等ノ主觀觀念ハ終局スル所各國各時代ノ人間カ生
活々動セル實際ノ歴史中ニ於テ一致シ得ハキモノトナシ、此ノ一致ニヨ
リテ明確ニ意識シ得ルモノトス、之レヲ人類ノ共通意識ト云フ、

Butcher ノ折衷論、*Aristoteles* ノ比較研究ハ此ノ点ニ於テ各派
ノ折衷的傾向ヲ有ス、例ハ自由心、責任心、正義心、良心及ヒ神又ハ靈
魂不滅等ノ意識ニシテ經驗ニヨリテ後各人カ知り得ルニ非ラス、而テ各
人内部ノ經過、社會生活ノ歴史、各國民ノ比較ニヨリ其ノ異ヲ試ヒ去リ

愈々之等ノ智識ヲ發達セシメ其ノ合スルト否トヲ判断シ之等根柢アル觀
念ヲ智識トナシ其ノ上ニ法律現象ヲ發達セシメ判断ス其ノ學問ヲ成立存
在シ得セシムルモノナリ。人類ニ對スル自然法ヲ考ヘ得セシムルモノナ
リ。ナレハ之等ノ根本意識ハ何程經驗ヲ重シ歸納ヲナスモ滯スル所外部
ヨリ取り入レ未レルモノニ非ラス。尚ホ自然ノ與ヘタル天性ヨリ湧出テ
タルモノヲ失ハス。自然ハ吾人トシテ現ハレ吾人ニ良心ヲ與ヘタリ。吾
人ハ之ニヨリテ道德的生活、政法法律的活動ヲナシ得ヘク、又吾人自ラ
此ノ種ノ大切ナル意識アルコトヲ先見シ得ルナリ。

第三 神及ヒ人ノ性質

希臘人ハ宇宙ヲ支配スル理法則ヲ認メ *Nous*、又ハ *Logos* 等ノ觀
念ヲ認メ審美的智識的ニ宇宙ヲ説明セシカ「ローマ」人ハ *Crack*、自
然的觀察ニ加アルニ多大ノ人生的觀察ヲ希ノ理法ニ美的靜的ナル神ヲ自
由活動者、強者、動者ニ改造シテ之ヲ宇宙ノ統轄者、世界ノ立法者トシ、
万物ハ皆其ノ支配ノ下ニ立キ其ノ法ニ從テ存在スヘキモノトセリ、同時

ニ此ノ神ハ尚理法ニヨリ万人万物ヲ支配スルノミナラス各個人ニ自ラ其
ノ性格ヲ定メ運命ヲ創設スル力ヲ賦與スルモノニシテ只万能力ヲ以テ各
個人ヲ支配シ各人ヲ人形トシテ喜ヒツ、アル神ニハ非ラス。各人ニ與フ
ルニ必ラス其ノ良心ト自由トヲ以テ其ノ分担内ニ於テハ万能力ヲ以テ自
ラニ決定メシムル神ナリ。 *Deus* ハ神ト自然トノ別ヲ明確ニセス岸ニ
折衷的ノ色彩ヲ帶フルモ其ノ精神ニ於テハ歸スル所自然及ヒ各人ト對立
スル觀念不動ノ一神ニ止マラス又各人トシテ存在シツ、アル最大ナル神
ニ他ナラスト云フハシ、サレハ *Deus* ハ定命説ヲ駁シテ人間力機械
ト異ナル所以ヲ論セリ、吾人若シ定命セラル、ナラハ學問ヲナシ、善ヲ
ナシ惡ヲサケンドスル理ナシ、之レハ學問カ尚ホ其ノ自然論ニ於テ定命
説ヲ採レルト與ル所ナリ。

第四 法律論

自然法ハ認定法及ヒ之レト稱ルヘカヲナル權利義務ヲ定ム權利義務ト
法ト及ヒ認定法ト自然法ト相俟ツ所以ハ *Deus* ニヨリテカハ、テ論セ

ラレタリ、希臘ハ客観的理法ヲ主トシ認定ヲ重セス、又何人ノ主観的自
由ニ重キヲ置カサリシ故ニ権利義務ヲ以テ大体正義権利ニ集中セシメ之
ト全一視シ権利義務ト法ト相俟ツ干係ヲ充分ニ明ニセザリス、又自然
法ト認定法ト干係ヲ精密ニ分析スルコトナカリキ、然ルニ「ローマ」
人ハ古來認定ヲ重シ、認定法ヲ嚴守シ、各人ノ分担ノミヲ有スル自由ヲ
重シタリシヲ以テ理法及ヒ其ノ學問ノ研究ト共ニ客観的ナル法ト主観的
ナル各人ノ分担トヲ分テ考ヘ、又認定ト自然トノ対立ヲ感スルコト深
カリキ、之ニ件フテ又勢此等ノ相俟ツ所以反ヒ認定法ノ自然法ニ合スヘ
キ必要ヲ強クセシメタリ、之ノ意識ノ主ナルモノヲ Cicero トス、彼ニ
從ヘハ凡テノ人間ハ一ノ神ノ立法ノ下ニ自由ヲ分担シツ、生活スヘキモ
ノナリ、此ノ法ニ二種ナク、三種ナシ、人間各個人ハ皆神聖ナル理性ヲ
有シ共通ナル主観觀念ヲ有ス、神ノ立テタル唯一ノ法ハ此ノ人類共通ノ
意思ノ上ニ存在スル法ト一致スルモノニシテ即チ自然法ナリ、人間ハ此
ノ *ius naturale*ニ基キテ種々ナル義務ヲ有スルカ如ク、又其ノ自
由ニ付キ種々ノ権利ヲ與ヘラル、認定法即チ人為ノ認定ニヨル法ハ自然

四人

法ニ合一スル所ニヨリテ法ナリ得、サレハ名目ノミノ認定法ニヨリテ自
然法並ニ其ノ上ノ権利義務ヲ廢止變更スルコトヲ許サレス、一致法又ハ
一時代ニ偶然ナル認定法ハ有名無実ニハ法ニ非ラサルナリト、
此ノ説ハ近世巧ニ諸所ニ原則トシテ採用セラレタルモノナリ、権利思
想ニ付キ新政府ヲ教育セシモノハ「ローマ」人ナルカ「ローマ」法ハ尚ホ
権利本位ノ法ニ非ラス、教ヲ受ケタル政人ハゴノ矣ニ付キ反ツテ「ローマ」
人ヲ凌駕シタリ、自然法ノ思想ニ付キ新政府ヲ教育セシモノハ「*Roman*」
ナルカ在来ノ正史ヲ打破シ極端ニ其ノ思想ヲ認定世界ニ實現セルモノハ
「*Roman*」人ニ非スシテ近世政人ナリ、已ニ *Hippias*ニ依リテ説カレタル
性法的自然法説ハ *Aristoteles*ヲ經テ *Cicero*ニ至リ益々確定セラレ
彼ノ政人ニ引渡シ得ル迄ニ準備セラレタルモノナリ、

第五、評論

*Cicero*不滅ノ功績ハ「ローマ」人トシテ主観々念ヲ本秘トシ其ノ哲
学其ノ法学ヲ英談セシ兵ニ在リ、而モ彼カ尚ホ其ノ族キ主観ノミニ拘泥

四九

セス、之レヲ万人一般ノ客観觀念ニ拡張シ人間ノ共通意識ヲ求メントセ
シコトハ特ニ記憶スヘキ所ナリ、主観々念ヲステ、直ニ客観的ニ求ムル
ニ何等ノ得ル所ナキハ彼ノ健全ナル主観主義ヲ是認セシムヘキ要旨ナリ、
但シ彼カ主観々念ノ普遍意識ナリヤ否ヲ根本的ニ吟味スルコトナク又
分析スルコトナカリシハ非難ヲ免レサル所以ナリ、

之ト同時ニ彼ハ表現相対ノ係トモ云フヘキモノヲ歐洲人ノ自覚ニ高メ
タリ、統格者ノ万能カ、被統格者ノ自由独立並ニ其間ノ法則ハ長ク世界
ヲ支配スヘキ觀念ナリ、然シ彼ノ欠矣ヲ云ヘハ彼ハ最も高キ表現ノ係ニ
思ヒ至レルモノニ非ラス、又人間ヲ以テ宇宙ノ顯現者ト見サルニ非ラサ
レトモ常ニ表現ノ係ノ範圍ニ止リ孤立相対ノ域ヲ脱シ得クルコトナシ、
サレハ客観々念ハ自由ニシテ主観々念カ主要ナルモノナリ、神ハ人間ト
対立スレ独立ノ支配者ニシテ人間ニ亦神ト対立シテ之レニヨリテ支配セ
ラル、独立ノモノナリ、人間ト云フ普遍者ノ個人ト云フ單純人トノ係
ヲ見テモ亦是ノ如シ、彼カ生活並ニ字句ノ根底ヲ一ニ主観々念ニ求メシ
モ亦當然ナリ、要スルニ被ノ統格ノ係ハ表現ノ係ニ到達セサル孤立の統

格ノ係ナルヲ以テ表現ノ係ニ似タルモノ尙ホ吾人ノ云フ表現ノ係トハ異ル
モノナリ、真ノ表現ノ係トハ少クモ一度表現ノ係ニ往キテ歸来セルモノ
ヲ稱スルナリ、以上ノ長所ト短所トヲ有スル Cicero ノ思想ハ其ノマ
マ古文復興以來政ニ影響シツ、アリテ政人ノ独立統格ノ係ノ思想ヲ培養
シツ、アリ、現今ノ政人カ權利義務アルヲ知リテ表現心アルヲ悟ラス、
彼人ノ職務アルヲ知リテ表現人アルヲ知ラサル如キハ皆此ノ獨立の思想
ノ範圍ヲ脱シ得サルモノナリ、
此ノ根底ノ上ニ存スル政ノ法律學カコトコトク表現ノ係並ニ正シキ表
現ノ係ニ思ヒ至ラサルハ必然ノコトニシテ數ノ多少ヲ以テ當否ヲ認スヘ
キニ非ラス

第五款 帝國時代ノ羅馬思想

帝國時代ノ羅馬思想ハ稍以上ノモノト異ナリ、其却テ專ラ *Stoic* 學說ヲ遵
奉スルニ至レリ、此ノ思想ノ中心ハ同シク生活ノ義務及ヒ良心ニ在リテ自

然論ハ益々不必要ノモノトナレリ。政治及ヒ政治ノ時代ハ共和政治ノ終ル
ト共ニ過去ヲ去リ、今ハ專制的ニ認定法ヲ以テ形式的ニ世界ヲ統一シ支配セ
ントシタルカ故ニ認定法及ヒ其ノ學問ハ最も大切ノモノトナリ遂ニ羅馬國
有思想及ヒ *Stoa* 學派ノ根本觀念ヲ基トシテ各民族ノ法制ヲ比較シ、茲
ニ法律學ノ發生ヲ見ルニ至レリ。

當時ノ羅馬 *Stoa* 學徒ニハ *Seneca* アリ、彼ハ何人意思ノ尊重スヘキ
コト、其ノ自由独立タルコトヲ論シタリ、蓋シ「ローマ」奴隸制度ノ現存
セシコトハ *Stoa* 說ト相俟テ却テ奴隸ニ非ラサル人格者ノ自由ヲ自覺セ
シメ、自由ヲ權利ト意識セシメタルモノ一シテ、此ノ思想ハ遂ニ一般人ニ
推シ広メラレタリ。 *Seneca* ノ思想ト特ニ *Petrarcha* 及古文復興ニ影
響ヲ與ヘ益々後ノ歐人ノ独立自由思想ヲ固定セシメタリ但シ帝政以後「ロー
マ」人ノ公生活ニ於ケル自由ハ全ク蹂躪セラレ此ノ方面ニ於ケル自由ヲ失
ヒタルコトハ「ローマ」衰亡ノ大原因タリシヲ忘ルヘカラス、之ト並ビテ
奴隸ニヨリ訓練セラレタル統格制ノ尊重モ其ノ真ノ精神ヲ火ヒ認定ヲ嚴守
シ規則正シク行動スル活氣ハ萎靡シ風氣ノ衰ハテ大上有名者後時代

ヲ生セシメタリ

Stoa 學徒ニハ又 *Epictetus*, *Marcus Aurelius* ト *Epictetus*

Stoa ハ奴隸ナリシカ後解放セラレシ者ニシテ「*Stoa*」ヨリ進ハ
タリ、 *Aurelius* ハ後漢ト交通セシ大義同王守數ニシテ *Stoa* 學徒中ノ
有力ナルモノナリ、下ハ奴隸ヨリ上ハ王侯ニ至ル迄ヲ抱擁セシコトハ *St-*
oa 說ノ性質ヲトセシムルモノナリ、人類平等ノ思想ノ基督教ト並ビ「ロー
マ」内外人區別主義、奴隸制度ニ對シテ *Stoa* 說ニヨリ唱ヘラレシハ明ナ

其他當時スラニ宗教ノ影響ヲ蒙リツ、アル *Aurelius* ノ討論篇ノ如キモ
瑜伽禪定ヲ重ニスルコトニ付キ新 *Platon* 派ニ似タル所アリ、後代普
「フレデリック」ニ世々奉セシ人生觀ノ如キハ全然此ノ皇帝ノ著述ニ依レリ

第四節 羅馬法學

第一款 公法私法ノ地位

法律制度及ヒ法律學ヲ以テ嚙リ法律ノミノカニテモ如何ニ大ナル事業広
大ナル統一ヲ完成シ得ルカヲ實証セシモノハ「ローマ」人ナリ。之等ノ察
達ハ一方ニハ「ローマ」ノ固有ノ思想ニ在リ。他方ニハ付ヨリ入りタル高
尚ナル哲理ニヨリアラユル矛盾ヲ歡迎シ且ツ之レヲ統一シ得タル此ノ人種
ノ性格ニ存ス。而モ尚其ノ架近ノ兵ニ付テ見レハ殊ニ「ローマ」ノ私法ヲ
シテ障害ナク察達セシメシモノハ「ローマ」ノ嚴重ナル家族主義ヲ大普遍
我ニ拡張シ。次第ニ小家族ノ干係ヨリ脱シ古来ノ嚴重ナル門閥主義アラユ
ル各個人カ全部相對者トシテ對當ナルコトヲ意識セシムルコトニ至リタル
コトニ在リ。之ト公シク「ローマ」公法ノ察達ハ貴族、平民ノ共同シテ從
事スルニ至リタル經營ニ在リ。相互ニ一心同體トナリテ國家ノタメニ尽碎
シ「ローマ」名物ノ牧序の生活ヲ營ミ相互ノ統括干係ヲ重シスルコトニ付
キ絶ヘサル練習ヲナサシメタルモノハ戰後ナリ。此ノ精神ハ習性トナリ永
ク公法ノ基礎タル意識ヲ爲セリ。然シテ共和政體ノ時代ニ於テスラ權力
ノ分立ニ拘ハラヌ尙ホ戰時戰場ニ於ケル一人ノ絶對的支配ノ可能ナリシコ

トハ遂ニ「ローマ」ヲシテ帝政ニ變セシメシ所以ナリ。戰爭カ「ローマ」
公法ニ影響セルコトノ大ナリシハ以テ類推スルヲ得ハシ。
「ローマ」法ニモ公法私法ノ別アリ。表現干係ノ意識ハ尙ホ察達セサリ
シ故ニ表現法ト獨立法トノ別ナク。表現法トモ云フハキモノハ公法ノ一部
ヲ占メタリ。此ノ狀態ハ引續キテ尙ホ今日ノ歐洲ヲ支配シツ、アリ。公法
ハ「ローマ」國ノ組織ニ定ムルモノニシテ神事 (Sacer) 神主 (Sacer-
ne Actus) 及ヒ官職人員 (magistrates) ノ法ナリ。私法ハ私人相互
間ノ自由干係ヲ定ムルモノナリ。
「ローマ」人ハ支配ニ付キテ絶對的統括干係ノ存スルコトヲ拒マザルト
スニテ其ノ範圍内ニ於テハ分担トシテ有セル自由ヲ尊重シタル故ニ一定
シテ個人相互間ノ活動干係ヲ規律スル私法ハ重要視セラレタリ。私生活ニ
付キ「ローマ」人ニ一定ノ範圍内ノ自由ヲ確保セシムルモノハ「ローマ」
ノ私法ナリシナリ。已ニカクC. B. C.ニ制定セラレタル十二銅表法ハ其ノ
制定並ニ公示ニ付キ普遍意思ノ性質ヲ保証セシメラレ、訴訟及ヒ親族、相
親、債權等ニ付キ重要ナル私法ノ淵源ヲナセリ。殊ニ帝政以後ノ政策ハ人

民ヲシテナルヘク政治ニ志サシメス。専ラ各自ノ私生活ニ興味ヲ有セシムル方針ニテ各民族並ニ衆ニハナルヘク其ノ自治ヲ共ニ生活ニ於ケル何人主義相互ノ間ノ自由並ニ其ノ利益ヲ主張セシメ之ヲ以テ人心ヲ收攬シ、國家ヲ統一スルノ策ヲトリシテ以テ公法ハ進歩セズ、之レト尙レタル私法ノミカ發達ノ中心矣トナリ、全部相對ノ意識ノミカ愈々人身ヲ支配スルニ至レリ。此所ニ至リ「ローマ」古來ノ統括制ヲ尊ビ各自ノ私法ヲ重ニスル氣分ハ歿シテ私事ニ親シシ、公事ヲウツンシ、專制ニ甘ンシ、各自ノ利益ヲスラサルコト、ナリタリ、此ノ公法上ノ統括制ノ精神ヲ採用シテ起レハ中世ハ基督教會ニシテ之レヲ新政諸國ニ傳播セシメ、之等ヲシテ近世初期ノ統一ヲ完成セシメタリ。又何人生活ヲ規律スル「ローマ」ノ私法ハ *Justinianus* 大帝ニヨリテ法典ニ編纂セラレ新歐洲ノ私法ノ重要ナル淵源トナレリ、而モ公法ハ各國ノ第一事實ニ基キ存在スル法タルカ故ニ其ノ廣ク異ニスルト共ニ其ノ法理ノ形式ヲ同一ニスル能ハス、私法ハ全ク法ノ上ニ存在スル法ナルヲ以テ此種ノ制限ナク、此ノ意味ニ於テハ世界的ノ法たり得ヘキ性質ヲ有ス。故ニRノ世界圖ニ於ケル發達ニ付キテモ公法ハ尚ホ

五七

特殊ニシテ私法ハ世界的ナリ。又新政人カ之レヲ伝義スルニ當リテモ公法ハ其ノ精神ノミヲ伝受シ得タルニ反シ私法ハ形式其ノ依テ受継クヲ得タリ。「ローマ」ノ公法ノ精神ハ各國各別ノ公法ノ發生ヲ助ケタルカ。「ローマ」ノ私法ハ其ノ形式ノ依ニ様ニ諸國ノ認定法トシテ其ノ效力ヲ有シタリ。

第二款 万民法 (*ius gentium*) ノ發達

羅馬私法ハ共和制ノ終境 (*Cicero*、師匠 *Scalvella*、頃) ヨリ急速ノ進歩ヲナシ、市民法 (*ius civile*) ノ例ニ万民法 (*ius gentium*) ヲ出スルニ至レリ、市民法トハ十二箇表法以外ノ「ローマ」ノ慣習並ニ民會ニテ定メタル認定ノ集團ニシテ「ローマ」レ市民ニ限リテ適用スヘキ法ナリ。然ルニ「ローマ」カ外國ヲ征服スルヤ外國人ハ盡ニ「ローマ」ニ入り込ミ「ローマ」人ト外國人及ヒ外國人相互間ニ複雜ナル活動ヲ保シシ、方式等ヲ以テ滿サレタル市民法ノミヲ以テシテハ満足ニ之ヲ規律シ得サルコト、ナリトカハ私民法以外ニ「ローマ」人ト外國人相互間ノ私法上ノ事ヲ規定

五七

セル万民法ヲ生じり、サレハ市民法ハ国家主義ノ法ニシテ万民法ハ世界主義ノ法ナリ、前者ハ古来ノ法ニシテ保守的ナリ、後者ハ Cicero ノ頃ヨリ發達セル一般法ニシテ進歩的ナリ、前者ハ認定的、形式的、方式的ナリ、後者ハ自然的、合理的、放任的ナリ、*「ローマ」*名物ノ矛盾及対ハ斯ノ如ク認定法ノ上ニモ表ハレタリ、

i. gentium ハモト各國ノ認定法ニ共通ナル規定及ヒ自然ノ理法ヲ材料トシテ *praetor* ノ認定ニヨリテ發達セシメタルモノナルカ後ニハ學說カ此ノ發達ニ付キテ重要ナル地位ヲ占ムルニ至レリ、*「ローマ」*固有ノ思想ニテハ解脫ト立法トニ峻別アリシカ希哲學ノ侵入、*Cicero* ノ法律論以後ハ次第ニ兩者間ニ分界トキニ至レリ、

*「ローマ」*カ四方ヲ征服スルマ市奉行 (*praetor Urbanus*) ヲ以テ *「ローマ」*市民間ノ裁判ヲ司ラシメ、又外國奉行 (*p. peregrinus*) ヲ置キ *「ローマ」*市民ト外國人及ヒ外國人相互ノ訴訟事件ヲ管轄セシメタリ、*praetor* カ其ノ裁判ヲナスニ當リ概ルヘキモノハ先ヅ自然法及ヒ當事者ニ共通ナル法ニシテ之レナキ時ハ自然ノ正義及ヒ公益ヲ考ヘテ判決スルマ

要セリ、此ノ判決例ハ万民法ノ重要ナル判案トナレリ、此他 *praetor* ハ毎年就職ノ初メニ指令 (*edictum*) ヲ發シ、其ノ在職中訴訟ノ判決ニ付キテ概ルヘキ一定ノ手續及ヒ方針ヲ指示セシカ、何時モ *edictum* ト大同小異ナルヲ常トセシカハ *Hadrianus* 帝ノ時ニ *publici iuris* 等余ヲ受ケテ恒久示命 (*edictum perpetuum*) ヲ制定マシ *praetor* ノ概ルヘキ手續並ニ方針ヲ一定シタリ、勿論各 *praetor* ハ法理上其ノ任意ニ之ヲ変更シテ其ノ在職中ノ行動ヲ定ムルコトヲ得シ得タリシモ、事實上之ヲ變更スルモノナカリキ、此ノ指令ハ *ius edictum* ニシテ *i. honorarium* 即チ「*メイカン*」法ト稱セラレ、*i. gentium* ノ重要ナル部分ヲナセリ、外國奉行カ裁判スルニ當リテ概ルヘキ手續及ヒ法ノ主ナル内容ヲナセルモノハ各民族ニ現在セル認定法中ノ共通ナル認定ト自然法トニ在リ、此ノ二者ハ始メ同一ニ考ハラレ、各國共通ノ想定即チ自然法、又後者即チ前者トセラレタリ、*Cicero* ノ如キモ認定法ハ即チ自然法ニ合一セサルハカラサルコトヲ主張セル者ナリ、*Aristoteles* ハ先ニ比較研究ニヨリ共通ノ原理ヲ抽象シ得ハシト唱ヘテ下テ *Antinobis*

Pandemius 等ハ各等説ニ執断ナルモノヲ採擇シテ之レヲ生活ニ勵ノ確
 實ナル原則ト見做サントシ、加之氏等モ亦共通ヲ抽象シ之レニヨリテ共通
 意識ヲ完メントセシカ、此ノ傾向ハ「ローマ」ノ實際的法律界ヲ支配シ、
 神ノ如キ精理ニヨリ自然ニ歸一セル認定法即チ万民法ヲ定メントセシモノ
 ナリ、然レトモ自然法ト其ノ項ノ民族ニ偶然共通ナリシ認定トハハラスシ
 モ合一シツ、アルニ非ラス、此ノ所者ノ矛盾ハ法律意識トシテ最モ大切ナ
 ル人格ト物ト分界ニ付キ切ニ意識サレタリ、當時一方ニハ *Sto* 哲学ノ自
 然認定ニ行ハレ人類ノ平等ヲ要求シ、基督教ノ平等説モ亦起リタルニ拘ハ
 ラス他方ニハ年々歳々奴隷ノ數ヲ増加シ、其ノ待遇モ亦往々残酷ヲ極メタ
 リ、*Sto* 説ハ奴隷ノ制ヲ認メス、而ルニ各民族共ニ奴隷制度ヲ有セサル
 モノナク、社会ノ實際生活上認定セラレタル万民法ニハ人格ナキ人即チ奴
 隷存セリ、サレハ *3. Oct. 4. D.* ノ項ニ在リテハ法ノ分類ニ付キニ分説及
 ヒニ分説ヲ生シタリ、
 ニ分説ハ市民法ト万民法ヲ認ムルモノニシテ自然法ハ又万民法ノ別名ニ
 スキサルモノトセリ、*gains* ハコノ説ナリ、ニ分説ハ市民法、万民法ノ

外ニ自然法ノ存在スルコトヲ認メ、所云万民法ハ大略自然法ト合致スル範
 疇ヲ有スルモ必ラスシモ余ク一致スルモノニアラス、故ニ其ノ不自然ナル
 莫ハ自然法ニ則リテ之ヲ改正セサルヘカラストシ、殊ニ努メテ人類平等ノ原
 則ニ依リシメントセシモノナリ、*Nepianus* 等此ノ説ナリ、蓋シ *Ci-*
ceron カ自然法ニ合一セサルモノハ認定法ニ非ララスト微語セシハ認定法ヲ
 シテ自然ノ大道ニ合一セシメントスル切ナル要求ニ出テ、其後ノ人ハ各國
 共通ノ規定ヲ採擇スレハ此ノ自然法ヲ得ヘシト信セルナリ、然ルニ斯ノ如
 キ比較研究ノ結果得タル万民法ハ根本的ノ哲理ヲ基礎トシテ論説セラレタ
 ル自然法ト矛盾スルコトヲ察見シタルカ故ニ此度ハ更ニ万民法ト自然法ト
 フ対立セシメテ自然法ニ復歸セサルヘカラスト唱ヘラレタルモノナリ、サ
 レハ羅馬私法、以來法、ニ分説ニ至ルマテ其ノ形式ヲ異ニシツ、シカモ其
 ノ自然ニ歸一セントスレバ一ニスルモノト云フヘシ、

第三款 法學ノ盛時

羅馬ニ於テ法學者ノ説ハ認定法ノ淵源ニシテ万民法ノ發達ニ貢獻セシコト大ナリ、法學者ハ裁判官ヲ養成シ、自然法ヲ明ニセル莫ニ於テ著シカリシノミナラス其ノ學說自身カ又認定法タル万民法ノ淵源ヲナセリ、勿論學說自身カ直ニ認定法タリト云フニ非ラス、法學者カ自說トシテ裁判所ニ採明サレタル時ニ認定法ノ液カヲ育セルナリ、初メハ口頭ニテ說フ速ヘシカ後ニハ必ラス唇面ヲ以テ音フルヲ要セリ、即チ法學者ノ作レル訴訟鑑定否カ採納ニヨリテ認定法ノ效カヲ有セルナリ、サレハ認定ノ形式ヲ重ンシタル「ローマ」ニ於テハ他ノ社会ニ於テ見ルヨリモ特ニ法律學說ヲ重視シ、其ノ盛ナルコト古代其ノ比ヲ見ス、法學者ノ數モ極メテ多ク特ニ有名ナル五大法律學者ヲ出セリ、*Sabinus*, *Papinianus*, *Ulpianus*, *Modestinus*, *Paulus* 是レ也、*Papinianus* 獨モ賢ル、但シ *Jus-Justinianus* 法典中ニ主トシテ採用サレシハ *Ulpianus* ノ説ナリ、此中 *Sabinus* ハ *Marcus Aurelius* 皇帝ト共ノ時代ヲ全クスルモ其ノ餘ハ皆引續キ心シ、*Ulpianus* 頃ニ沿動セルモノナリ、之レヲ「ローマ」法律ノ盛時トナス、而シテ五大法律學者ハ希臘ニ遊ヒ或ハ希臘人ヨリ師トシテ一人

トシテ希臘思想ニ干係ヲ有セサルモノナキハ特ニ注意ヲ要スル所ナリ、是レヨリ先々希臘思想ノ流入ハ尺目ノ精神的擴張ヲ可能ナラシメ、「ローマ」ノ外部的擴張ハ其ノ法律ノ發達ヲ要求シ在来ノ法律法學ヲ勃興セシメシカ也、*Augustus* ノ時ニハ已ニ創設ナル *Antistius Labeo* ト官學者 *Ateius Capito* トカ各其ノ根本心ヲ要ニシテ下ラス、*Jabius* ノ下ニハ *Proculus* ヲリ、其ノ學徒相訂立セルコト一五〇年ヲ超ヘタリ、之等ノ學徒ハ何レモ万民法ヲ中心トシテ精神的ニ之ヲ解説シ、討究シタルモノナルカ *Proculus* 學徒 (*Proculian*) ハ習慣ニ拘泥セズ、道理ニ從ヒ需要ニ應ジテ法ヲ創設セントセシモノナリ、*Sabinus* 學徒ハ在来ヲ重ンシ習慣ヲ保守セントセシ者ナリ、之モ亦「ローマ」名物ノ矛盾ノ一ツニテ為メニ法律學ハ著シク進歩シ両者ノ事ノ調和セル頃五大法律學者ヲ出スニ至レルナリ、五大學者ノ後ニ認定法ハ時世ニ應ジテ變遷シ益々複雑トナリシモ法學ハ振ハス、於是乎法典ヲ編纂シ何人ヲシテモ形式的ニ法ノ運用ヲナシ得セシムル必要日ニ切ナルニ至リ、遂ニ此ノ大事業ヲ遂行セシハ *Justinianus* 大帝ナリ、

第四款 法典ノ編纂

大 四

Justinianus 法典ハ紀元後五三四年ニ完成ナレタリ、法典編纂ノ
 始リタルヨリ一五〇年モ後レ西羅馬帝國滅亡后六四年迄キタリ、此ノ法典
 ハ東羅馬ノ *Constantinople* = 於テ編纂サレ、其ノ内容ハ民法ニシテ
i. gentium ノ彙集ニシタルモノナリ、*「ローマ」* 市民法ニ非ラサルコ
 ト則ヨリナリ、此ノ法典ハ三部ヨリ成ル、其ノ一ハ法学橋樑 (*instituti-*
ones) 四巻ニシテ、其ノ二ハ法学彙纂 (*digesta*) 五十巻 (又ハ
Pandectae) ナリ、五大法学者等約三十九人ノ学説ヲ異種シテ載セタリ、
 其ノ三ハ法令類典 (*codes*) ナリ、之ハ *Justinianus* 並ニ其ノ以
 前ノ皇帝ノ發シタル法令ヲ輯録セルモノナリ、其ノ中 *institutions*
 ハ教科書ニシテ認定法夫レ自身ニハ非サルモ尚ホ有権的ノ教科書ナリ、本
 余ノニ典ハ皆認定法トシテ効カヲ有ス
 如斯 *Justinianus* 法典カ教科書ヲモ含有シ且ツ学説ヲ輯録セルハ尚

ホ現今ト異リ著者ト法典、法学ト法術トノ充分ナル分岐ナキニヨルモノナ
 ルモ教科書及ヒ学説ヲカクマテ重視シ且ツ之等ニ特殊ノ權威効カヲ附與セ
 シコトハ「ローマ」法ノ優越性ヲ保証セシモノニ他ナラス

此ノ法典編纂後新ニ皇帝ヨリ發セラレタル法令アリ、之レヲ收録セルモ
 ノヲ *Novae constitutiones* ト称ス、現ニ一五二ノ新勅令ヲ含ム、後
 ノ学者カ之等全体ヲ合シテ *Corpus iuris civilis* (ローマ法大成)
 ト呼ヘリ、「ローマ」法カ新政各國ヲ支配シ得シハ会ク此ノ法典ヲ通シテ
 ナリ、然レトモ、*「ローマ」* 法典編纂當時ハ已ニ法学ノ衰ヘシ時代ナリ、彼カ當時ノ
 基督教思想ニ伴ヒ博愛制度、奴隸制度、遺言、相続等ヲ修正セシ主旨ヲ除
 ケハ彼カ *Codes* 中ニ新ニ加ヘタルモノ並ニ *institutions* 中ノ説ヲ修
 正セシ部分ハ尽クアラユル長ニ於テ法律思想ノ退歩ヲ示セリ、殊ニ広大氣
 魄ナル認定法カ法典トシテ形式立テラル、トクニ認定法ノ淺狭ナル利用ニ
 便宜ヲ與ヘシニ止マリ法学ハ全ク其ノ活精神ヲ失ヒタリ、十二銅表法制定
 ヨリ、*「ローマ」* 法典ノ大成ニ至ルマテ九八四年ノ間ハ永ク統一サレタル法典ナク雖
 然タリシカトモ「ローマ」法ハ却テ此ノ間ニ自然法ヲ採用シツ、忍ブマ、

大 五

ニ字説ヲ許容シ得タルナリ。ローマレ法ノ有名ナル神籍自在ノカハ公ク
此ノ間ニ承遺セルモノナリ。其後ハ七八年希ニ於テ新ナル *Barbarian*
法典ヲ纂纂セシカ其ノ項分立セシ希臘教ト等シク西洋本部諸國ニ何等影響
ヲ與ヘシルコトナシ。

大々

第五款 私法ノ体系

羅馬私法ノ体系ハ *Quibus et Justinianus Institutiones*
ニヨレハ共ニ *ius personarum* (人法) *ius rerum* (物ノ法)
及ヒ *actiones* (訴訟) トス。十二表法亦之等ノ内容ヲ含ム。但シ十二
箇表法ハ訴訟ヲ先ニスレトモ *institutiones* ニハ何レモ訴訟ヲ後ニセ
リ。ローマレニ於テ訴訟ヲ私法中ニ加ヘシハ深ク意味存スリコトニシテ
殊ニ之ヲ初期ノ本系ノ先ニセシハ「ローマレ」人ノ世俗思想ニ歴代ノ全体
ヲ表ハスモノナリ。「ローマレ」私法ハモト公法ヲ根柢トシテ其ノ上ニ私生
セシモノニハ非スシテ各自ノ分担スル自由ノ範圍ヲ尊重ノ中心トナシ各自

カ自衛ノ精神ヲ以テ發達セシメシモノナリ。此ノ自衛ニヨル衝突即チ矛盾
カ第三者タル統括者ニヨリ認定セテル、ニヨリ矛盾ノ主体カ其ノ私法上ノ
人格者ト認メラレ夫レ以外ノモノカ物ト認メラル、ニ至リシモノナリ。「ロ
ーマレ」ニ於テハ此ノ矛盾ノ解決ハ全部相対係ヲ主トスルモノニシテ其ノ
發達カ訴訟手續ノ法ヲ生セシノ自衛ノ主体即チ矛盾ノ主体ノ間ニ起リ得ル
結婚、親族、後見等ノ活動干係カ人ノ法ヲ發達セシメ、有体無体ノ物ニ付
ヤ自衛ノ主体間ニ生スル干係カ物ノ法ヲ定メシノタルモノナリ。サレハ「ロ
ーマレ」ニ於ケル私法上ノ人格者ハ訴訟ノ主体タルカ故ニ人法、物法上ノ主
体トシテ認定法上ノ人格者ト認メラレ得ルモノナリ。認定法上ハ人又ハ物
カ先ニハ非テスシテ矛盾カ先キナリト云ヒ得ヘシ。コレ公法カ先ツ發達シ
之ニヨリテ認定法上ノ人格者ト物トカ認メラレ之等ノ人格者間ニ於ケル矛
盾ヲ予防シ調停スル公法上ノ制度ヲ設ケル者ト大ニ其ノ趣ヲ異ニスル所ナ
リ。

「ローマレ」私法ノ發達ノ端緒ハ矛盾ノ意思ニ在リ、訴訟ノ手續ニ在リ、之ト
爲ルハカラスニ認定法上彼我ノ人格者間ノ觀念發達シ遂ニ人格並ニ物及ヒ

大々

其ノ活動干係ノ規律カ複雑ニ意識サレタリ、蓋シ彼我及ヒ其ノ歸一スル皆
遍我ノ人格並ニ物及ヒ其間ノ干係ト及ヒ此ノ干係ニ対スル法ノ四種ノ意識
ハ皆吾人ノ根本意識ニ属スルモノニシテ其ノ何レヲ前倣ト定メ難ク結局一
切一時ニ存スルナリ、此ノ中「ローマ」人ノ思想並ニ「ローマ」法ノ發達
ニ付キテハ矛盾並ニ人格ヲ主要ノモノトナシ、希哲學ノ侵入ト共ニ法ノ意
識ヲ高メ經濟上ノ變遷ト共ニ財貨物面ヲ尊重シ、遂ニ人格者間ノ矛盾、
人格者間ノ内滿ナル活動干係及ヒ物ニ付キ生スル人格者間ノ内滿ナル干係
ヲ規定スル私法ヲ完成セシメタルモノナルナリ、「ローマ」私法ノ發達ハ「ロー
マ」人ノ性格ニ基ケルモノ又絶ヘス生シタル各種ノ矛盾ニ原因ス、矛盾ハ「ア
レトモ常ニ之ニ打テ勝テ矛盾ヲ統一シ得タル」ローマ」人ノ性格ニ存ス、矛
盾ハ宗教上ニモ哲學上ニモ倫理上ニモ社會上ニモ政治上ニモ法律上ニモ在
リ得レトモ之等ニヨリ干連セラレ且ツ之等ヲ生セシメ得ル能力アリ且ツ此
等ヲ利用シテ益々其ノ存在ヲ自覺シ自信ヲ高メタルハ「ローマ」人ノ性格ナリ、
矛盾カ著シカリシ程「ローマ」人ハ其ノ人格其ノ自由ニ付キ深ク意識スルコト
ヲ得タリ、故ニ人格者ハ權利義務ノ主体ナリ、即チ認定法上ノ活動干係ノ

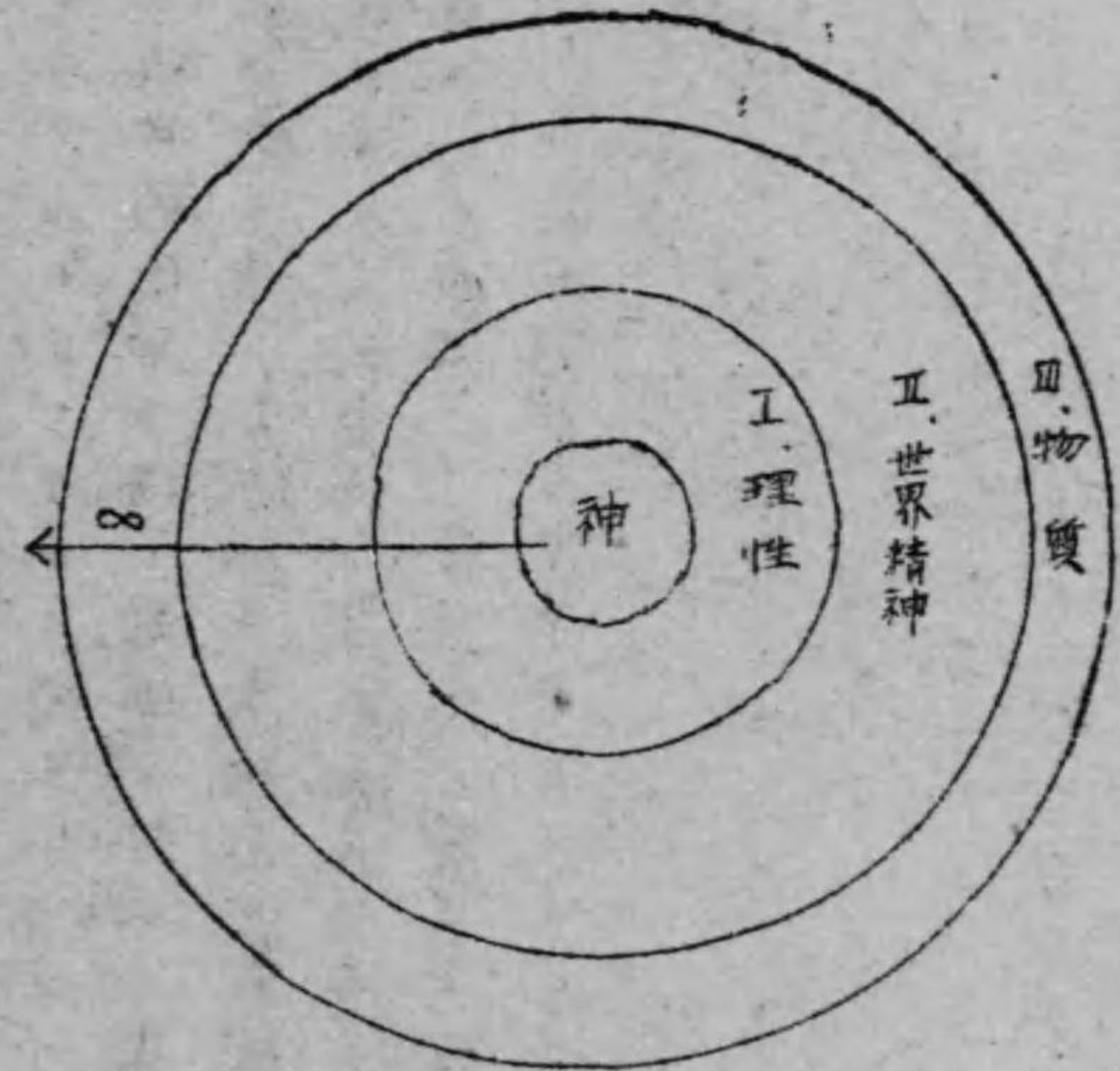
文入

主体ナリ、認定法上少クモ矛盾カ有スルモノニ非ラサレハ人 (power-
ful) ニシテ人ニ非ラサルナリ、人間 (homo) ニシテ尚ホ人格 (caput)
ヲ有セサルナリ、之ニモ関セヌ「ローマ」人ハ益々其ノ矛盾ノ要求ヲ拡張シ
其ノ独立的統括干係主觀論ニ対スル矛盾ヲ求メ更ニ進ンテ表現干係ニ及ヒ
表現活動干係ノ主体即チ表現人ヲ意識スルニ至ラサリシハ尚ホ「ローマ」市民
ノ上ニ出ツヘキ余地ノ存スルヲ示スモノトス、Neoplaton 派カ東洋思
想ヲ入レテ躍起シ、基督教ノ博愛ヲ標榜シ、思想ニ最モ深キ根底ヲ映ハシ
トセシモ蓋シ偶然ニアラサルナリ

第二章 新歐人ノ思潮

第一節 中世思想ノ大要

政本部ノ新民族ヲ支配スルニ至リシ基督教ハ西方教会ノ教ナリ、*Praxis* 及ヒ其ノ後継者ノ奮闘的主觀的精神ヲ継承シ「ローマ」古来ノ主觀主義トシテ、*Plotinus* ノ主觀主義トニヨリ鍛鍊サレタル気分ヲ有シ、「ローマ」ノ法律制度ヲ學テ立テタル意思組織ヲ有セル教会カ *Augustinus* ノ教会及ヒ國家論ヲ其ノ旗章トシテ、*Augustinus* ノ勢力ニヨリ独斷ヲ以テ過ク世界ヲ統一セントセシハ中世ナリ、*Augustinus* 心靈界ヲ統一セントセシニ上マラス *Augustinus* ノ希望ニシテ、*Augustinus* 基督教ノ信仰ノ上ニシテ、*Augustinus* 調和シ得ヘキ古代ノ思想並ニ文明ヲトシテ、*Augustinus* 法律政治經濟界一統一セントセルモノナリ、其ノ計画ノ大ナルコト、*Augustinus* 其ノ主義ノ一貫セルコト容易ニ他ニ求メ得ヘカラス、今日ノ政人並ニ其ノ國家ハ實ニ此ノ教会ノ後見ノ下ニ成長シ近世ニ至リ、*Augustinus* 或年時代ニ達セシナリ、*Augustinus* 教会ノ力ニヨリ各國各人ハ宛々教会ノ化身トナリテ新世界ニ建



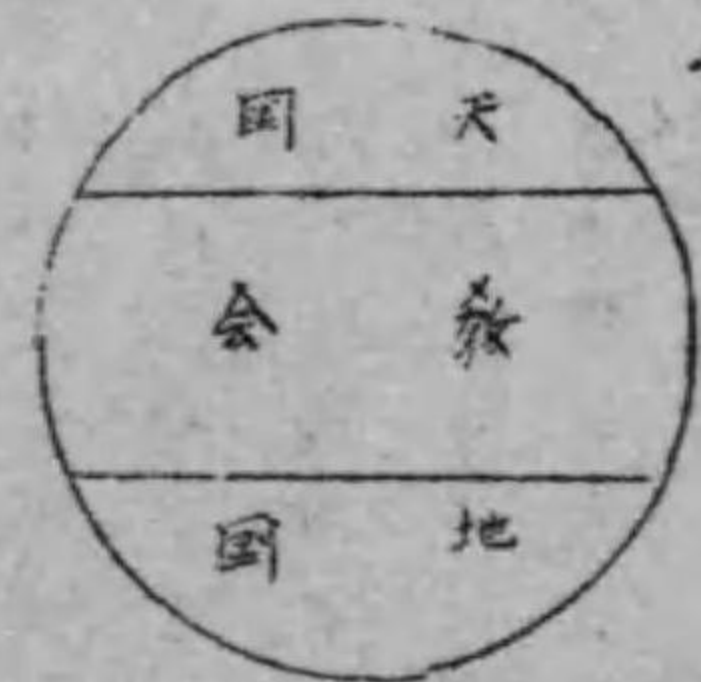
Aristoteles

Emanatismus (發生論)

Plotinus
基督教

信仰
愛
事
X
律法
理
職
靈土

Gothische Styl



飛スルニ至レリ、然レニ或時代或場所ニ於テ信仰修養ノタメニ用キラル、
独断的教義並ニ偶然ナル形式ハ決シテ其依他ノ時代及國家ニ用キラル、コ
トナシ、況ンヤ信仰ノ練習ノミニ屬セサル學問政治經濟ノ世界ニ用キント
スルニ於テオヤ、中世ノ「ローマ」教會ハ其ノ專制力ヲ振テ其ノ独断ヲ土台
トナシ其ノ上ニ此ノ種ノ無理ナル企テ完成セントセリ、從テ生キタル信仰
ト之等各方面トカ真ニ調和スルニ至ラス、從テ基督教眞キノミニシテ宗教
上ノ独断及ヒ偶然ナル私ノ形式ト相混同シ互ニ妨害シ、其ノ悉皆ノ自由ナ
ル進歩ヲ妨ケタリ、此ノ時代ニ於テ不成功ヲ歎シテ成功トナシ、專制的教
會ヲ破リテ各國各人ノ自由ナル獨立ヲ計リ宗教的專制ヲ排除シテ學問法律
經濟ノまことノ獨立ヲ企テタルハ近世ノ曙光ヲ放ツモノナリ、

第二節 中世後期ノ思想

政中世ノ文明ハ新歐人ノ文明ナリ、之レハ宏大ナル意思組織ヲ有セル教
會ノ監督ノ下ニ於テ教會ノ取捨選擇セシ処ニ從ヒ古代ノ文明ヲ継受セシモ
ノニシテ其ノ雄大ナリシト云フニ至ルニ至リ、其ノ思想ノ特色ハ全ク神學的、基督教的、「ローマ」教會的ニシテ且ツ形而上
學的ナルニ在リ、中世ノ後半ニ至リテハ教會ノ制度並ニ独断力次第ニ發達
シ、僧門統括制ニ確定シ、古代ノ哲學ヲ利用シテ教會哲學ヲ興シ、自然ノ
智識ト神學トノ連絡亦著シクナレリ、概念又ハ普遍ノミヲ以テ客觀的ノ實
在トナシ、何物ノ實在ヲ否定シタル中世ノ實念論 (Realism) 亦學說ノ
体裁ヲ備フルニ至レリ、然ルニ充實及ヒ普遍ヲ名トセル專制主義ニ飽キタ
ルコトハ *Formalism* 中ニ存セシ差別思想ト結合シ希臘古代ノ思想ヲ兼
用シ名目論 (Nominalism) ^(學名論) ヲ發達セシメタリ、名目論ハ普遍ハ何物
ノ後ニ存在スル所存ナリトスルモノニシテ實念論ニ對シテ勝利ヲ占メ中世
ノ教會哲學ハ其ノ長所短所ヲトハス唯名論ノ主義ヲ奉スル近世哲學ノタメ
ニ打破セラレタリ、

「ローマ」教會ハ在來普遍主義ヲ以テ独断說ノ利害トナシ *Augustinus*
ノ自力方面ヲ稱ニ上ケ專マ其ノ他方方面特ニ教會論ヲ道具トナシ、各人ノ
獨立、個人ノ自由証得ヲ認メス、全然普遍ナル教會ノミヲ認メ一ニ教會ノ

七四
教義正ニ認定法ニ從ハシメタリ、唯名論ノ勝利ハ之ヲ打破シ各個人ヲシテ
其ノ所ヲ得セシメ其ノ天然ノ本性ヲ發揮シ自己内部ノ命令ニ從テ察セシム
ルヲ主義トセリ、其ノ重シムル所ハ独斷ノ形式的遵奉ニハ非ラスシテ自然
ノ公平ナル研究ニ在リ、主旨タル独斷、不完全ナル形而上學ノ產物タル
リタル概念ヲ以テ實在トセハ事實上生活々動シ、矛盾シ、變遷スル個人何
物ヲ以テ實在ノ唯一ナル根源トセルモノナリ、此ノ主義ハ古文復興並ニ家
族改革ニヨリテ近世ノ思想ヲ開始センメ新鮮ナル活力ヲ以テ人類及ヒ國民
ノ共同生活ヲ改良シ、何人何物ヲ神聖ナラシメタリ、

第三節 十六世紀ノ思想
(過渡時代)

近世思潮ノ黎明ハ Renaissance, Reformation 及ヒ俗世界ノ独
立 (Secularization) ヲ以テ著シキモノトシ、自然ノ尊重ハ其ノ元テ
貫通セリ、

第一款 古文復興

「ローマ」教會カ約一〇〇〇年ニ亘リ新政人ニ高等ナル共同生活ヲ教ヘ無
差別普遍ノ思想ヲ練習セシメタル結果ハ人民ノ道德經濟法律政治其他一切
ノ社会状態ニ著シキ進歩ヲ為ナシメタリ、中世末ニ及ンテハ最早專制的
独斷的、形式的ナル教會ノ媒介ヲ持タス、自ラ精銳ノ力、進取ノ勇氣ヲ以
テ直接ニ古代文明ノ跡ヲフミ、其ノ研究方法ヲ襲用シ外物界及ヒ社会ノ自
然正ニ歴史ヲ研究シ得ルニ至ラシメタリ、就中其ノ一タル氣風ハ真面目ナ
ル心算ノ修養、事實上經驗シタル普遍ノ根拠ノ上ニ精神ニ富ミ、調和ヲ失
ハサル美術ヲ創設セシメ、調和セル自然界ノ研究ニモ種々ノ著シキ發見ヲ
ナサシメタリ、*Nicolaus Copernicus* カ天体ニ干スル發見ヲナ
シテ今日ノ天文学ノ基礎ヲ作りシモ亦此ノ時期ニ在リ、
古文復興ハ婦スル所ナカリシ古文ノ復活ナリ、古學ノ復活ト共ニ教義ノ
矛盾反對セル學說アリテ其ノ婦スル処ヲ知ラサシメタリ、然モ斯ノ如キ
ハ却テ益々其ノ偶然ヲ去リ独斷ヲ排シ自然ノ真面目ヲ研究シ得セシメ學問

ノ進歩ヲ促サシメタリ。但シ此ノ複雑ナル思想界ニ於テスヘテノ學者人民
ヲ通シテ動カスヘカラサル意識ハ各個人ノ自信ナリ、各自カ其ノ内部ニ信
頼セントスル意識ニ在リ、各人ノ有スル智識ノ正当ナルヲ信スルト共ニ懐
疑論ノ全然屏息セルニ在リ、中世ハ *Augustinus* ノ他方説ノ實現ニシテ
近世ハ同シ *Augustinus* ノ自方説ヲ以テ初マルモノト云フヘシ。而シ
テ神学ヲ離脱シ、哲学上之レヲ自覚ニ上シタルモノハ *Rene Descartes*
Hes ナリ。又神聖ナル自方ノ確証ニヨリ自己ノ自説ヲ守リ異端罪ニ向ハ
レ殺サレタルモノハ伊太利ノ學者 *Spinoza* ナリ。彼ハ基督教ノ独断ヲ
崩レ、古代ノ基督教中ニ裁セラル、汎神論ノ精神ヲ結晶セシメ歐洲近世ノ
汎神論ノ先驅トナレルモノナリ。

第二款 宗教改革

古文復興ニヨル個人ノ自意識ノ牽連ハ實際ニ齟齬シヌハ形式化シタル教
会ノ專制ヲ脱シ、其ノ独断ノ羈絆ヲ離レ、各自ノ自由証得ヲ教フル新教ヲ

樹立セシムルニ至レリ、其ノ結果ハ宗教生活ノミナラス國家生活及ヒ學問
美術ノ生活ニ自由主義ヲ認メ且ツ旧「ローマ」教會モ劇然シ新生活ヲナサシム
ルコトナレリ、今宗教改革ノ主要ナル影響ヲ述ヘシ。

第一、宗教改革ハ古文復興ト相待テ著シク宗教生活ト世間生活トノ間ヲ調
和シ、此ノ世ニ於テ神ノ國ノ一部分ヲ實現セシムルコトヲ主タル目的ト
セリ。

第二、中世ニテハ神ニ仕フルニハ各自敬神ノ念ヲ篤クヲ要求セシノミナラ
ス、必テス教會僧侶ノ媒介ニヨルヲ要シ、人間間ニ存スレ他力ニ信頼ス
ルコトヲ以テ信仰ノ要件トセリ、反之改革以後ハ各自ノ自力ニヨリ基督
ト高レナル神ニ仕フルヲ得、神ノ愛ニ接スルコトハ一々各個人ノ自由争
業タルニ至レリ。

第三、宗教改革ハ國家ヲシテ全然「ローマ」教會ノ教權ヨリ独立セシメ國家
ヲ以テ教權ノ下ニ立テ其ノ用ヲナスヘクモノニ非ラスト認メシメ、同時
ニ國家ヲシテ教會ノ教理ヲ奪取シ、自家ノ法理トシ、教會ノ制度ヲ持テ
束リテ自家ノ制度トナサシメタリ、即チ教會ノ権力ハ神權ノモノナリト

主張セシ中世ノ教会説ニ模倣シテ國家コソ王國ヨリ公國ニ至ルマテ悉ク
神意ニ基キテ存スルモノナリト説明セラレ、國家ハ皆神授ノ権カヲ有ス
ルモノト信セラレタリ、ソノ上極立シタル國家ハ僧門統制ヲ採用シ、
已内部ノ意思組織ヲ完成シ、教会法（寺院法）ヲ專ヒ國法ノ一部分トシテ
「ローマ」教会ノ專制的侵略主義、專制的統一主義ヲ學ヒ國內ヲ統一シ
外國ニ干渉スルニ至レリ、出世間ノ法理、政策カ宗教改革ト共ニ一軌シ
テ世間法理、政策ニ化シタルモノニ他ナラス、

七八

第三款 世間生活ノ独立

近世ハ出世間的ナル教会ノ普遍主義ヲ打破スルニ初マレリ、然レトモ實
際上長ク養ハレシ信仰ハ近世ノ初メニハ人心ニ深ク浸潤シ、普遍主義モ亦生
活ヲ支配セリ、

故ニ近世ノ主義ハ個人主義ノ是認ニ初マリシカ同時ニ國民生活ノ是認人
類生活ノ是認ヨリ始ル、國家主義、人道主義、即チ個人主義ト共ニ近世ノ
願望ナリ、而シテ実行上之ヲ調和セント試ミテ成功セシモノハ教会ニ非ラ
ズシテ國家ナリ、君主ハ其ノ權勢ヲ中心トシテ國家ヲ範圍トナス統一の團
体ヲ作り、一方ニハソノ内部ニ於ケル不自然ナル階級ヲ排除シ、直接ニ各
人民ヲ保護シ、他方ニハ外國ト競争シテ優勝ヲ得ント期待セリ、之ヲ近世
專制君主國トス、地上ノ國家ハ最早獨断的形式ナル教会ヲ脱シ独立シテ
神ノ國ノ一部分ヲ實現シ得ル地位ニ達セシナリ、
第一、近世ノ社會生活ハ國家專制主義、殊ニ君主專制主義ヲ以テ始マレリ、
當時ノ君主大詰候ハ專制ノ方針ヲトリ共ノ國家ヲ確立セリ、而シテ學者
トシテ之レヲ是認シ獎勵シタルモノニハ伊太利ノ Machiavelli、
仏ノ Jean Bodin、
德ノ Luther、
如キモ君主神授ヲ是認セ
リ、

第四、然レトモ之レト並ニ制限君主主義及ヒ民権主義ニヨリ個人性ヲ發揮
ス

七九

センコトヲ四リシコトモ十六世紀ニ見ル所ナリ。 *Jean Calvin*
 ノ教徒ノ全部及ヒ *Luther* 派ノ一部分ハ君権ノ制限ヲ必要ナリトシ斷
 木民権主義及ヒ共產主義ヲ唱道スルモノヲ輩出セシメタル。英國ノ *Ho-*
mas Moore (1616) = *Utopia* ヲ著シ共同所有ヲ唱ヘ遂ニ死
 刑ニ処セラレ。又 *Hubert Tanguet* 英人 *George Buchanan*、
Richard Cooper ノ民約論者ニシテ君民ノ契約ニ重キヲ置キシモノナ
 リ。

流中「ローマ」教会ノ革新ト共ニ起リ其ノ旧儀タル *Jesuit* 講社ハ
 拳々チ君主主義ニ反対セリ、其ノ中学者トシテ拳々クヘキモノ、中ニハ
Jean Mariana 下リ、彼ハ十六世紀ノ終ニ君主論ヲ著シテ自然狀
 態ヲ基礎トセル民約論殊ニ社会契約論ヲ唱ヘ、伊太利ノ *Jesuit* ナル
Bellarmino、モ民権論者トシテ知らレ。

第四節 十七、十八世紀 思潮
 (自然法全盛時代)
 第一教 總論

近世ノ文明ハ信仰ヲ振へタル中世ノ基礎ノ上ニ發達シ得シカ、中世カ余
 リニ專制的干渉的独断的ニシテ極端ニ自然人事ヲ歪曲シタル反動トシテ中
 世ノ思想及ヒ信仰ニ及テミテ建設セラレントセシモノナリ、ローマ教及ヒ
 中世的、世間的專制ヲ破リ基督教各宗派ノ独立及ヒ世間生活及ヒ學問ノ独
 立ヲ企テシモノナリ、新政人カ長キ間教会ノ訓練ヲ受ケシ次ケ一層急速ニ
 還俗シ、教會專制不道理ナリシ程愈々旺盛ナル勢ニテ旧式ヲ打破セリ、十
 六世紀ニ存在セシ全部及ヒ独断的宗教ノ思潮ハ十七世紀ノ識者間ニハ最早
 片影モ止メス、十八世紀ニ至リ單純明瞭ナル個人主義、智識主義、自然主
 義トナリ、所謂自然法全盛時代トナレリナリ。

俗事ニ于スル嗜好ハ急進シ、尙事ニ于セズ苟クモ俗ノ守ニテ形容セラレ
 、モノハ大小ナク社会ヲ支配スルニ至レリ、俗世界ヲ研究スル近世ノ法律

學及ヒ國家學ハ皆十六、十七世紀ノ間ニ始レリ、此等ノ學者ハローマ教ノ
八二
被斷的神學ニ根柢シテ其ノ教廷ヲ事トセリ、各人ノ内部ニ存スル悟性ニ根
柢シテ論理ニヨリ之レヲ排列セリ、神意ハ認定法ノ說明ノ基礎トナラス、自
然人生及ヒ之等ノ認識ヲ根柢トシテ論述セシカ、認識ニ付キテ次第ニ實驗
ノ価値ヲ認メラレ遂ニ精神現象ノ次五ニモ及ホス、地盤ヲ作り十七世紀ノ
終リニハ認識論ノ基礎ヲラシメ、十八世紀ノ後半ニ至リテハ Kant
認識論ヲ大成セリ

然レヒ社會生活ノ研究ニテハ實驗ニ重キヲ置クニトナク思辨的ニシテ十
八世紀ノ終末ハ被斷的自然法學說流行ノ時代ナリ、社會及ヒ君民ノ契約說
ハ國家法律學ノ被斷的規則トナリ、之ヲ動かサレ正義トナシテ一切ヲ論議
シタリ、此ノ被斷的契約說ノ根本タル意識ハ個人主義ノ是認ニアリ、各人
ハ本來獨立全部者ニシテ國家ノ分子ニハアラス、國家ハ各人ノ目的ノため
ニハ其ノ自由ヲ作ラレシムルモノニシテ各個人ニオクレテ存在スルニ至リ
シモノナリ、國家本ニ非ラヌシテ個人本ナリ、自我アル故ニ國家アリ、自我
ノためニ國家存在ストナセリ、

當時ノ自然法、主權中ニハ二種ノ元素ヲ包含ス、一ハ消極的の元素ニシテ
他ハ積極的の元素ナリ、前者ハ基督教ノ神學的世界觀ヲ離レ、獨立シテ自由
ニ思索セシコトニシテ、後者ハ契約ヲ被斷シ各人ノ偶然ノ思惟キヲ出發点
トシ國家法律、一切ヲ說明セントセシコトナリ、各個人ハ自己ノ自由意思
ニヨリ國家ニ服従スルコトヲ明示的ニ又ハ默示的ニ承認セルカ故ニ國權ニ
服従スルノ義務ヲ生セシモノトナセリ
此ノ時代ニ各個人ハ教會ノ專制ヲ脱セシト共ニ一先ツ小個人ノ被斷及ヒ
個人專制ヲ神聖ナルモノト信セルナリ

第二款 十七世紀

十七世紀ハ過度時代ニシテ各自ノ思惟キニヨリ思想ノ系統ヲ立テ學問ヲ
以テ自然界ヲ征服シ個人ノ神タル所以ヲ証セントセシ初期ナリ、其ノ學語
ハ Latin 語ニシテ其ノ研究ハ宇宙一般ヲ対象トナシ、ソノ見出サントス
ル學理ハ宇宙自然ノ真理ナリ、然シテ分析研究ハ先ツ外界ニ付キテ行ハレ
元素及ヒ其ノ相互關係ヲ支配スル因果關係ノ認識ハ次第ニ社會ニ于スル原

予論ニ勞ヲ附與シ、此ノ世紀ノ后キヨリ實驗的研究カ着々進歩セリ、此ノ
 種ノ研究カ社会ニ于スル學問ノ上ニ準用サレシ結果国家社会ヲ分析シテ得
 タルモノハ物質上ノ原子ニ當ルヘキ個人ナリ、各個人ノ自信、自然ノ自意
 識ヲ中心トシテ出發セシ學問ハ、研究ノ結果更ニ各個人ヲ以テ唯一ナル最終
 ノ單位ト見做スコトナリ、個人自我ノ已惚ハ其ノ總項ニ達セリ、而シテ君
 主モ而獨立ノ個人トシテ其ノ自信ニ本キ自信アル無敵ノ個人ヲ統括シテヲ
 強制スルモノトセリ、異ニ於テ之ニ対シ種々評論ヲ試ムルニ至リ其ノ形式
 ハ申合セタル如ク契約説ヲ用キタルカ契約ノ效果ニ付キテハ極端ヨリ極端
 マテ見解ヲ異ニシ、何レニヨルヘキカヲ知ラサラシメタリ、
 此ノ世紀ニ一般ノ哲理ヲ研究セシ學者ニシテ特ニ注意スヘキ人物ニハ英
 Francis Bacon (Bacon) 及ルノ Rene Descartes
 アリ Bacon ノハ論理学ノ感斗ニシテ今日ニ至ル迄近世ヲ貫キテ彼ノ實利
 主義、論理主義ノ影況ヲ受ケタリ Descartes ハ分析ニヨリ白明ナル
 根拠ヲ自我ノ意識ニ求メ地理論ヲ唱ヘ、外界ノ機械論 (Mechanicisms)
 ヲ説キ、近世哲學ノ系統ヲ組織シ其ノ先驅トナレリ

此他英ノ Thomas Hobbes John Locke 蘭ノ Spinoza
 独ノ goethe'se Hebeling 等、法律學上ノニナラスハ一般哲理ノ要
 邊發達ニ重要ナル地位ヲ占ム

第一 Hugo Spatilis (de grooth) 希ノ啓蒙時代ノ說者
 Hippiano Aristoteles 並ニ stoic ノ影況ヲ受ケ且 Cicero
 ノ哲學、羅馬法律ノ研究ニヨリ、又前古紀ニ蘭ヲ動カシタル Calvin
 ノ思想ノ下ニ民権主義、自然法、殊ニ人法ヲ行ヒ人道主義ト共ニ國際的
 生活ヲ要求シタリ、彼ノ法理論ハ人民契約ヨリ始メシリ、民約説ハ已ニ
 Contractio 以前ニ存在セシカ彼ノ説ハ穩健ニシテ且ツ其ノ精神ノ生キタ
 ル處ニ於テ大ナル勢力ヲ得其ノ國家説、倫理觀ハ近世ヲ通シテ永ク其ノ生
 命ヲ持續セリ、其ノ説ニ曰ク、人ハ共同生活ヲナスヘキ性質ヲ有ス此ノ内
 部、要求カ相互ヲシテ契約ヲ結ハシメ國家國法ヲ設定セシメタルモノナリ
 故ニ國家ハ權利ノ共有ト一級ノ利益トヲ目的トスル個人ノ自由團結ナリ、
 第一 Thomas Hobbes 彼ハ近世ノ原子論、唯物論ノ祖ニシテ
 又其説論ノ遠祖ナリ、カ学トシテ國家學、法律學ヲ解決セントセシコトハ

彼ノ法眼ヲ備エタルヲ証スルモノナリ、彼ハ古代詭辨論者ノ自然法学説ヲ
 トリ *Spikulation* 及ヒ果ノ快樂説ヲ影況ヲモ受ケタリ、曰ク、人生盡ク
 患・利己心アルノミ、故ニ自然ノ状態ニ於テハ各人ニ対スル各人ノ争鬪下
 ルノミ、此ノ苦惡ヲ脱センカタニ相約シテ国家状態ヲ開始セリ、然シ氏
 約ノ結果ハ各個人ノ天賦ノ権利ヲ絶対ニ君主ニ讓渡セルモノナリト、サレ
 ハ彼ハ国憲万能主義即チ国家專制主義ヲ主張シ、君主ノ权力ノ侵スヘカラ
 サルコトヲ認メシレヲ *Hotheimianismus* ト称ス、君主即チ国家力
 以自ラ及省シテ合理的安治ヲトル、外ナキモノトシ之レニヨリ合理主義ニ
 帰着スヘキモノナルコトヲ要求セリ、曰ク認定法ハ此ノ君主即チ国家カ命
 令ナルカ故ニ絶対ノ效力ヲ有ス、唯理法タルカ故ニ強制力ヲ有スルモノニ
 非ラスト、此ノ説ハ當時流行ノ民権論ト並テ永ク帰依者ヲ有シ遂ニ立憲國
 ニ於テ両極端カ融合シ得タルナリ

第三 *Barnack Heppinoga (Spinoga)*

Spinoga ハ *Stoa* 及ヒ *Bruno* ノ思想ニ次キ汎神論ヲ囑
 ハ全一哲學ヲ主張セリ、心ト物トハ唯一ナル本体ノ両方面ナルコトヲ云フ

ニノナリ、然テ彼ハ外界ノ機械觀ヲトリテ精神界ニ應用セントセリ、其ノ
 國家論ニ付キテハ人民約説ヲ愛シ *Hobbes* ニ反對シテ自由主義ヲ具、結
 論トナシ、其ノ性格ヲ著シク異ニセリ、唯不屈不撓ノ確信ヲ以テ自己ノ學
 説ヲマケサル矣ニ至リテハ共通ナリ

第四 *John Locke*

Locke ハ個人ノ認識能力ヲ研究シ、意識ノスヘテ後天的 (*in post-
 eriori*) ナルコトヲ論シ、経験・實驗カ悉皆ノ智識ノ唯一ノ淵源タル
 ヲ主張セリ、從テ其ノ國家法律論ニ於テ採用セル民約論ヲ保護シテ民約ヲ
 以テ史上ノ事實ナリトナセリ、而シテ英國ノ現状ヲ標準トシテ述ベタル國
 家制度論ハ後日ハ *Montesquieu* ノ三権分立論、基礎ヲナセシコ
 トハ人ノ如ル所ナリ、

第五 *Gottfried Wilhelm von Leibniz*

彼ハ餘ニ哲學及ヒ數學ニ於テ有名ナレド近世ニ於ケル最大方面ノ學者ノ
 一人トシテ學問ノスヘテノ領域ニ亘リテ功績ヲ文テタリ、尤ツ法律學ヨリ
 入り、政治家及ヒ外交家トシテモ活動セシ人ナリ、彼ハ外觀ノ機械觀ト、

Platonus 及 Aristotleoteles 目的論ヲ結合セシメ、又新教ノ神學ト旧教ノ神學ト哲學トヲ合一セシメタルモノナリ
 Trilanchetiv 研究ハ此ノ實ニ於テ被ニ影響セリ、彼ハ唯神論者ニシテ Bruno ニツキテ單子論 (Monade) 一單子一 *monadologie*、主鳴者ナリ *monades*、ハ独立自存ノ主体タル單一的精神体ゾ、即チ精神の單子ナリ *monade*、ハ無数アリテ予定調和ヨリ融合調和ス、各個人モ亦小宇宙ニシテ、各独立シ、自存スル自主体ナリ、此ノ自存ニ基キテ有セル真正ナル権利ノ主張ヲ調和スルモノカ認定法タルナリ、故ニ法律學ハ権利學問ナリ、於是乎法律學ハ正義ノ學問 (*ethn. legislation. garantierung* 等参照) ヨリ権利ノ學問トナリ、在来ノ義務本位ノ學ハ転シテ權利本位ノ學トナリタリ、

此ト同時ニ各個人ハ独立自存ノ主体ナルモ其ノ權利ノ主張ニハ予メ存スル予定ノ法則アリ、唯物論者ノ Hobbes ハ國家法律ヲ力學ニヨリ專制的ニ配キタルカ、唯神論者タル Leibniz、*monade* 各自リ己レ内部ニ具備スル予定調和ニヨルカノ千條ニ基キ國家法律ヲ説明セントシ

アルモノナリ、而シテ彼ハ極力 *Wachse* カ玉限セシ當時、純至靈論ニ及
 対シテ理論 (純理論) ヲ唱ヘタルカ、彼カ独斷偏見ニ甘ンシタルモノニ非
 ラサルコトハ法學研究ノ方法ニ付キテ始メテ史的比較研究ノ必要ヲ論ミタ
 ルコトニヨリテ知ルコトヲ得ヘシ、

以上諸學者ノ外ニ自然現象ノ研究ニ付キテハ伊ニ Galileo (galilei) ナリ *Anatolia* ニハ Joseph Kepler アリ、*ibei* ニハ *Rassandri*、*ibei* ニハ *Newton* ナリ *Newton*、*Racon*、研究方法ヲ發用シ實驗ヲ主トシテ自然ヲ用ナタルモノナリ、而シテ十七世紀ニハ其ノ後半ヨリ實驗科學ノ研究ニ移リ初メタリ

第三款 十八世紀、啓蒙時代

第一項 概説

一八世紀ニ至リテモ宗教トシテ人間、中心トセシ基督教ハソノ曠駁
 視サレシニモ拘ハラヌ尚思想最后ノ根底トナレリ、而シテ此ノ盛時ニ至リ

テハ益主我的トナリ個人、自益及ヒ自由ヲ中心トシテ具、文明各自、幸福ノ増進ヲ唯一ノ目的トセリ、各個人ノミナラス国家モ亦各個人ノ幸福ヲ終局ノ目的トナスニ至リシカ同時ニ前世紀以来ノ国家專制ト個人專制トノ二元制の対立ハ益々甚シキヲ致セリ、而シテ此ノ二元專制、衝突ハ例ヘハ革命ヲ生セシメタリ、近世ノ專制國家ハ前世紀迄ニ國家君主ノタメニ外部ニ對シテ自己ヲ主張シツ、其ノ内部統一ノ維事ヲ完了シ全然其權力ヲ確立シ得タリ、人道主義ト個人主義トノ事實上ノ調和ハ國民國別主義ヲ完成セシメタリ、十八世紀ニ於ケル此等ノ國家ハソノ人民ノ幸福ノ為メニ其ノ統一ノ下ニ立ツ、悉皆ノ人民ヲ率ヒテ腕力ヲミナラス政治經濟ノ各方面ニ亘リテ相互ニ競争ヲ試ミタリ、狭小ナル團體ニ於ケル個人ノハ團體ノ競争ニハ非ラスシテハ人民一般ノ幸福ヲ標榜スル所ノ各專制國相互ニ國際的競争ナリ、君主ハ人民ノタメニ人民ノ指導者ヲ以テ自ラ任シ中世、ローマ教會ノ如ク大トナク小トナク有形無形トナク人民ニ干渉シ強制力ヲ用ヒテ人民ヲ強制シツ、經濟生活ヲ發達セシメ富國強國ヲ因リ中世末ヨリ次第ニ大規模トナリ十六世紀ニ榮エタル重商主義ハ実行上其ノ總項ニ達シタリ、而シテ歐大

陸殊ニ

Pravosen, autriem

ニ於テ模範的、開明專制主義

*(Aufgeklärter Despotismus)*ノ國家ヲ見ルコトヲ得、

且ツ独逸ニ於テ國家ノ目的ニテスル幸福觀 (*Friedensmaximierung*)

ノ益ニ優劣ナリシハ此ノ時代ナリ然レモ此レト同時ニ君主及ビ貴族ヲ目ビノ為メニ益々國家專制ニ偏執セシムニ於テモ思想政治並ニニ制度ニ於テ最進歩セシ英ニ於テモ重要主義之レニ伴フ、保護貿易主義ニ及テ自由放任ヲ唱フル者ヲ唱セシメタリ、*Guiney*ヲ始メトシ所謂 *Physi-*

calists 及ヒ英、*Adam Smith* 等即テ之ナリ、彼等ハ皆

現今ノ科學的經濟學ノ確立者ニシテ社會ノ各階級ニ亘リ富ノ分配ヲミテ當ヲ俾セシメンフハ彼等ノ持ニ重シタル所ニシテ富ノ分配ニテハ自然法ハ然心ニ研究シ始メラレタリ、就中 *Smith* ハ此ノ方面ノ完成者ニシテ法律並ヒニ道德ヲ是認シツ、其範圍内ニ於ケル各個人ノ利益即チ利益ノ主張ヲ適當トナシ之レヲ中心トスル各自競争ヲ以テ社會國家ノ發達並ヒニ一般ノ幸福ヲ到達セシムハキモノナリト主張セリ、而シテ政治法律ノ方面ニ於テモ個人ノ自由並ヒニ自治ノ精神ヲ或ヒハ *Menteligion*

三権分立論ニヨリ、或ハ又 Rousseau、民権的ノ民約論ニヨリ益々完成セラレ Kantノ國意目的ニ于ル法律說ヲモ出タサシメタリ
 法治国或ヒニ自治制度ノ差別的方面ノ基礎ハ殆ト此ノ盛時ニ築カレ、而シテ國家ト社会ト相対立スルコトモ漸ク著シクナレリ、此ノ世紀ノ思想界ハ是ク、如クニ元的ナレ其ノ大體ヲ見レハ各個人ノ統一サレタル政治組織、下ニ國民トシテ著シク發達シ新ク散久ノ自由論ヲ以テ著述スルコト、ナリ且ツ平易簡單、著作カ最モ有效ナルニ至レリ、此ノ時代ノ哲學者ハ他人ノ教ニ從ヒ他人ノ經驗並ヒニ研究ニ信賴スルヲ整ヒトセズ故マ自己獨然ノ見解ヲ立テ信仰ヲ惜ム丁蛇蝎ノ如ク却テ自己ノ狭小ナル独断迷信ニ陥レリ其ノ他或ハ人智ノ過分ニ深嚴ナルコトヲ認メ毛ヲ外部的實現ノミニヨリテ之ヲ獲得シウヘキモノト独断ニ或ハ人智ヲ以テ正確トシテ知識ノ効力ヲ疑ヒ或ハ知識ノ制限々界ヲ見出サシメテ專ラ知識ノミヲ用ヒテ判断セント試ミタリ、要之此ノ時代ノ學說ハソノ研究ニ付キ如何ナル方針ヲトレルモノニテモ一般ニ個人ノ自由独立ヲ主旨トシ主理的根柢ノ上ニ立テ擬シテ功利的道德說ヲ旨トセリ、宗教道德ヲ始メ法律的政治經濟ノ學モ亦此ノ支配

ヲ脱セルモノニ非ス、然シ當時ノ平易ナル學說モ單ナル道德は事ニ非ラス之レニヨリテ或ヒニ先キテ手ヲ學問及社会ノ改造ヲ企テタルモノナリ、哲學者ハ率先セル大改革者ニシテ社会改造ノ最モ根本的ナル道德ナリ、其ノ說ク所ノ後代ニ影響セシメテ識ニ大ナリ、而シテ政治法律ノ世界ニ大變動ヲ與ヘタル原因トナリシモノハ Rousseau 及 Montaigne 及 Rousseau ナリ、前者ハ猶ホ比較的研究ノ必要ヲ唱ヘ后者ハ知識主義ノ打破ヲ試ミ其ノ英ニ於テモ亦時代思想ノ先驅ヲ為セルモノナリ、而シテ近世初期以來ノ認識論ニ解決ヲ與ヘ哲學思想ヲ統一大成シ哲學上最大ナル系統ヲ立テ根本ヨリ思想ヲ牽セシメ后世ノ哲學研究者ノ必ス通過セサル可ラサル閘門トナリシモノハ Immanuel Kant ナリ

第二項 各學說

1) J. J. Rousseau

彼の民権的論者ナリ、極的ナル民権主義ノ論者ナレ其後、總意說ハ

九四
 個人主義ヨリ特ニ団体説又ハ全部説ニ転代セントスルカケ橋ナリト見ル
 一ヲ得ヘク個人ノ自由独立ヲ重スルト共ニ大イニ之レヲ統括スル全一ニ
 留意スルモノト云ハサル可カラス、但シ彼ノ説ニテハ個人カ何処マテモ
 本ニシテ先ナリ、全部ハ後ニシテ同時ニ非ラス、思ヘラク自然状態ニ於
 テハ人民ハ皆自由平等ニシテ博愛ヲ主義トセリ、所有ニ拘泥スルカ故ニ
 其ノ状態カ破ラル、ト共ニ争鬪止ム事ナク遂ニ相約シテ國家ヲ作シ人民
 ノ總意ヲ生スルニ至ル、總意トハ全部ノ統一ヲ意思ニシテ個人意思ノ強
 レナキ加算ニハ非ラス、國權國法ハ此ノ總意ヲ本質トナシ人民ハ其ノ當
 初ノ絕對ノ自由ヲ失ヒテ之レニ服役スルコトナリ、而シテ各個人ハ總意
 ノ支配ノ下ニ立ツニモ係ラス實ニソノ構成分子ナリ、故ニ結局自ラ已テ
 支配シツ、アルモノニシテ他人ノ強制ニヨリテ其ノ独立自尊ヲ犯サレツ
 、アルモノニ非ラス、汎神論的ノ感カ如何ニ Rousseau ノ民約
 論ヲシテ他ノモノト異ラシメツ、アルカニ注意スルコトヲ要ス Rousseau
 ノ偉大ナルコト並ヒニソノ特色ハ彼ノ民約論ノ結構又ハ論理ノ運用
 ニハ非ラスシテ形式的な理的決相的知識ニ代フルニ深キ感ヲ以テセントス

(2)
 九五
 Rousseau
 ル實ニアリ、彼ハ主観的ヲ載シテ感シノ思想ニ移ラシメ人間社会ニ理論
 的自由平等博愛ヲ實現セシメント欲シタリ、論理ニヨリテ引出シタル彼
 ノ結論ハ別トシテソノ精神ニ於テハ採レ可キ所極メテ多シ、長ク乾燥無
 味淡薄ニシテ矛盾及対ヲ以テ藪タサレタル形式的ナル煩瑣ノ理屈ニ飽キ
 タル仏人カ其ノ感ニ易ク熱シ易キ性質ニヨリ Rousseau ノ社会
 契約論(七六ニ)ヲ以テ經典トナセルハ当然ナリ、又シク且ツ益々激甚
 トナリタル專制政治ニ飽キ人民ノ自由思潮ニ付キ最モ世界ノ流行ニ后レ居
 タル仏人カ元来世界ノ先達ト中心トヲ以テ自ラ任シツ、アル所以ニ背カ
 ノ説ヲ實行セシハ其ノ中心ニ足ラズ以テ冷靜ナル理ヲ主トセル *Wolff*
 サラハカカニ急進セテ *Rousseau* *comes in his genuine*、説カ右曰外國ヲ動
 カシタルニ及シ此ノ當時直チニ仏國ノ人ヲ動カシタル者、 *Rousseau*
 ナルコトハ豪モ偶然ニ非ス、近世初期ヨリナハ世紀末マテ枚挙ニ堪ヘ難キ
 程多數ノ自然法説並ヒニ民約論ノ理屈ヲ初メテ政ニ於テ所モ其中心ニ於
 テ大規模ニ實現セシメタルモノハ生キタル感ト靈筆トヲ有セシ *Rousseau*
 ナリシナリニヨリテ彼ハ世界ノ偉人トナレリ

Kant *Teilnigkeit* ト夫ニ玄學ニシテ神學、哲學、倫理學、教育學、論理學、入美學、數學、物理學、地文學、金石學及ヒ法理學等ヲ研究シ、彼ノ哲學ハ近世哲學上最モ重要ナル地位ヲ占メ、其ノ法律論ハ云フ迄モナク彼ノ哲學ノ基礎ト爲ル可ラス、故ニ極メテ公平ニ彼ノ哲學論ヲ紹介シテ法律論ニ及フヘシ

五、哲學論

分析の經濟論ト云レト對立シテ下ラサリシ *Teilnigkeit* 等ノ、*Kant* ハ近世ニ至リテ發達セシ *Locke* 等ノ思想的合理論等ヲ調和セリ、彼ハ遠ク *Platon* 及ヒ *Aristoteles* 二得ル所多ク近クハ *Newton*、物理學ヲモ修メ入 *Hobbes* 以下 *Barboly*、*Hume* 等ノ分析的經驗論、唯象論並ヒニ懷疑論ヲ發達セシノ其ノ長所ヲ採リ入レテ認識ノ要件ヲ明カニスルト同時ニ *Teilnigkeit* 等ノ合理論ノ精神ニ合シ *Rein* (善及ヒ *Rousseau*、影響ヲ受テ認識ノ限界、要件、原理、並ヒニ吾人ノ意識、中ニ於ケル知識ノ地位ヲ明カニシ人等ノ理性ヲ神聖ニヒリ、彼ハ在来ノ合理論的、形而上學的即チ独斷哲學ノ所説ニ盲従スルヲナク其ノ唱ヘタル實在論ヲ是認セサ

リシカ、殊ニ個人ノ内容ニ於ケル道德的意識ヲ振興トシテ理性ヲ是認シ、合理的ナル啓蒙思想ヲ擊退セリ

哲學ノ研究ハ先ツ認識力ノ批判ヨリ始ムヘシ、スル方彼ノ意見ナリ認識力ノ批判トハ認識ノ可能不可能及ヒ可能ナリトスレハ其ノ程度範圍其ノ条件ノ吟味ナリ、此ノ吟味ヲナサ、ルモノハ独斷哲學ニシテ此ノ吟味ヲ出發点トスル哲學ハ批判哲學 (*Kritische Philosophie*) ナリト、而モコノ批判ハ徒ラニ外部及ヒ具ノ經驗ヲ分析スルモノニハ非ラスシテ吾人が先天的ニ有セル理性及ヒ具ノ作用ヲ分析シ精査スル丁ニ帰着スルカ故ニ又超絶對哲學 (*Transcendentale Philosophie*) ト稱ス、彼レハ純粹理性ノ批判ハ一七八一ニ於テ認識ノ範圍条件及ヒ之レヲ支配スル原理ヲ討究セリ、其說ニ從ハハ認識ハ感覺ニヨリ具ノ材料ヲ獲得スレバ其材料力具、係知識トナルニハ非ラス、之等ヲ綜合シテ知識トナシ知識トナスハ吾人純粹理性ノ先天的作用ニ外ナラス、故ニ吾人ノ認識スル外界ハ現象ニシテ外物

自体 (*Ding an sich*) タル實性ニハアラス、換言スレハ認識

対象ハ現象ニシテ吾人ノ先天作用ノ所産ニ外ナラス。現象ニ対スル
 與ノ實在ハ外物自体トシテ其ノ背後ニ存在スレド純粋理性ヲ以テシテ
 ハ到底之レヲ窺ヒ知レルヲ得ス。知識ハ最早之レニ何ヲ一歩ヲ進ム
 ル能ハス。於是純粋理性ヲ以テ満足スルヲ得ス。実践理性ヲ以テ此ノ
 外物自体ト交渉セサル可ラス。彼レハ次イテ其ノ実践理性ノ批判ハ不
selbstvermündigt (ニ於テ意思ヲ主トスル実践理性ノ道徳原
 故ノ要件トシテ知識ノ要件タル純粋理性上ニアルヲ論シ倫徳學及ヒ道
 徳的科學ヲシテ知識ノ規範ヲ脱セシメ之等ニ独立不可侵ナル根底ヲ附
 與セリ。之レト同時ニ実践理性ハ直テ入リテ外物自体ト交通シ得レ
 超经验的ノモノナルヲ以テ純经验的ナル利益幸福ノ上ニアリ。福利ト
 一致スルト否トニ拘ラス其自体独立シテ神聖ナリ。啓蒙時代旺盛ヲ極
 メタル道徳ニ于ヘル幸福説功利説ハ彼ニヨリテ打破セラレタリ。而シ
 テ彼ニ遂ニ判断力ノ批判 (*Kritik der praktischen Vernunft*) 一於テ
 美ノ判断ヲ論シ実践理性ト純粋理性ト調和スルモノハ美ニ在リトセリ
 此ノ美ノ判断論ヲ *Schiller's Schellings Kunstweg*

其ノ美ニ于スル思想ニ影響シタルモノナリ。而モ *Kant*
 カ其古代ニ發シタル問題ハ彼ノ對テト分離シタル実践理性ト純粋理性
 トヲ更ラニ合ハセテ得ル方法ヲキカ否カ並ニ外物自体ノ何物タルカ
 トイフヲナリ

其ノ法律論 *Kant* ノ法律論ハソノ哲學論ニ於テ充分鍛練サレシ深キ根
 拠ヲ有セル実践理性説ノ上ニ建設セラレタリ。從テソノ説明ノ形式ノ
 完全ト否トヲ問ハス活精神ヲ以テ活々タル。説明ノ形式ハ尚ホ民約ニ
 ヨレド彼ハ *Locke* 其他ノ民約論者ト異ナリ事實上ハ民カ契約ヲ
 タリト主張スルモノニ非ラスシテ斯クノ如キ形式ニヨリ説明スルカ
 時勢ノ要求ニ協フトスルニ止マル *Kant* 后ノ民約論者ハモハヤ *Rousseau*
Kant ノ設テタル範圍ヲ超ハテ史上ノ事實タル民約ヲ主張スル者ナシ
Kant ハ各個人カ理性ノ主体タルヲ前提ヒリ。各人ハ皆実践理性
 ヲ有シ其ノ命令ニヨリ自己ノ意思活動ニ對スル自己ノ規律カヲ設定ス
 即チ我カ意志ノ格率ナリ。換言セハ各人ハ自己ノ実践理性ニ基キ自己
 ニ對シ自由ニ立法スヘキモノナリ。但シ理性ノ命令トシテハ各人カ或

ル特定ノ場合ニ限テ自己ニ有効ナル格率ヲ設定スルハ不足ニシテ各自
ニノミ都合ヨキ規律心ヲ設定スルヲ以テ充分トセス、必ラス一切ノ
人ニ通シテ有効ナルハキ規律心タルヘキヲ要求スルナリ、汝ノ意思
ノ格率カ常ニ普遍的文法トシテ何人ニモ妥當ナルカ如ク行動セヨト云
ヘリ、換言セハ自己ヲ他人ノ地位ニ立ツモ他人カ自己ノ地位ニ立ツモ
共ニ有効タルハキ規律心ナラサル可ラス、又自己ノ規律心トシテモ他
人ノ規律心トシテモ被裁カ一旅ニ準拠シ得ヘキ性質ノモノナラサル可
ラス、規律心ハ又一人ニ對スルモ存在シ得ヘシ、然シテ切人ノ活動
ニ有効ナル規律心即チ普遍的格率カ命令ナリ、此ノ命令ニシテ福利、
理屈等ヨリ独立シ何等ノ条件モ理由モナク唯實踐理性ノ命令タルカ故
ニ之レヲ守ラサル可ラストスルモノアリ即チ無上命令(直言命令)也
Thegorischer Imperative) ナリミレハ道德律ノ
本源ニシテ又認定法ノ實質的根拠ナリ Kant ハ各人ノ實踐理性トシ
テ有セル責任心ヲ以テ各自ノ意思ノ自由ノ認識的根拠ナリトシ、之レ
ニヨリテ人格ノ自由ヲ認メタルモノニシテ先ツ智ニヨリ自由アルヲ

論シテ所ニ責任心ノ合理的ナルニトテ述ハタルモノニ非ラス、合理不
合理ニ拘ハラス神聖ニシテ何人ニモ普ク通セル責任心アリ、自己ノ行
為ヲ是非ニ自己ノ行動ヲ規律スヘキ自己ノ命令ニ從フヘキモノトスル
感シガリ、故ニ自由アリ、自由ナル裁アルヲ許サ、ルヲ得サルナリ、
國家法律ハ各個人カ一旅ニ有セル此ノ責任心此ノ自由ニ基キ普遍的有
効ナル律ニ自由ヲ自己ヲ規律セントスル要求ヲ助長保障センカ為メニ
設定セラル、モノナリ、無上命令ニ從フ自己ノ規律ハ自己一人ヲミナ
ラス万人ニ通シテ一旅ニ有効ナルヘキ規律心ナラサル可ラス、故ニ總
テノ人ノカヲ合或シテ之レヲ確定シ之レヲ遵行セシムル必要アリ、コ
レ實ニ自由ナル独立入ノ手段ニハ非ラスシテ夫レ自身目的タル人格者
ナルニモ徭ラス國家ノ权力及ヒ其ノ認定法、下ニ立ツ所以ナリ、而シ
テ本系不羈獨立自由ナル各個人カ他ノ拘束ノ下ニ立ツ其ノ自由ヲ制限
セラレ独立ナラサルニ至ルヲ本系各個人ノ意思ノ合致アルモノトセ
サル可ラス、自ラ已レヲ制限シ之レニヨリテ却テ實ニ自由ナル裁ヲ登
揚センカタメニモトノ一報ノ民約アルモノト説明セサルヲ得サルハ

Kant カ自我ヲ見テ普通我ヲ見ス。独立軍我ノミヲ認メテ出發シタル結果ハソノ生キタル無上命令ヲ貫徹スルタメニ如何ニ苦心ムシカラ察スハシ、各個我カ本末、一心同体トシテ教ニヨリ相互ノ内部ニノル品類ノ榮揚ヲ保証セラルヘキモノタルヲ、各個人カソノ内部ノ品質ヲ外部ノ教トシテ實現スヘキ性質ヲ以テ生レタルヲ、即チ普通我ノ表現人タルヲ違觀スルキハ *Kant* ソノ地ノ契約論者、云ハント欲シテ云ヒ得サリシ根柢ヲ容易ニ明カニスルヲ得ヘキナリ、此ノ論法ヲ当然ノ結果トシテ彼ハ各個人ノ所轄ヲ擴張シ各國ヲ統括セル一ノ大ナル國ヲ送り永久ノ平和ヲ圖ラント主張セシカ又國家ヲ以テ認定法ヲ確定シシレヲ維持發達セシムルノ任務ヲ有スルコトニ止レルモノトナシ此ノ範圍ヲ超ヘテ人民各個ノ自由ヲ拘束シ其ノ精神狀態ニ文ヲ入ラントスルハ國家目的以外ノ行動ナリト論セリ、即チ國家ノ目的ニ就イテハ法益説ニシテ夜番説 (*Nachts wachthausheorie*)、他名ヲ得タリ

終論

要スルニ *Kant* ハ近世ニ入りテ益々發達シタル個人ノ自意識其ノ自信ノ限界ヲ明カニセシト共ニ哲學上個人ノ真正ナル價值ヲ確定シ其ノ認識ニヨリ在來ノ客觀的自然界ヲ觀シテ主觀的觀念界トナシメ其ノ道德論ニヨリ機械的因果的世界ヲ觀シテ責任心ヲ有スル自由意志ヲナシシノス云云契約的、自由ヲ法別トシテ各人ノ各人ニ對スル拘束及ヒ責任ヲ説キタルヲ對例セシメテ無上命令及ヒ責任心ヲ基ト爲サシヲ其ノ法律論ニシテ外部的他動的、世界ニ觀シテ内部の自動的、世界ト爲セルナリ

第五節 十九世紀ノ思潮 (史的分析時代)

第一項 概論

第一項 第十九世紀ノ前半

十八世紀ノ後半ニ於テ次第ニ爾ニツ、ナリシ思想的思潮ハ主理的思想ノ

及動トシテ十九世紀、初葉ヲ支配シタリ、之レト同時ニ殊リハ智ニ依拠セ
 ントシテ為シタル失敗ハ認識論ノ発達ニ伴フ経験ノ價值ノ確定ト共ニ只的
 研究ヲ勃興セシメ個人主義ニ依ル社会ノ組成並ヒニ研究ノ蹊跡ハ全部主義
 団体主義ニ傾カシメ各自ノ独断カ相互ニ衝突シ不成功ニ終リシコトハ一方
 ニ於テハ吟味セラレタル根柢アル意識ヲ基礎トシテ學問ヲ建設スルトナ
 リ他方ニ於テハ他方及ヒ學教ノ復興ヲ促サシメタリ、此等ノ新思潮ハ希臘
 ノ哲學美術ヲ更ラニ新ナル眼簾ヲ以テ盛ニ研究セシメ希臘以前及ヒ印度
 哲學ニモ留意セシメ東洋流ノ神祕主義ヲ帶ヒタル新 *Platon* 學派並ヒ
 ニ殆ト信仰の普通ヲ生命トセル中世教會主義、一七一八世紀ノ淺薄教派十
 ル思潮ニ對シテ更ニ重要ナルモノト見做サレタリ
 一九世紀ノ前半ニ當テハ近世初メニ地球並ヒニ自然會ノ研究ニ忙殺セラ
 レタルト全ク趣ヲ異ニシ人間個人ノ内部ノ分析ヲ主トセリ、近世初ハ個人
 ノ自意識ヲ中心トシテ出發セシカ尚ホ外界タル自然ノ神立ヲ認めテ不可解ナ
 ル個人ヲ各人ノ勝手次第ニ明瞭ノモノト独断シ個人ノ明智ニヨリ自然法ヲ
 看破シ其ノ明瞭ニ自然法ノ一俟ヲ寫シ出サントセリ、此革命ヲ以テ以テ終リ

Kant ヲ發テ初メテ定レル一九世紀ノ前半ハ全然主觀的ノ世界ニシテ其
 ノ神妙神祕ナル小宇宙即テ自我ヲ社会ノ大宇宙ニ照シテ分析セントセルナ
 ナリ、古代ノ神祕說及神論ニ再興サレ更ニ自信ヲ以テ大成セラレタルハ深
 于環由ヲ存セリ

此等ノ思潮ト近世初期以來ノ思潮トカ融合シテ結ハル世界的事實ハ統一
 セラレタル國家ヲ有スルニ專制政治ニヨラサル立憲國家ナリ、又個人ノ自
 由独立ヲ尊重スレニ專制的個人ヲ認めサル立憲的國家ナリ、先ニ能ハス事
 者及對シツ、遂ニ革命ヲモ生シタルニ個人ノ專制力一段高キ憲法改定ニヨリ
 統治セラレ、ニ至リ具、他三然必至ト人間精神ノ自由ト主觀的要素ト又的
 事實トノ至ル所調和シ難ク見エタル所、矛盾ハ發達ノ事實並ニ自覚ニヨリ
 テ大成サレタリ、此大ナル自覚ハ特ニ *Idéal* ニ於テ着シク以後ノ社会
 個人並ヒニ自然ヲ研究スル者ハ一人トシテ發達ヲ主トセサル者ナク有機的
 研究、尸史的研究、分析的な研究、内在的研究ハ即チ之ト尙ル可サル所ノモ
 ナリ

第一、歴史的 研究

一九世紀ト云ニ復古運動 (Reaction) 開始ナレ思想思想
 理想ニヨリ一概ニ排斥セラレタル革命的事實、既往、思想及革命的
 制度、再建此ニ研究ヲ事ニシ、一八世紀末ニ起リタル革命ハ時ト所
 トニ於ケル第一事實ヲ及有セス、第一事實正當ノ原理 (Prinzipien
 Legitimität über natürl. Entstehung) 一先待カス
 進ニ革命的イデオロギイニヨリテ之ヲ実行セントセシモノナリ、
 革命ハ小智ヲ振ツテ早速、結論ヲ得ルト云ニ之ヲ自然法ト云テ直チニ
 之レヲ學問ノミナラス國家社会ニ移サントセリ、然ルニ革命ハ遂ニ失敗
 ニ歸シ其ノ結果第一事實ノカハ人間ノ小智ヨリモ遙カニ強大ナル根柢ヲ
 有シテ存存シツ、アルヲ覺ラシメ其ノ第一事實ヲ抱擁スル一層高昇
 ル大智ニヨル必要ヲ感セシメタリ、ヤレハ新制度ヨリ文學美術ニ至ル
 マテ革命ニヨリテ破壊セラレタル所ヲ再興シ復古セル維新運動トナリ何
 レモ革命的イデオロギイニテ之レト高レス民ソノ中ニ存在スル理法ニヨリテ

ミ送進セシメラルハキモノトセリ、真理ニ永久不易ノモノナシ、真理ハ
 革命的イデオロギイテ支配セラレ其ノ中ニ存在スル千條の真理ナリ、人間ノ職分
 トスル所ハ革命的イデオロギイテ與ヘラレタル事實自身ヲ研究シ其ノ意義ヲ明カ
 ニスルニ在リ、一九世紀以後ノ重大ナル研究ハ其ノ如何ナル宗派ニ屬ス
 ルヲ問ハズ人間ノ革命的経験ヨリ得レテ絶対ニ之ニ超越スル理法ヲ求メ
 ントスルモノナシ、之レ特ニ注意スヘキ事項ナリ

第二、感想的 研究

一九世紀、前半ニハ小理屈ニアラサル人心、根底ニニソムルアラナル
 感想的完成シ之レヲ感想的形ニ為テ相点ニ交換セントスル思潮アリ
 改ニ余ヲ廢シ居タル *Neoplatonismus* ノ身志脱 (Entsacke)
 ノ價值ハ漸ク認めラレ *Platon*、理想感念、精神モ始メテ價值アル
 モノトナリタリ、於是乎人格ノ價ハ論理的頭腦理屈ニ違シタルトニハア
 ラズシテ感想的ニアリ、思想ノ根底的ナルトニアリトセラレシテ文學カ
 哲理ヨリモ先導者トナリ皆社会ノ制度風俗思想ノ改造ヲ以テ其任務トセ

リ、此傾向、最大ナル独ニ於テ其中心トナリタル者ハ Goethe 及ヒ Schiller ナリ

第三、全部々分ノ研究

一九世紀ノ前半ニ於テハ一七世紀一八世紀ニ於テ機械觀 (Mechanische Anschauung) 及ヒ原子論ヲ主トセシニ及シテ有機的觀察、生物的研究方法ヲ用ヒ全部的統一の有機的觀察ヲ爲セリ、
史的世界ニ於ケルヘテノ事物ハ生物及ヒ其部分ニ屬ス、故ニ自然ニ客觀的ニ統一的全部ヲ爲スモノニシテ各個人ガ其ノ目的ニ從ソテ任意ニ作レルモノニ非ラス、又神カ目的ヲ以テ外部ヨリ機械的ニ作リタルモノニ非ラス、事物ハ皆自己ノ内部ニ備レル自然ニヨリテ自ら發達生長變遷スヘキモノナリ、事物自身カ神ナリ、神自身ハ自然ナリ、自然ハ神ノ發現ナリ、即チ汎神論ナリ、サレハ美術家及ヒ詩人ハ固ヨリ學者モ政治家モ法律家モ皆事物ノ外部ニ在リテ靜觀ヲ爲スルコトナリ、一方ニ於テハ必ラス外部ノ自然事物ノ中ニ備ハレル理法ヲ虚心平氣ニ研究シ其ノ事物ヲ

シテ自己ヲ發揚セシメントセリ、美術文學モ法律制度モ皆ニ作ラレ、モノニ非ラス、成長スルモノナリ、發達スルモノナリ、此等ノモノハ之レニ與ル人ノ才能ニヨルナリ、其ノ能力カ或ハ文學美術法則トナリテ外部ニ顯ル、ニ外ナラス、然シ社会ニ於ケル各個人ノ能力ハ外部ヨリ人為的ニ作ラレタルモノニ非ラス、其ノ内部ノ要求ニヨリテ發達スルモノナリ而シテ以上各種ノ事物モ各個人ノ發達ト共ニ自ら成長スルモノナリ、例ヘハ言語ハ發明セラレタル結果存在スルモノニ非ラス、自ら社会ニ於テ發達スルモノナリ、宗教亦然リ、社会、国家、法律亦然リ、憲法亦然ルヘシ、神聖ナル憲法モ亦皆天然ニ成長シタルモノナラサル可ラス Kant ニヨリテ自覚セラレタル主觀的ノ世界ハ蓋其ノ内部ニ統括スル客觀的方面ノ客觀的研究ノ必要ヲ意識セシメタルモノト云フヘキナリ、而シテ自己ヲ通シテ所謂自己ニ對スル自然界ヲ存在セシメツ、アル以上ハ自己カ統一體タル限り又統一的形式ヲ具フルコトヲ以テ最小限度ニ於テモ動ス可ラサル所トセサル可ラス

第四、神學及ヒ教会ノ復興

各個人ハモト自カニヨリテ生活シ思惟スルモノニ非ラス、各人ハ皆相
一。

俟ツテ人向ノ事業ヲ分担スルカ故ニ自己ノ事業以外ノ一ニ付イテハ専門
家ニ信頼セサル可ラス、教会ハ丁度上動カサル信仰ノ主動者ナリ國家及
ヒソノ認定法ハ神ノ定ムル所ニヨリ成立存任登達スルモノニシテ意思生
活ノ光輝者ナリ 國法及ヒ國家ハ各個人ノ自カニヨリ具、小理屈ニヨリ
テ契約シテ生セシメラレタル製作物ニハ非ラス、意思生活ニ付キ各個人
ヲ完成セシムルカ為メニズク可ラサル意思上ノ他カヲ供給スル為メニ神
ノ創設セル所ナリ、斯クノ如ク汎信論ノ興起ト並シテ独斷教モ亦汎信用
ヲ恢復シ、就中ローマ教会ハ勃然トシテ起リ俗界ニ対シテモ大ナル勢力
ヲ振フコトナレリ、Victor Cousin ハ中世ノ哲學ヲ研究シ、
De Proclatue. De Bonald. Chateaubriand.
Tannierais 等ハ哲學説カ各矛盾及対シヌ變遷シテ信賴シ難ク雄
大ナル生活ヲ築クヘク鞏固ナレトナヌニ足ラサルヲ述ヘシニ信賴セ
シ結果ハ皆失敗ニ終リタルヲ証明シ永久不變不易ナル鐵線サレタルモ一
ノ Roman 教ニ一眞ニ安心立命スル所ナルヲ唱ヘタリ、

新教ノ學者亦同一運動ヲ開始セルカ神學者トシテ有名ナル哲學者ニハ
Schleiermacher ヲリ Kallmann Müller ハ曰教
ニ改宗シタリ尚 Julius Stahl、如キハ丁度的曙光ヲ以テ國家
君主ノ説明ト第一事實トハ相離レ可カラサル所以ヲ洞察シ、君民ノ力カ
ハ神機ノモノナリ、必スシモ多數力カアルモノニ非ラスト主張シタリ

第五、立憲制度ノ確定

一九世紀ノ前半ニ於テハ國家國法ハ人爲ニ非ラスシテ自然ナルコトヲ唱
ヘ、國家ハ本来自然的全一ナリ、國法ハ全一ノ意思ナリト認ムルコトヲ一
般ノ思想トナシ、哲學上及ヒ神學上ヨリ之レヲ論証セリ、然レハ人々々々
ル各個人ノ自カ自由平等博愛ヲ主張トスルコトモ亦自然ナリト認メラレシテ
界ニ於ケル個人ノ思想モ亦進歩シテ止マサリキ、故ニ一九世紀ハ決シテ
一八世紀迄ニ登達セル自己思想、団体思想、平等思想ヲ打破セルモノニ
非ラス、之レヲ國家社会ノ全一ノ思想ト調和セシメ益々適當健全ナル方
面ニ發展セシメ遂ニ歐大陸諸國ノ立憲主義、立憲制度ヲ確立セシメタリ
一。

一〇二
故ニ以テ制度ノ研究ハツクモナク、一七世紀以後ノ差別的自覚法ノ思想
ト一九世紀ノ差別的の全部ノ思想並ニ史的自覚トニ分析シテ精細之ヲ
吟味セサル可ラサルナリ、

第二項 十九世紀ノ後半

各個人博愛ノ実行ハ統一団体ノ確立ニヨリテ全キヲ得、各人ノ自由ハ何
人モ國家ノ活動ニ與リ得ルノミナラス國家カ自治表現人ト認メラル、丁ニ
ヨリテ國家普遍意思ト合致シ得、各個人ノ平等ハ武力、権力、信仰ノ階級
ノ牽止ト共ニ國家社会ノ表現人タルノ根柢ヲ全ウシ得ルトナリ、其ノ独
立人トシテ有スル本系ノ價值ヲ等ウスル丁トナレリ、然レモ國法及ヒ國家
組織ハ意思生活ヲ主トシテ存在スルモノナリ、故ニ國法國家ハ一應正當ニ
シテモ社会各方面ノ事實ハ之レヲ以テ整頓シ終レルモノニ非ラス、殊ニ各
種ノ社会的情實ノ下ニ成立セル憲法ハ必スシモ理性、理法ヲ満足セシムル
ヲ得ス、設定シタル憲法制度ニ慣レシメ之レヲ本トシテ益々法律生活ヲ發
達セシムルト共ニ是非共社会ノ事實的研究ニヨリ社会、國家、國法ヲ改善

ユシメナルハカラス、於是乎一ニハ社会学ノ發達ヲ誘起シ、ニニハ國內公
法、學問ヲ確定セシメ、三ニハ國際法ヲ發達セシメノリ、而モ此ノ研究方
法ハ十九世紀前半、主義ヨリ一軌シテ差別的集合的トナリ、自然論的實証
論的トナレリ、而シテ此ノ傾向ヲ助ケタルハ憲法ノ確定、一般人民ノ發達
ト共ニ多數ノ淺薄小智ナルモノカ思潮ノ變動ノ大動力トナリシ丁ニアリ、
漸ク一ハ世紀ノ學風思潮ニ感染シ終リタル一般人民カ此ノ思想ヲ以テ満足
シ得ル研究ヲ歡迎シタル丁ニアリ、故ニ研究者ノ多數ニシテ多方面ニ亘リ
存在セルコトハ未嘗テ其類ヲ見サリシ物多クハ卑近ニシテ入り易キ實証論
實理論ニ偏セリ、独ノ十九世紀前半ノ觀察論カ寧モ古キ制度ヲ有スル英ニ
於テ共ノ后継者ヲ有セシモ亦奇觀ト云フヘシ、

第一、實証論ノ全盛及ヒ進化論ノ普及

1. 實証論ノ全盛

自然科学ノ發達及ヒ精巧ト共ニ自由ヲ否定シ内的經驗ヲ度外視シ外部
的經驗ノミヲ有効トシ原因結果ノミヲ利用ヒラレ得ヘキヲ独斷シ此方法

ラ明ニ精神及ヒ社会現象ヲ説明セントセシモノハ一八世紀末ニ急ニ民衆
 本位トナレルルム *Inappropriate Concepts* ナリ。星学、数学、物理学
 化学、生物学及ヒ社会学ノ大科目以外ニハ哲学モ亦存セヌトスルカ彼ノ
 意見ナリ。此説ハ仏、英、独共ニソノ信仰者ヲ有シ *Mill (1821)*
Spencer ハ其高弟ナリ *Spencer* カ一時我國ニ影響セシメテ大
 ナルハ人ノ知ル所ナリ

口、進化論、普及

進化論ハ *Darwin* ヲヨリテ大成セラレ唱道セラレ、彼ハ生物学的
 觀察ヲ爲シ其間ニ存スル進化ノ理法ヲ研究シタリ、而シテ社会、国家、
 法制ノ觀察モ亦此ノ影響ノ下ニ立ツニ至レリ、人間ハ亦亦微妙ノ性質ヲ
 有セル動物ニハ非ラスンテモトハ下等動物ノ漸次発達セシモノニスモ
 此ノ人間ノ間ニ存スル風俗、習慣、法律モ亦動物的生活ト尙ル可クテ
 可レ于倫ヲ有シ皆ソノ種族保存ノ必要ニ基キテ存在スルモノナリ、家族
 生活ノ如クハモト動物タル性雄两性、性愛、性慾ニヨル結合ノ結果ナリ
 此ノ生物的结合カ団体殊ニ国家ヲ作ラシムル根本的要素ナリトシ彼ハ影

響ヲ受ケタル学徒ハ此ノ種ノ見解ヲ本トシ人莫ク他ノ生物ト比較シ又人
 類相互ヲ生物トシテ比較シ国家法制ヲ研究シ之ヲ説明セントセリ、尙ホ
 彼ハ生物間ヲ支配スル生存競争ニヨル優勝劣敗迄若生存ノ理ヲ説明セシ
 カ之レヲ用ヒテハ突ト云フ生物ノ間ニ存在スル社会現象ヲモ説明セント
 セリ、国民ノ間ニモ絶ヘス生存競争ハル、モノニシテ其結果トシテ国民
 ノ発達ヲ爲サシムルモノナリ、国民ノ発達ハ其競争ノ程度ト相消長スル
 ナリ、

第二、社会学ノ興起、社会ノ要求

一八世紀ノ哲学ハ人生哲学ニテ始リシク其ノ後半ニ至リテハ社会学カ
 哲学ニ代ツテ勢ヲ占メタリ、長キ争突タリシ国家本組織ノ結末ヲ得シト
 共ニ注目莫ハ一ニ社会ニ集リ自然科学的、実証論的、差別的ニ研究シ社
 会ヲ改革シ国家ニ対抗セントスルニ至ル、然シ大略一八世紀ニ於ケルカ
 如ク極端ナル個人本位ニ非ラスシテ寧ロ多数ノ個人ト尙レガレ個人又ハ
 個人ノ集合ヲ以テ本位トナス、故ニ此ノ時代ノ社会学ハ何レモ個人集合

ノ研究ニシテ人格者ノ第一同体普遍我ノ研究ニ非ス、且ツ專ラ國家國家
ヲ以テ社会ト視正ニ外部ニ対立セルモノト思惟シ且ツ内的經驗ヲ皆テ外
部的經驗ニ備セルモノナレト此ノ思潮カ経済学、刑法学、國家、法律、
政治等ニ影響セリ、此等ノ諸学問ヲ以テ社会学ノ研究ヲ基礎又ハ發同ト
シテ立論セシニ主ル、而シテ此等研究者ノ主義トモシテハ概シテ左ノ
社会学及ヒ其制度ヲ保存スルヲ以テ満足セス、大畧左ノ三ニ分リ
人 自由主義

自由主義ハ及ヒ大ニ社会ヲ國家及ヒ其権カヨリ解放センヲ趣旨ト
ス、國家カ社会生活經驗生活ニ干渉スル、社会ノ活動ヲ妨害スルモノ
ナレハ全ク之レヲ社会事業ニ委ヌヘキモノトス、サレハ社会経済ノ必
然ナル調和ハ自由貿易ニシテ保護貿易ニ非ラス、精神上ノ事業モ之レ
ヲ人民ノ私業又ハ社会事業ニ委ヌヘク、ナルヘク國權ヲ制限スヘシト
ス、此ノ主義ハ第十九世紀後半ノ中頃迄ハ極メテ有力ナリキ、
ニ 國家社会正義
此ノ主義ハ君主及ヒ國家國法ニ信賴シ之レニヨリテ社会各種ノ階級

ノ別ヲ排斥シ殊ニ財カノ專制ヲ破ラントセリ、格仰、武力、権カ、智
力各種ノ專制ノ消滅ト共ニ独リ財カノミカノノ專制ヲ違ウスルニ至リ
財産ノ所有者ハ同時ニ各個人ノ間ニ差別ヲ立テシムル唯一ノ標々トナ
リ財物ノ存スル所其ノ圧制カノ存スル所ニシテ自由、独立、神聖トセ
ラレシ人格者ハ人格者ニ対シテニハ非スニシテ財物ニ対シテ私權シ財物
ニヨリテ輕便セラル、コトヲ感スルノ切ナルニ至リタリ

然ルニ經濟、社会学ノ進歩ト共ニ財物ハ即チ人格者總体ノ創設スル
所ニシテ又一個人一個人ノ作ル所ニ非ス、個人ノ集合ニヨル社会ノ作
ル所ナリ、一人ノ私ニスヘキ物ニ非スニシテ社会ノ利用スヘキモノナリ
故ニ國家ノ権カ法律ハ此ノ財ノ分配ヲ以テ其ノ當ヲ得セシムヘキモノ
ニシテ形式的ニ旧套ヲ墨守シテ足レリトスヘキニ非ス、社会ニテハ各
種ノ優者殊ニ財產家カ自己ノ利ヲ恣ニスル傾向アルニ対シ此ノ私ヲ抑
圧シ國民社会全部ノ平均ヲ保スルモノカ國權國法ナリ、國家ハ人民ノ
自由ニ干渉シテ迄モ此ノ公平ナル社会目的ヲ達スルヲニ盡カスヘキナ
リ、國家ノ成立存在スル所以モ亦實ニ社会ノ健全公平ヲ維持スルヲニ

在リ、而シテ此、国家社会主義、アル部分ハ国家ヲ制シ殊ニ十九世紀、末葉ニハ国家、社会政策ヲ定メシノ立法、行政ニヨリテ着々実行ヒシメツ、アリテ愈々其ノ歩ヲ進ムル傾向アリ

社会ノ進歩人心ノ發達ト共ニ社会ニ於ケル各級ノ專制主義絶対主義ハ次第ニ打破セラレ何人モ社会ノ普遍的公物ヲ私シ得サルニ至レリ、独リ財物ニ付テハ未タ充分ナル鮮明ヲ見ス、財力專制ハ他ノ專制ノ存セサリシニ至リシト共ニ益々專制的独占的ニソノ暴威ヲ振ヒツ、アリ此ノ財力ニ対スル私ヲ制時ニ表現人ノ根柢、上ニ財力ヲ運用スルニ至ラシムルニハ如何ニスハギカ、世界全体ニ亘ル大問題ナリ

3. 社会主義

此ノ主義ニハ種々多キカ概シテ原子論ヲ最台ノ根柢トシ各個人ノ差別ニ拘泥シ国家及ヒ認定法ヲ強者及ヒ其ノ意志ト同一視シヌハ之レヲ以テ財力者及ヒ財力者カ自己ノ財力ヲ恣ニスルノ道具ナリトナス、此ノ其ニ付テハ *Macle* 時代ノ訛弁論者ト是確ヲ同クス、但シ訛弁論者ノ自然法ハ強者ノ私ニ偏ヒテ之レヲ是認セシカ、社会主義者殊ニ社

会主義者ノ独断ニヨレハ強者ヲ破視シ之レヲ憎ミ、不道理ナレシカヲ打破スルニトテ以テ動カス可ラザル正義ト認ムルナリ

此種ノ兩極端ハ一七世紀、一八世紀ノ頃モ稍変形シテ存在シ夫ニ原小論ノ差別的根柢、ユニ立チツ、一ハ *Hobbes* 及 *Locke* ノ如ク強者ノ財力・專制ヲ認メ、他ハ無敵ノ民権論者ノ如ク何人ノ專制ヲ主張シ遂ニ革命トシテ大衝突ヲ来セリ、全く同一ノ不健全不完全ナル独断ニヨリテラ愛憎好悪ニヨリテ偶然一方ニ與スレカ改ニカ、ル大誤謬大衝突ニ陥リシニ外ナラス

而シテ社会主義者ハ国権ヲ憎メ、ニ社会ニ於ケル不公平ナル私心ヲ抑ヘ財力財力ノ共同所有ヲナシ其ノ分配使用ヲシテ當ラ得セシムンカ爲メニハ一層強大ナル強制力ヲ用ヒサル可ラス、此ノ其カ社会主義ノ旨メル矛盾ニシテソノ所狀ヲ得サル難矣ナリ、コノ其カ其ノ主義ノ中ニ内在セル調和シ難キ矛盾ナリ、要スルニ国家ハ強者ト同一ニラズ、国法ハ優者ノ私ノ意思ニハ非ス、国家ハ普遍性ニシテ国法ハ普遍意思ナリ、故ニ此ノ国家国法以外ニ一層公平ナル社会及ヒ強カラ認

第三、国内公法学ノ發達

歐洲諸國、憲法ノ確定ト共ニ政治論、立法論ハ鮮然論ニ向ヒ憲法ノ規定ヲ不動ノ認定トシ論理ニ依リ之ヲ敷衍シ具ハ統一の鮮然ヲナシ一般ノ政治家及ヒ人民ヲシテ憲法ヲ守リテ生活セシメ之レト爾レサル行政自治ノ細密ナル制度ヲ定メ一般ヲシテソノ制度ニ慣レシムルトナレリ、於是一九世紀後半ニハ神ニ独ニテ行政學及ヒ自治制度ノ研究ヲ發達セシメ、又一般ニ私法ノ學ヨリ独立セシ形式の公法學ヲ設定セシメタリ、此ノ學問ハ哲學社會學等ヨリ尙レ認定法ヲ中心トシ其範圍ニ於テ認定ノ形式ヲ明カニスルヲ主トスルモノニシテ主觀的觀察ヲ特色トス *Gerber* ハ其ノ先導者ニシテ *Kabandz* ハ其大成者也ニシテ對シ社會學ヲ基礎トシ公法ヲ論スルモノニ漸ク多ク *Kraut*, *Gumpelowitz*, *Meyer* 等數ヲ可ラス、其多クハ唯物論的實証論的ナリ *Stein*, *Graebner* ハ此傾向ヲモ包含スレト尙ホ *Hegel*, *Schelling*

一派ノ汎神論精神ヲ有シ其方面ノ偉大ナルモノナリ、而シテ殊ニ汎神論ノ精神、歐シヲ以テ充タサレタル *Stein* *Graebner*、國家社會對立觀ヲ以テ満足セス、社會有機體トシテ國家ヲ説キツ、アルモノハ *Gierke* ナリ彼ハ *Habermas*、絶対形式論ヲモ此精神ニヨリ統括シツ、アリ *Jellinek* ハ此等ノ説ヲ析衷シテ未タ成功セサルモノナリ

第四、國際關係、國際法ノ發達、國民主義ノ興隆

人道主義ノ唱道、近世專制主義ノ確定ト共ニ國際法發達ノ端ヲ開キシカ十九世紀前半ニ至リ内外諸種ノ關係ニ迫ラレ憲法ヲ定メ之ニヨリテ国内ノ根本組織カ一先ク完成セシヨリ一層熾實ニ國民ノ全部ヲ率ヒテ相互ニ統括スレコトナレリ、而シテ其ノ競争ノ必要ハ極端ニシテ差別的ナル自由主義・社會主義ヲ成シテ愈々國家國權ノ鞏固ヲ致サシメタリ、然シテ交通ノ頻繁ニヨリテ益々複雑トナリシ國際關係ハ國際法、其ノ規則正シク發達スルコトナリ、重商主義ニ移リ其範圍内ニ於テハ富國強兵ヲ主義トシ又帝國主義ノ樹ラニ新タナル生命ヲ以テ國民主義ヲ再興セシメ

又東西主義ヲモ兼テ採用スルノ勢トナレリ

第四章 結論

以上吾人ハ希臘人ノ智識理想、古代ローマノ武斷主義、基督教ノ信仰
中世ノ形式的、他力主義、近世ノ自然主義、利益ノ競争、個人主義、全一
主義等ヲ指シタリ、蓋シ吾人ハ根本ニシテ人類ノ表現者ナリ、彼等ノ思想
先人ノ生活至驗ハ即チ吾人ノ思想ナリ、吾人ノ至驗ナリ、吾人ハ原罪ヲ犯
ス吾人ハ死ヲ以テ之ヲ贖ヘリ、吾人ハ既ニ逸樂ヲ恣ニセリ、吾人ハ既ニ甚
ダシク失敗ヲ試ミタリ、政ニ分更改メテ繰返ス必要ナシ、独リ新方面ニ向
シ人類新至驗ノ道ヲ開クノ表現人ヲ有スヘキトシ、吾人ノ生活至驗ハ既ニ
數千年ニ溯リ松張セラレ違ク政ニ分更改メテ繰返ス必要ナシ
其ノ根柢ヲ失ハス、其ノ基礎ノ上ニ時ト所ニ於テ人類ノ至驗特色ヲ分但
スルコトカ吾人内部ノ最上命令ナリ、東洋人トシテ人類ノ至驗ヲ、日本人
トシテ、東洋人ノ至驗ヲ、法律政治至驗生活ヲ為ス吾人トシテ日本人ノ
特色至驗ヲ分但スルコトカ权限ナリ、コレ吾人ノ表現至驗ニシテ又表現本

利ナリ

苟モコノ振張セル人精神ヲ失ハナレハ、生キタル創設カハ深キ内部ヨリ湧
キ出テ、幾々トシテ止ムコトソカレハシ、而シテ二十世紀ノ復古ハ十九世
紀ヨリ至極ニ根本的ナルヘク、コノ世紀ニ於テ學問上、實際ノ生活上少ク
モ必ラス確定セラレヘキモノ、一ハ各種ノ觀念論及ヒ其論等ヲ包括スル
表現論神論及ヒ其ノ基礎タル普遍我及ヒ表現人ノ自覚並ニ其實現ナリ

第二節 日本民族ノ根本精神

第一段 宇宙ノ大生命(別天神並ニ神世七代ノ神々)

第一章 大生命ノ性質(神格)

第一節 實有(實在)(造化三神)

皇國ノ理想信仰ハ神隨ヲコトアゲセ又ヲ其ノ根本トナス、神ナカラトハアリノマ、ナル生命ノ光ヲ自覺シ其ノ要求ニ從ヒ之レテ輝カサシムルヲ其ノ手段トナス、之ニヨリテ末ノ形ヲ用フル義ナリ、理屈、権力、形式、法律、利害、等ノ末ノ形式ノ何レカノミテ根本トシテ國ヲ是テ社会ヲ成セシニハ非ラスシテ之等ノ一切ヲ以テ生命ノ自然ノ條ヲ發揚セシムル所以トナサシメ生命ノ本ト形式ノ末トヲ取倒セシメサルニトテ神隨ヲコトアゲセト云フ、斯ル根本精神ニ基キ主志セルコトハ皇國ノ榮達ヒシハ又、四國ノ欣死等ノ然ラシメシコトニテ又皇國ハカ清楚ヲ好ムノ性質ニモ原因スレナランガ此ノ根本精神ノ自覺ハ皇國ノ思想及ヒ生活自身ヲ清楚ナラシメタリ

神隨ヲトハカ致万物ニ備ハル光明具ノ條ヲ云フ、換言スレハ事物即チコト、中ニ存スルソノ眞隨即チまこと、みこと其ノ條ヲ云フ、まことトイフハ事物即チコトノ表面ニ表ハレツ、アル形式ニトイフニ對シテ事物即チ、事ノ眞ヲ云ヒ偽ラス美シキ言葉ヲモ偽アラス美シキ外物ヲモ偽ナラヌ美シ

キ理法ヲモ、偽ナラヌ、美シキ事物タル生活ニ勤ラモ偽ナラヌ美シキ心即チ真心ノ善即チかき心ヲモ網羅シテ意味セラルまことト云ハハ言中ノ模範タル言、外物中ノ尙遠ナキ外物、聖中ノ正理、事實中ノ善美ナル事實、心中ノ心、執レテモ非下ヒ入其志皆ヲハナサレヌモノトシテ思ハル、タトヒ之等ノ中ノ一ノミヲ表面ニ出シテ觀念スルトニテモ他ノ一切ノ觀念ハ必ラス其ノ背後ニ包容セラレテ存在ス、モトヨリ此等ノ固ニハ本志ノ次第アリ、心カ本ニシテ活動事實、理法カ誠メラレ次ヲ外物、遂ニハ言葉等ノ形式ニ出フモノアルカ皆一切一時ノ存在ナリ、

而シテ一切ハ唯ハナルまことニシテみことノ内包ヲ爲ハ、みことトハ神聖ナルハ格有即チ眞我ニシテまことノ剋涼タリ、包蔵者タリ、剋殺者タリツマリ言葉ケニ對シテ一切ノ眞言、眞理、眞實、及ヒ真心ノ生活至誠ヲハナレヌ、偶然ナル各個人ヲ超越セル根本的ナル我ヲ指ス、而シテ斯ル超越的ナル我ヲモみことト云ヒ之ト尙レサル具ノ表現我ヲモ亦みことトイフ、みことトハ即チ神ノ美ニシテ吾人ハみことヲ其ノ本質トナシ一人トシテ神隨ヲノ我、神ノ御末我、神ノ御子我ヲラサルモノナシコノ意味ヲ自覺スレハ

各人ハ即神ニシテ也、經典社會ハ即チ神國ナリ

マことトハ在神ノ有ヲ云フ、即我ノ有又ハ實有ヲ云フ、神ハ吾人カ具ノ
全体ヲ携ヘテ命ヲ仰キ之ト合一セントスルトキハみことヲ指シテ云フ觀念
ナレハ神トハ何ソ命トイフハ何ゾト云フ對立同義ニ付テハ双方同シ物ト見
テ差支ナシ、コノ命即神ハ有ル中ニ真ニアルモノ、有ルモノ、真ニシテ内
ニモ在リ外ニモアリ、内ニアルド外ニナキハ疾、有ニアラス、外ニアルド
内ニナキモノモ亦疾ノ有ニアラス命ハ内ニアリテ而カモ外ニアリ、外ニア
リテ而モ内ニナリ、各個人ノ偶然ヲ超越シテ存在スレドモ各個人ヲ离レテ
存在セス各個人ハ無數アリ、其ノ本質ニ於テハ百万ノ神ナレトモ神タルコ
トニ於テハ唯一ナリ、神タルコト、云フハ神ノ概念トイフコトニハ非ラス
具體的ニ唯一ノ神ニ改着スルコトヲ云ヒ、精靈ニ云ヘハ唯一ノ神ノ表現ニ
外ナラサルヲ云フ

表現トハ一ノ神ナクシテ他ノ神ナク、他神ヲクシテ一神ナク、一即他、他即
一ナルニシテ云フ、而シテ神カ内外合一ノ一他相即チ相入ノ所ニ行
儀スルコトハ吾人ノ統一的气分、超個人的氣分ニ依リテ感得ニ得、發驗シ

タル所ニシテ散テ皇國ノ人タルト否トニ係ルコトナシ、而カモ大和民族ノ
確立ノ基礎ハ此ノ所ニアリト云フコトカ絶ヘス一貫スル理想ナリ、哲學家
神學ハコノ氣分ヲ形成的ニ分析セシモノナレハ分析ノ方面及其ノ方法ノ完
全不完全ニヨリ種々ノ差違ヲ生スヘキモ深キ生活實驗ト爲レサル生ギ生キ
ニタル氣分トシテハ古今東西異ナラズ

マク有中ノ有即チ唯一ノ實相トシテノみことヲ云フ天ニ神トハ命ノ実
ニ有ルモノヲ云フ、天トハ無限有限ヲ包容スル無限中ノ無限中ノ更ラニ無
限ナルコト、胸中ハ真中ト同シ、中ノ中ノ中ノ中ニシテ一方ニ偏リ、他方
ヲ排斥セサルコトナレハ、無限中ノ兩極端、如ク四方ヲ包容シ之レテ
基礎トシテ其ノ表現トシテ存スル業態ハのうしニシテ或又ハ人格者ノ偉大
ナル人格ヲ云フ、故ニ夫之胸中主神ハまことナルトモ人格者トシテまこと
ヲ包藏シ其ノ淵源トナリツ、アル存在ナリ、繰返シテ云ヘハ天ニ神中主神
ハ在ル所ニ全体存在スルカ故ニ之ヲ東面ニヨリ見レハ万世万歳ハ皆チ天ニ
胸中主神ノ全一ニ居シ其ノ表現ニ非ルナシトイフコトハナル

第二款 「あらしむる」方面

(皇産靈之神)

皇国ノ精神ハ「みこと」まことトシテ、觀念ヲ本トス。此等ハみことニ依リシテ、其ニ真ラ意味シ又最モ尊キモノヲ意味スルカまことハ、模範的ナル言葉、外物、理法、事實、心持、何レヲモ區別セズ其ノ全一ヲ意味シ、みことハまことニ包蔵シ其ノ潮流タル人格者ヲ意味ス、カク皇国精神カ真言、眞物、眞理、眞実、眞心ノ統一セルモノナルコトハ、實ニ皇国精神ヲ言葉、外物、理法、事實、心持、等トシテ分析シ得セシメ又ハ三等トシテ、得ル所以ニシテ、全時ニ此等ノ各方面ニ分析シテ觀察セラレ且發揚セラル、カ故ニ、まことトシテ内容トスル皇国精神カ存在シツ、アルモノナリ、ツマリ皇国精神ノ觀察トイヒ發揚トイフモ皇国精神自身クワサト已レ自カラテ客観的地位ト主観的地位トニ分テテ其ノ主観的方面ヲ必ラス客観的方面ヨリ觀察シミレラ創設シ得ルモノニシテ皇国精神ノ自觀自造ニ他ナラス、コノ自觀自造

ニヨリテ始メテ皇国精神アリト云ヒ得

皇国精神ハ「ある」ガ故ニ觀察シ得、アルガ故ニ自ラ觀察者ノ地位ニ立チテアル己レヲ觀察シ得、然シタダアルニ非ラス、他ハス自ラ已ラ觀察スル所ニアリ、絶ヘス已レヲ作リツ、アル所ニアリト云ヒ得ルノミ、アルトカアラシムルトカ云フハ、其ニ言テ外ナラス、實ハアルカ故ニアラシメアラシムルガ故ニアルトイフコト、永遠、希榮ノ追進ナリ、コノ希榮ノ追進トアルカ故ニアラシムル働トヲ離レスモノト見テ之ヲ皇産靈神トイフ、天ニ御中主神ハみこと、まことノアル方面ニシテ皇産靈神ハ之ニ対シテハナレヌニみこと、まことノアラシムルニヨリテナサル、モノナリ、アルガ故ニアラシメ、アラシムルガ故ニアルモノナリ、アル方面ニ天ニ御中主神ヲ見ル得ルカ此ノ神ハ又アルニハ非ラスシテ必ラスアラシムル方面ニ於テ皇産靈神トシテ存在ス、皇産靈神トシテ必ラス已ラ統轄方面ト統括セラル、方面又ハ階級、消極等ノ兩方面ニ分テ作用ス、存在トシテ觀察スレハアルコトノマ、ニテアルナリ、アラシムル作用トシテ見レハ必ラス變化アリ、單ニアラヌシテ復舊ナリ、故ニ天ニ御中主神

ハ唯一ナルニ皇産靈神ニハニ柱アリ高産靈神ハ統治的積極的、能動的ニシテ神皇産靈神ハ被統治的、消極的、所動的作用ナリ、從テ日本民族ノ神ハ天之御中主神ト高産靈神、神皇産靈神、三柱ヲ以テ神ノ單位又ハ本故トナシ、單ニ靜的ノ一神タルノミナラス、動的ノ八百萬神トナル

以上三柱ヲ造化、三神ト云ヒ造化三神ク一神即テ多神、多神即テ一神ノ出發點ナリ、造化三神ハみこと即神ノ最簡單ナル表現ナルカ此等ノ神ハ必ラス更ラニ無敵ノ神々トシテ存在ス、殊ニ唯アルカ故ニアラシキ、アラシムルカ故ニアル神トシテ存在スルノミナラス、價值ノ淵源トナリ價值ノ發見スニ存在ス、アルトカアラシムルトカ云フ事ハ價值ノ向應トハナレテハ一獲ノ言等ケ即テ思想ノ一範範ニ囚ハレ終ルコト、ナル、真中ノ至真、善中ノ至善ナルモノニシテ始メテアル、アラシムルト觀念シ得ルナリ

第二節 價值(別天神ノ一部及神世七代ノ神々)

實在ト云フコトハ價值ト云フコト、分テテ之レヲ見ル可キモノナルニモ

原ラス、根本ニ於テハ氣レ得サレノミナラス、氣分ニ於テハ相融合シテ現ハレツ、アリ、別天神、神世七代ノ神々ハアルカ故ニアラシメ、アラシムレカ故ニアルコトノ分析ニシテ又更善美、價值ノ分析及其向、本末之關係ヲ見タルモノナリ、固ヨリタダ分析シテ得タル觀念ニ止ラス、神ノ分析ハ尚相互ニ統括包含シ從ツテ各皆神ニ外ナラス

第一 有限及無限ノ兩端

アルモノヲ餘クアラシムルニ付テモ善美ト云フコトニシテ常ニ有限無限ノ兩方面ヲ包含ス、事物ノアルトイフコトハ唯無限ノコトニ非キバシダ無限ナルモノハ有り得サルガサレバトテ唯有限ナルモノハ有り得ズ必ラス無限ニ分レ得ル無限ノ結晶テアリ、而シテ外部、無限ヲ背景トシテ存在シツ、アルモノナリ、アラシムルト云フコトモ有限アラシムルコトニ意味スルト共ニ其ノ有限中ニ無限ノ精神ヲ意味セシム、善ト云ヒ美ト云フモ無限有限ノ兼ネツ、アル所ニ認め得、古今東西共ニ万般ノ事物ハ切ノ世界ハ無限

有限ヲ調和ヨリ成立シツ、アルコトヲ説ケルカ之ハ動カス可カラサル所ナ
リ、コノ無限有限、云フモノ、形式内ニ固定シテ外部ニ存在スルモノニ非
ナルカ皆まこと、みことノ表現タルことニシテまことのみことトテ背景トシ之
レヲ包蔵スル觀念ニシテ各皆神ナリ

第一、無限ヲ性質トスル神

みことノ無限、方面ヲ分相シテ表現スル神ハ宇麻志阿斯詞比比古邊神、
天之常立神ナリ、うまじハ美事ナル義、あしハすハ蘆ノ葦ナリ、蘆、氷、
葦、葦ノ若芽ガ相ソロヒ手ヲ引キテ引カレ合ヒテ愈々進ンテ此ゴズ、本
年枯ル、モス本年ト云フ様ニ無限ニ向テ上ル、即チ美事ナル進進ヲ性質ト
スル神カンノ神ナリ、而ルニ無限、絶頂ニアリテ絶ハス無限ニ引キ寄スル
カアリ無限ニ引カル、カニ対シ無限ニヒクカアリ、双方相俟ツ所ニ無限ヲ
認メ得可ク神々カ孤獨ナラスシテ常ニ相對的存在トシテ表ハルコトカ皇國
人ノ信仰ノ特色ナリ、而シテ天常立神ノあめハ有限ニ対シ有限ヲ排斥スル
無限ナルタメ却テ有限ナル無限タルヲ免レス、コノ奥カ天之神中主ノ天ト

ハ又ノ段階ヲ異ニス、有限ヲモ無限ヲモ共ニ包蔵スル無限ナル故、無限中
ノ無限ナルモノナリ

第二、有限ヲ性質トスル神

みことニハ又有限ノ方面アリ、無限ノ方面ヲ認メサレハ格別之レヲ認ム
レハ全時ニ必ラス有限ヲモ認メサル可カラズ、有限ノ極ニハ國ノ常立神ア
リ、コノ神ノカニヒカコレヲ相伴ニ有限ニ向テ出頭スル靈靈神ナリ、
こよハ靈靈ノ靈、こよハ靈、こよハ靈、こよハ靈、こよハ靈、こよハ靈、
並ニ日本紀ノ一書ニヨレハ別天神ニ次テ神代七代ノ神ノ第一ニ記サルレト
モ日本書ニヨレハ神代ヲ論キ起スニ先ツコノ神ヨリ始ル此ハ日本紀カ國史
ニ重キテ置キテ篇纂サレシ故皇國史ノ基礎タル神代ノ物語ニ付テモ國ヲ基
安トシ國帯又神ヨリ始メタル言伝ニヨリ本國ノ地位ニ置キタルモノナルハ
ク、爲ニ造化三神亦ニ其々外ノ別天神ヲ否定スルモノニハアラス

第三、有限無限ノ神々ノ相俟ツ事

無限人、神隨テノ中正ヲ骨子トシテことあげ中、一方ニ偏テサルコトハ
在末或ハ有限ニ或ハ無限ニ偏重ヒシ思想、其ナリ無限ノ性境トスル神々ニ
対シテ有限ノ性境トスル神々ナミトシタリ、又ニ天中主神ノ無限中
ノ無限ヲ背景トナシ、具、表現タル無限ニシテ何レモ其義ノあまつかみニ
外ナラソレトモ其ノ中ニ於テ有限ヲ分相スル神々ハ神代七代ノ神々カ始ニ
シテ無限ヲ有限トスル神々ハ造化ニ神ト共ニ別天神ト稱セラル、即テ天
ノあまつ神ナリ

此等ノ有限無限ヲ司ル神々カ相共ニ一切ノ宇宙ヲ成立セシメ宇宙万有
物ハコノ兩方面ノ職能ニ分梓セラル、ヲ得ルカ特ニ社会ノ生活コ付テ云ハ
バ一方ニ生命、滋、サレ分立ニ依リ無限ノ差別生シ危モ其ノ故ニ他方ニ
ハ及テ鞏固ナル共同生活ヲ生セシム、一ノ源ノミナラバ混沌トシテ何等ノ
意味ヲ有セサルカ其ノ無限ノ分立ニヨリテ特色モ豊富トナリ独立独行始マ
リ、世界ノ中心ガ無數ニ増ス、然ルニ之レト共ニ却テ帝ニ共同生活ノ組織
ナリ、国民道德、政治、法律、尊榮生スルナリ、仍テ吾人ノ魂ニモ奉魂
奇魂、アリ、奉魂トハ愈豊富ニ成レ生スルコトヲ司ル魂ニシテ奇魂トハ益

々岐レツ、アルモノヲ改メセシムレ魂ナリ、コノ兩魂、相高レヌニ相及ニ
助ケ合フ所ニ和魂ノ創設作用行ハル、ナリ、和魂ハ万有万物ヲ創設スル
激發ノ心ニシテムスビノ最大切ナル方面ニシテ奇魂モ奉魂モ皆和魂ノ表現
ニ外ナラス(和魂ノ表現ヲ性境トナセル分相即チ愛ニ本カサル利己ノ地業
ハ奉魂ノ作用ニ非ラス愛ノ要求ニヨラサル干涉、束縛、發削ハ奇魂ノ如ラ
サル所ナリ)

第二款 有限及無限ヲ兼ネタル中程

有限無限ノ双方ヲ兼ネタル中程モ亦單ナル固定セル存在ニアラスシテあ
るが故ニあらしむる所ノ過程ナリ、実有ト云ヒ之レトハナレサル價值ト云
ヒ共ニ擬然タルモノニ非スシテ却テ動キツ、アル所ニ却テ動カサル價值存
在アリ、実有並ニ價值ヲ吟味スル場合ニ先ツ見得ルモノハ矛盾及対ナリ、
矛盾及対モ亦みことノ表現トシテハ即チ神ニ外ナラス
矛盾及対ハ破壊スル所ニ價值アルモノニアラス、有形無形ノ事物ヲ創生
スル所以トナルコトニ大ク可カラサルナリ、之ヲ再表神、活我神トイフ、

一多天
此ニ意々大ニ孤張セラレ豊饒ニナル所ニ創設スルトカ主カストカ云フコ
トカ存在モシ意味モ有スルナリ、之ヲ意富斗能地神、大乎乃辺神ト云フ、
而モ宏大豊饒ハ円満完全奥美等具足ニテ必要ナルモノトナル、於是淡母
魂神、阿夜胡志古泥神ヲ見ル、而シテ之等ノ有限無限ヲ兼有スル矛盾
対立大豊富円満完全奥美カ共同ノ意気込ニヨリテ働クモノニシテ、此
ノ種ノ意気込ヲ伊邪那岐神、伊邪那美神ト云フ、国常立神、豊雲野神以下
伊邪那岐神、伊邪那美神マテヲ神代七代ノ神トイフ、

以上矛盾及対立至円満完全ハ偶然ナラサル吾人ノ内部ノ要求ナルガ尚
観的ノ要求ナリ之ニ対シ共同ノ意気込、相互ニ他ヲ排斥セス、手ヲ引キ
手ヲ引カレテ以上ノ要求ヲ実現スル主観的気分ナリ、即チ実現力ナリ、氣
合ナリ、氣合次第ニテ價値カ生シヌクナレ、氣合ニヨリテ実効カイヌ
ノゾル所コソ最モ注意スル所、價値トイヒ云トハナレヌ、實有ト云フモ
ノハ何レモ所謂外部ニ固定シテアレモノニ非ラス、但シ斯ル共同ノ意気込
トシテ矛盾及対立至円満完全ノ各要求ヲ達シテ意気アルモノニアラス、コ
ノ神典ニ見エル通り伊邪那岐神、伊邪那美神ノ御行動カ天川神モロモロノ

命モテテ始メル所以ナリ、別天神並ニ神世七代ノ御命令否更ニ深ク
見レハス格ヲ借負ニテ天美ニ神カ天地ノ創設ニ着手シ給ヒタル所以ナリ

第二章 大生命ノ作用(別天神並ニ神世七代ノ)

神々ノ活動)

大生命ノ働キハ万物ヲ作ルコトナルガ万物ハ其大生命ニ外ナ
ラサルヲ以テ大生命ノ働キハ自ら已ラ造ルニトニ敬着ス、此ノ働キナスニハ
意気込ヲ通シテナス、唯冷静ナル機械的變化ノミテナク敬スル所熱情アル
ニ在リ、カニヨリテ行ハル、此ノ意気込ハ偶然ナル発動力ニハ非ス、大生
命ノ表現タル意気込即チ大生命夫自身ニ外ナラス、古事記ニモ、ニ天ツ
神モロモロノみことモテテいざぬぎのみことニコノタダヨヘル國ヲ修メ理
リ國ヲ成セト詔リ言ナテ天ニ石ヲトリ部依シタマヒキトアリ、天ツ神モ
ロモロノみことモテテトイフコトガ岐美ニ神ノ天地創造ノ眼目ナリ、卑近
ニ解スレハみこと止ちマトハ命令ヲ受ケテノ義ナルカ実ハ天ツ神一切ノ人

格ヲ背負ヒテト云フコト・ナル・ニこあまつ神並ニ神世七代ノ神々モ人格ニ合ヘシ之ヲ包蔵シテ世界ヲ始メ給フコトニシテ夫ツ神諸々ノみこしモテテ一切ノ生活ヲ営ムコトカ異國精神ノ勸ク始メノ要件ナリ

第三門 研究方法

第一節 實証論主義 (Positivism)

- 此ノ實証論トイフハ *Herbert Spencer* 等ノ主張セシコトヲ受ケテ *Margot Comte*、大抵セル所ニ據ル・此ノ主義ハ外界外物ニ偏重シ
1. 各自ノ感性知覺 (*Stimulus Wahrnehmung*) ヲ主トスル経験ノミヲ材料トシ
 2. 因果關係ノミニ信賴シ
 3. 純客觀的態度ヲ以テ材料ヲ積ミ置ネ、此等ヲ彙集綜合シテ益々高昇ノ

知識トナサントス

此ノ加三概シテ知覺ヨリ得ル知識ニ重キヲオキ知識ヲ以テ情意ヨリモ更ニ根本的ナリトシ之ヲ以テ情意ノハ説明スル傾アリ、知識ヲ以テ一切人生ヲ洞察シ終リントス

此類ノ研究方法ハ固ヨリ必要不可欠、モノナリ、何者實有ハ知覺ノ對象タル外物ニ依テ表現セラレ社会生活ノ如キモノモ直接又ハ間接ニ之ノ種々外界ト接觸セサルモノナキヲ以テナリ、然シコノ研究方法ヲ以テシテハ其ノ目的ヲ達セ得ラレヌ、コノ方法ハ経験ヲ為シ之ニ依リ得タル意識ヲ彙集綜合スルニ必要ナル觀念及活力タル理想、創設的心算ノ陶冶並ニ純化ニナスモ結局各自ノ勝手ナル独断ヲ根柢トシテ淺薄ナル各自ノ嗜好ノミヲ據ケ自己ノ眼ニ止リタル偶然ナル材料ヲ以テ差当リ体裁ヨク巧ミニ組立ツルモノニ外ナラス、而シテ其ノ結果ハ

人ノ感性知覺ヲ知識、主タル淵源トナシ學問ノ材料トスルコトハ研究者ヲシテ徒ニ差別ニノミ拘泥セシメ事物ノ背後ニ存スル等同級一ヲ認メシムルヲ得、自我、組織、萬我、同体、物我ノ級一ノ如キモ遂ニ不明瞭ニ級

シ正確ヲ欠クコト、ナル、感性知覚ニ依リテハ生命ト云モ之ヲ獲フコト
 難ク、善美ノ判断ハ意味ナキ虚偽ト感セラル、实证論者カ善美ノ判断ニ
 無神経ナルカ又適切ナル判断ヲ有シ得サルハ之レカタメナリ
 2、次ニ实证論者カ原因結果ヲ偏重シ之ヲ過信スル結果ハ愈々外界ノ優勢
 ニ屈服セサルヲ得サルコトニ付キ人我ノ自由ハ忘レラレテ機械ニ異ラサ
 ルニ至ル

3、又コノ主義カ冷静ニ吟味スルコトハ目ナレトモ実有トハ唯純客観的ノ
 モノニハ非ラスシテ社会人性ハ主観的方面ヲ除イテ存在シ得ラレス從ツ
 テ斯ノ如クシテ得タル智識ハ又ケガラナリ、輪廓ヲ畫クニハ便利ナルモ
 実有、まこと夫レ自身、生命ハ表現セラレスシテ皆ザメタルモノナリ、
 以上ト相俟テ实证論主義カ知識主義ニ傾クト愈々其ノ内包テ貧弱ニセ
 サレヲ得ス、感化知覚ヲ主トシ知識ニ傾クトキハ実有ノ主要且ツ根本的
 ナル方面ハ関却セラレ社会人生ノ大部ハ除外セラル、コト、ナル、又時
 時向的ニモ過去ノ事實ハ最早ヤ知覚スル能ハス、未來ノ事實ハ最早ヤ之
 レヲ知覚スルニ由ナシ、現在ト云モ大部分ハ之ヲ指過シスハ大部分ハ強

テ知覚セリ、サレバ結局实证論主義ハ第一局部的材料ノミヲ以テ実観セ
 ハトシ、其ノ揚言スル所トハ正反對ニシテ結論タル知識ハ安心シテ信賴
 シ得サルモノナリ、精細ナル資料ノミヲ材料トシテ公平ニ判断スル如ク
 見ユルモ其ノ実大ナル手又カリアリ、而シテ其レハ如何程正確ナルモノ
 ニテモ多分斯ク判断シ得ルナラント常ニ附加セサレハ決シテ独断ノ誇ヲ
 免レス、实证論ヲ評シテ外觀美ナル材料ヲ以テ裝飾シタル独断ナリトス
 ルハ露骨ニ实证論主義ノ缺欠ヲ言ヒ表シタルモノナリ、

实证論主義、最優等ナル領域ハ人我ノ外界ノ征服ニ必要ナル知識ヲ與
 ハ外物ヲ取リテ吾人ノ生活ノ資トナシ吾人ノ追進ノ材料トナシ吾人ノ
 存在ヲ保障セシメ吾人ノ法勸ノ対象トナスニ不可欠ノ知識ヲ穿鑿スルコ
 トニアリ、例ハ食物ノ調理法、道具ノ使用法、ヤガテハ銃砲ノ取扱方
 等感性智識ヲ主トスル実験ニヨリテ得タル知識ニ從ハサル可カラズ、外
 物外界ノ客観的存在ヲ認識セントスル自然科学ノ領分ニ於テハ充分精密
 ニシテ殆ント後キ差シ能ハサル如シ、然シ外界ニ於テ後キ差シ能ハガ
 ル大ケ内界ニ對シテハ袒瀆モ亦極レリ、精神科学ハ人我ノ主観的存在ト

尚レ其ノ内面的經驗ヲ鍛鍊シ之ニ本キテ更ニ生活經驗ヲナシ材料ヲ回
收シ彙集綜合ヲモセサルハカラサル為メコノ方面ニ於テハ真正主義ハ唯
卑近ノ實ニ依テノミ利用セラルル可キモノタルニ過キス、精神現象ヲ外界
トシテ觀察シ得ル範圍ニ於テハ多少役ニ立ツモ精神夫自身ハ到底斯ノ如
キ研究方法ノミニテワカルモノニ非ラス、而シテアラユル感性知覺ヲ主
トスル經驗ヲナシ之ヲ彙集綜合スルニハ非常ナル多數ノ人ヲ要シ此等ノ人
カ手分ケヲシテ共同研究ニ從事セサル可ラサルガ自然科学ノ領域ニ於テ
モ精神科学ノ領域ニ於テモ常ニ理想觀念ノ陶冶ヲ屬分トスル指揮ノ下ニ
立ツサルヘカラス、理想論主義ノ本根ハ哲学及宗教ナリ、

理想論主義ヨリ云ヘハ哲学及宗教ハ社会人生及學問ノ重要ナル基礎
愈ヲ吟味シ且ツ之ヲ陶冶スルモノニシテ最モ深ク最モ広大ナル生活經
驗ヲ必要トスルモノナルガ實証論主義ノ見地ヨリシテハ宛モ独断迷信ナ
ルカノ如ク見ユ、此ノ實証論主義ニ於テハ學問ヲ以テ唯自然下界ニ對ス
ル知識ヲ整理シ比較抽象シテ作りタル現象知^的識ナリトシ科学モ所謂哲学
モ此ノ實ニ於テハ同様ナリトス、從テ社会学ノ存在ヲ認めルモ哲学ノ存

存ヲモトメスタトヘ哲学ヲ唱フニモノアルモ一種ノ自然科学類似ノモノ
トシテモ取扱ヒ各ハ哲学ナルモ實ハ科学通論ナリ

第二節 理想論主義

理想論主義又ハ觀念論主義モ十九世紀以降ニ至リテハ經驗ヲ重視スルカ
如キコトハセス、精神ハ生活經驗ヲ除キテハ無ク、精神ハ必ラス時間ヲ該
定シテ實ニ於テ自ら發展スルコトヲ理想主義、立場トセリ、仍テ吾人ノ内
部ニ備レル先驗的觀念ヲ分析シ吟味スルコトサヘモ生活經驗ヲ離レテ行ツ
トハセズ、經驗ヲ知識ノ資料トスルノミナラズ、經驗夫レ自身ヲ實有ノ表
現トスルモノナリ、然レ真正論者力感性知覺ニ依ル經驗ニ範圍ヲ限テ實有
ヲ認トムルモノト異リ生活經驗ニヨリ養ヘラル理性及創設的ノ心灵ノ要
素ヲ以テ重要ナル實有ノ表現トナシ學問ノ主要ナル實度トセリ感官
inner organ ヲ以テスル經驗ノ如キハムシロ斯ル理性心灵ノ監
督ノ下ニミトメラル、モノトス、換言セバ理想論主義ハ感性知覺ヲ排斥セ
サルモ之ニ對スル理性ノ優勝ヲミトメ且ツ理性ニヨル經驗及ヒ認識ノ可能

ヲモ認ムルモ、ナリ、仍テ先ツ生活經驗ニ本キテ活カタル理想ヲ綜合シ、理想ヲ養ヒ創設的心灵ヲ刺戟シ之ニヨリテ實ニ經驗ヲナシ理想ノ要求ノ下ニ此等ノ經驗ヲ決ハ分析シ或ハ綜合シテ知識ノ本系ヲ立テントス、而モコノ主義、中理想ヲ主觀ニ求メテ出發スルカ客觀ニ求メテ出發スルカニ從ヒ自由理想論ト客觀理想論トノニ主義ヲ區別スルヲ得

第一款 自由理想論

自由理想論ニヨレハ実者ハ各自カ熱情ヲ収テ其ノ理性ヲ鍛鍊スル所ニ過ル、自ラ油断ナク鍛煉シツ、アル理性其ノモノガ実者ナリ感覺生活ノ如キハミヲ修養刺戟スル方法ニ外ナラズシテ熱情アル創設的理想カ働クニ當テ用ヒラル可キ道具トナリ、不可欠ノ資料トナルノミナリ、実者ハ唯有ルモノニ非ラス、追進ノ原動力タル理想其ノモノニシテ創設的心灵其ノ物ナリ人我其ノ物ナリ、創設的心灵トス外部ニアルモノニアラス實ニ自我ノ心灵ニ外ナラス

實ニ自我ノ心灵ニ外ナラス

而シテ諸君各我ノ活シテニ鍛着ス、創設的心灵即チ活生命ノ因縁ノ法則ヲ超越セル自由ナル存在ニシテ、此ノ生命ノ自由創設ヲ前提スルニヨリ真正の知識モ亦知識トシテ成立シ得ルモノナリ、然シ之レト同時ニ此ノ創設的心灵ノ自由ハ其ノ制約セラレ、所ニ現レ得可キモノニシテ實ニ制約セラレサル無限ノ自由ハ自由ト云フ可キモノニアラス、例ヘハ金銀財宝ノ無限ナル世界ニ入ルモ之ヲ見ル可キ銀、ワカムベキ手モ、包ムヘキ風呂敷モナケレハ、財宝ノ世界ハ無ク、夢ノ世界アルノミト云ハサルヘカラス、然シ眼アレバ及テ無限其ノ物ヲ見ル能ハス、手ヲ以テハ有限ナル財宝ノミヲツカムニ止マリ、風呂敷ハ如何ニ大ナルモ必ス其ノ制限アリ、制限ナキ耳目手足風呂敷ハ有レ夫亦ナキニ等シ

耳目手足風呂敷即チ制限ナリ、之ト同時ニ見ル可キ対象ナリ、ツカムベキ金銀、包ムベキ財宝ナケレバ耳目手足風呂敷ハ此等ノモノトシテ存在スベキ甚ナシ

然レトモ創設的心灵ノ自由トシテ制限スルモノハ上ノ例ノ如ク、金銀ト風呂敷トノ關係ノ如ク外部の機械的ノモノニ非ズ、生命ノ自由カ自ラ内部

ヨリ設定セルモノナリ、例へハ自我ノ創設的心其ノ能力自身カ其ノ要求ニ依リ耳目手足等ヲ設定シテ作用ス、耳目手足等ノ形式カ偶然ニ外部ヨリ附着セル爲メニ各般ノ能力生シタルニハ非スシテ生命及ヒ其ノ(ヘ、メ、マ、)生活ノ要求ヨリ己ノ延長タル耳目手足等ヲ發育セシメ之レトハナレズニ特殊ノ能力ヲ有スルナリ、而シテ己ノ延長ヲ作ルト云フコトハ即チ自己ヲ制約シツ、アリトイフコトニシテ耳アレハ即チ耳トシテ作用ヲナスノミニシテ眼ハ眼ノ作用ヲナスノミニ、斯クミテ方般ノ真正の知識ハ皆自由ナル理想ノ延長トシテ理想ノ設定シツ、アル制限ト云フベク、此ノ制約アルハアル程度自由ナル理想トナリ、益々具体的トナリ益々實現セラレツ、榮ハユクモノナリ、自我内部ノ熱情トシテ輝ケル理性ハ唯冷ニ固定セルモノハ非スシテ眞善美ノ絶ヘザル創設者トシテアルガ故ニアラシメツ、アル進進的功名ナリ

コノ理性ハ自ら其ノ限界ヲ設定スルニ依リ存在シ得ルニ至ルモノニシテ真正の知識及ヒ実止主義其レ自身ハ理性カ已ニ映ヘツ、アル限界ノミ制約ノ方法ノミ、仍チ唯無制約ノ無限ナル本質ノミニテハ有トモ無トモ云ハレサルモ其ノ限界、制約方法ノミニテハ實質ノモノナラス、制約其レ自身モ亦空虚ニ歎ニ終ル、於是乎學問殊ニ精神科学ハ生命其レ自身ノ研究ニ付テハ勿論、生命ノ制約方面ヲ研究シ實証的知識ヲ羅列セムトスル場合ニ於テモ如何ニシテモ理想信仰ヲ因却スルヲ許ナス、理想信仰其レ自身ヲ知ラサレハ其ノ若カ自テ設定セル制約ヲ根本的ニ知り得ヤウ等ナケレハナリ、生命ハ唯自然ニ有レトカ無シトカ云ヒテ満足スル能ハス、一切ノ自然ノ大勢ヲ利用シ殊學ヲ實現シ行ク原動力ナリ、将来如何ニナルカワカラストイフ事ナドニ生命ハ存セス、否疑フ、モ維局一切ノ障害ヲ轉化シテ利用シテ生命ヲ業ヘシメントスル要求ニ基クモノニシテコノ要求ヲ油斷ナク結構スルモノカ生命ナリ、実存ノ本質ナリ、斯ル生命ナル故、生命及其ノ現象ヲ研究スルニハ生命其レ自身ニ入り込ミ内部ヨリノ声ヲ聞キ、創設カタル理想信仰其モノニ一致スル修養ヲ必要トシ之ニヨリ眞ニ生命ノ認識ニナリ、其ノ外周末端認識カ出来複雑ナル知識ヲマトメルコトヲ得ルコトニナル、尚ホ學問ハ唯既存セシ事實及法則ヲ涉獵シ現在ノ事實ヲ詠述スルタケノモノ非ラス、是ノ如キコトハ固ヨリ重要ナルカ更ニ根本的ニ永遠ニ亘リテ斯

クアルベシトスル法則、カクアルベシトスル事物ノ本質ヲ既往ト現在ト未
 来トニ拘泥セスシテ現出スヘキモノナリ、學問ハアルカ故ニアラシム
 ル追進其自身ノ表現ニシテ普遍的法則及ヒ普遍的事實ノ認識ナラサル可
 ラス、法則トカ事實トカ云フコト自身ノ中ニ既ニ未ニ於テモ變ラズ有効
 タルベキ要求ヲ具備シ居リ、然ラザルモノハ法則トモ事實トモ云フ能ハス
 過去ト現在トノミニ拘泥スルトキハ法則事實モ以テ非ナルモノトナル、而
 シテ此等ノ普遍的法則及普遍的實事ト此等ニ附着シテ之ヲ制限スヘキアラユ
 ル現實及情實トノ關係ヲ明ラカニスルコトハ極メテ必要ナレトモ要ハズ等
 ノ中ヨリ自由創設カタル理想ヲ現出スコトニアリ、自ラ他ノ事實、原因ト
 ナリテ創設スル心冥即チムスビヲ稱榮エシムルニ在リ、諸般ノ實証的知識
 ノ如キモ此ノ創設カガ自己ヲ制約スルタメニ設定スルモノ故、ツマリ創設
 カガ具ノ一方向ヲ客観化シテミトメ居ルモノナリ、即チ創設カノ延長ナリ
 サレバ實証的ノ知識ハ決シテ理想心冥ヲ否定セサルノミナラス、斯ル知識
 ノ益々精密複雑トナルハ理想心冥ノ愈々進歩スルヲ意味ス、理想心冥ハ自
 我ノ主観ナル故、其理想主義ト云ヒ自由創設タルガ故ニ自由理想論主義
 ト云フ

第二款 客観理想論（汎神論、萬有神論）

實有ハ自我ノ中ニ在リ、アルソノ生命ナリ、氣シテ清明心、活動ノ事
 實理法、外物等ヲ統括スル自我ノ生命ハ自然ナル生命ニハ非スシテ
 絶対ニ拡張サレタル生命ナリ、實有ハ絕對ノ大生命、表現タル自我生命ナ
 ラサル可カラズ、實有ハ結局万我乃至万物ノ故ハスル唯一人ノ生命ナリ、
 大人格ナリ、之ヲ分析シテ認識スルニ當リテモ先ツ吾ヲ万我乃至万物ニ括
 張スルニ當テ有セル自我ノ根本意義ヲ以テセサル可カラズ、自我ハ但ニ偶
 然ナル意識ニ本カスシテ既ニ既ニ万人万我ノ生活經驗ニヨリテ吟味シタル
 意識ニ合シテ之ヲ提テ認識セサルヘカラス、内外自他ニ係ラザル人我ノ意
 識即チ外學ニ有效ナル超個人的意識ヲ以テ出發スルカ故ニ遍ク實有ヲ認識
 三得、自我ハ他人ニ対シテハ自分ナルガ他人ハ他人ニ対シテハ自分ナ
 リ、又内部的ノ存在ナルガ外部的存在トモナル、内ナルモノハ外ナルモノ
 外ナルモノハ内ナルモノ、思惟スルモノハ又思惟セラル、モノナリ、サレ
 ド同等ナルモノニヨリテノミニ平等ナル存在ヲ認識シ得ハシトスルハコノ意
 味ニ於テ正確ナリ、

法理学 終

大正十三年九月八日印刷
大正十三年九月十二日發行

(非賣品)

編輯兼
發行者

東京市麹町區飯田町三丁目九番地

矢田長次郎

印刷所

同

北光社

振替口座東京三五一番

14
736

終

